

令和 7 年度

弘前市ごみ減量・リサイクルに関するアンケート調査結果

令和 7 年 12 月

弘前市

目 次

1. 調査の概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査対象・抽出方法	1
(3) 調査方法	1
(4) 調査対象期間	1
(5) 回答状況	1
2. アンケート調査から見えたごみ処理に関する意識と課題	2
(1) ごみ処理に関する意識	2
(2) アンケート調査結果から見えた課題	2
3. 市民アンケートの集計結果	3
(1) 調査結果の要約	3
(2) 集計結果	5
4. 事業所アンケートの集計結果	46
(1) 調査結果の要約	46
(2) 集計結果	47
参考資料：使用したアンケート調査票	資料 1
参考資料 1：市民アンケート	資料 2
参考資料 2：事業所アンケート	資料 13

1. 調査の概要

(1) 調査目的

本市では現在、次期「弘前市一般廃棄物処理基本計画」（計画期間：令和8年度～令和17年度）の策定作業を進めています。アンケート調査は、市民・市内の事業者を対象に、ごみ排出状況や減量・リサイクルについての意識調査を行い、その実態や傾向を把握するとともに、課題等を分析し、より実効性の高い計画や施策を策定するため実施したものです。

(2) 調査対象・抽出方法

市民：住民台帳に登録されている18歳以上の市民1,000人（無作為抽出）

事業所：市内の民間事業者200件（無作為抽出）

(3) 調査方法

郵送により調査票を発送※1し、回答方法は紙面での回答もしくはWEBによる回答のいずれか選択式としました。

なお、回答は無記名方式としています。

※1：調査票は、令和7年8月29日に発送。

(4) 調査対象期間

令和7年9月1日～10月31日※2

※2：アンケート調査期間は令和7年9月26日としていたが、10月31日到着分までを有効とした。

(5) 回答状況

アンケートの回収状況は下表のとおり、市民412件（回答率41.2%）、事業所92件（回答率46.0%）となりました。

	①紙面回答	②WEB回答	①+②合計（回答率）
市民	302件	110件	412件(41.2%)
事業所	54件	38件	92件(46.0%)

備考：回答率は次のとおり算出

回答率=回答数の合計/発送数×100

（市民回答率=412/1,000×100）

（事業所回答率=92/200×100）

2. アンケート調査から見えたごみ処理に関する意識と課題

アンケート調査を踏まえて、弘前市におけるごみ処理に関する意識及び課題を整理しました。

なお、アンケート調査結果は、後述の「3. 市民アンケートの集計結果」及び「4. 事業所アンケートの集計結果」をご覧ください。

(1) ごみ処理に関する意識

アンケート調査結果から、市民及び事業所のごみ処理に関する意識は次のとおりとなりました。

対象	意識
市民	<ul style="list-style-type: none">多くの市民がごみの減量化や資源化といったごみ処理問題に高い関心を持っている。ごみの減量化や資源化への取組みとして、日常生活で取り入れやすい項目は多くの方が実践している。一方、手間と感じたり利便性を重視する声も見られる。本市のごみ問題について、「ごみ排出時のマナーが悪い」「ごみ分別の意識が低い」と感じている方が多く、ごみ問題に対する個々の意識を指摘する声が多く見られる。市が実施しているリサイクルの取組みについて、スーパーなどで目に入りやすい内容は認知度が高いものの、馴染みの薄い項目は知らない人が多い。今後の市の施策として、「情報提供や意識啓発」「不法投棄の取り締まり強化」が重要だと感じている。また、「ごみ収集の有料化」についても検討すべきとの意見も一定数ある。さらに、環境教育を充実させるべき、ごみ処理状況を可視化すべきとの意見もみられた。
事業所	<ul style="list-style-type: none">事業所内でのごみの減量・資源化のため取り組みを行っている、今後取り組みたいと考えている事業所が多く、ごみの減量・資源化に関心を持っている。事業所から排出されるごみのうち、紙類やプラスチック容器類は、特に排出量が多い傾向にある。排出された古紙類はリサイクル業者に引き渡している事業所が多い。プラスチック類は分別を行っている事業所が多い。食品残さが排出される事業所のうち、調理方法の工夫などで食品残さを減らす取り組みを行っている事業所もあるが、多くの事業所では特段取り組みを行っていない。ごみ減量・リサイクルを進めていく上での課題として、分別作業等が手間を感じていたり、従業員に周知・浸透させていくのが大変だと感じている。市が実施しているリサイクルの取組みについて、オフィス町内会、てまえどりキャンペーン等、特定の項目は認知度が高いものの、認知度が低い項目もある。今後の市の施策として、多くの事業所では「指導強化」「リサイクル事例紹介」「ごみ処理に役立つ情報の充実」を実施してほしいと感じている。

(2) アンケート調査結果から見えた課題

アンケート調査結果から見えた課題を、次のとおり整理しました。

市民、事業所いずれかが持つ特定の課題だけではなく、共通の課題があると考えられますので、市民、事業者、行政の三者協働で本市のごみ処理に参画し、考え実行していく必要があります。

アンケート調査結果から見えた課題
<ul style="list-style-type: none">ごみの減量化や資源化に対しての関心は高いものの、資源物のリサイクルについて、「手間がかかる」「分別がわかりにくい」という声が一定数あることから、市民・事業者が取り組みやすい減量化・資源化の方策を検討し、推進していく必要がある。紙類、プラスチック類、食品ロスの削減といった、生活や事業には欠かせないものの、大きな改善が図れる可能性のある品目について、重点的に削減・資源化に取り組み、ごみ処理全体の改善に寄与させていく必要がある。市一体として、ごみの排出や分別の意識やマナーを向上させる必要がある市の取組み（施策）について、全般に認知度を向上させる必要性があるため、情報発信や啓発、環境教育を充実させていく必要がある。

3. 市民アンケートの集計結果

(1) 調査結果の要約

設問はQ1～Q16まであります。設問ごとの回答状況の詳細は【集計結果】に記載していますが、ここでは、要約した回答内容を記載します。

●選択式設問の要約

- ・回答者のうち、各資源物は「行政回収に出している」と回答している割合が高いが、紙パックや食品トレー、衣類については「燃やせるごみに混せて出す」と回答した人の割合が目立った。(Q2)
- ・資源物を燃やせるごみや燃やせないごみに出す理由を聞いたところ、手間・面倒、分別がわかりにくいといった回答が一定数見られた。また、紙パックや新聞等を再利用してから燃やせるごみに出すという記述も見られた。
- ・ごみの減量化や資源化への関心について、「非常に関心がある」もしくは「ある程度関心がある」と回答した人の合計が約86%となっている。(Q4)
- ・日頃から実践している取り組みについて多くの項目で「実践している」と回答している割合が高いものの、「生ごみをたい肥化させたり、土で分解する」の実践率は低い。ただし「今後取り組みたい」と考えている人も半数近くいる。(Q5-1)
- ・ごみ問題に関する課題について、「過剰包装や使い捨て商品・容器が多くごみとなってしまうこと」「ごみ排出時のマナーが悪いこと」「ごみ分別の意識が低いこと」と回答している割合が特に高い。(Q6)
- ・家庭で食材が無駄にならないようにしているかという質問について、「いつもしている」もしくは「ほとんどしている」と回答した人の合計が約83%となっている。(Q8)
- ・家庭で食材を捨てる理由として、「調理時に必要のない部分を捨てる」と回答した割合が約46%となっている。(Q9)
- ・食品ロスを出さないために普段行っていることは「賞味期限、消費期限の近い食品を早めに使う」「食品は必要な分だけ買う」と回答している人の割合が特に高い。(Q10)
- ・市が実施しているリサイクルに関する取り組みについて、「知っている」もしくは「利用・参加したことがある」と回答した割合が高い項目は以下のとおり。

てまえどりキャンペーン 衣類の回収 古紙類回収 小型家電回収

一方で、その他の取り組みについては「知らない」と答えた割合が高く、認知してもらうところから始める必要あり。(Q11)

- ・ごみ減量やリサイクルを進めるうえで、「市民に対するごみ・リサイクルに関する情報提供や意識啓発」「不法投棄の取り締まり強化」が重要だと感じている。また、回答割合は高くないものの、ごみ収集の有料化についても必要と感じている人は一定数見られた。(Q12)
- ・市からの情報提供は「広報ひろさき」「町内の回覧板」「テレビ、ラジオ」が使いやすいと感じている。(Q13)
- ・有料で各家庭の間口まで大型ごみを収集に行くサービスについては「便利だと思うが、有料であれば今まま集積所まで持つて行く」と回答した割合が最も高かったものの、「有料であれば金額次第では便利だと思う」と回答した割合も比較的高い。(Q14)

●自由記述設問の要約（主なもの）

- ・市民全体のごみ処理意識・マナーの問題。市民意識が、ごみ減量やリサイクル向上が進まない要因のひとつではないか。
- ・市の広報などでごみ処理の現状（リサイクル率・進捗・問題点）を定期的に示し、意識付けを図るべき。
- ・情報伝達手段はデジタルと紙の双方が必要。高齢者やネット非利用者への配慮が求められる。
- ・ごみの出し方、分別がわかりにくい、地域差があるため、明確にしてほしい・わかりやすくしてほしい等の意見
- ・収集頻度の少ない品目の収集回数を増やしてほしい
- ・ごみ収集時間が遅くなりすぎないでほしい（特に生ごみはカラスに荒らされる）
- ・身体が不自由な人や高齢者のためのごみ処分の情報発信やサポート
- ・リサイクルステーションの増設、衣類・トレー・紙パック・容器類など回収品目の拡充やスーパー等との連携。
- ・指定ごみ袋などのごみ有料化への是非（有料化してほしい・してほしくないの両意見あり）
- ・ペットボトルのキャップ回収
- ・不法業者のごみの持ち出しや不法投棄の問題提起
- ・出前講座などの環境教育の強化
- ・事業所や小売業への指導強化 等

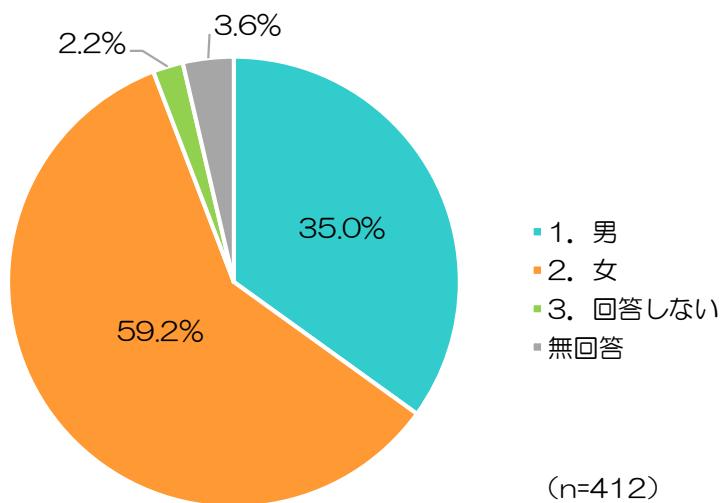
(2) 集計結果

(回答者に関する情報について)

Q1 基本的事項

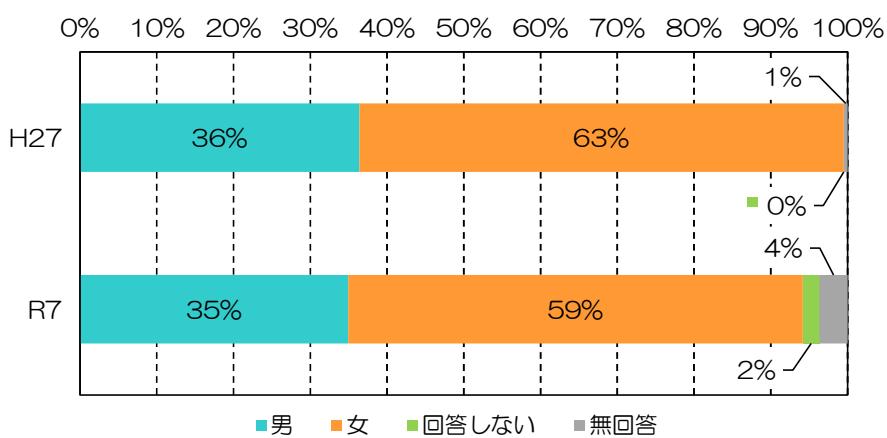
Q1-1 性別

回答者のうち、約 35%が男性、約 59%が女性でした。



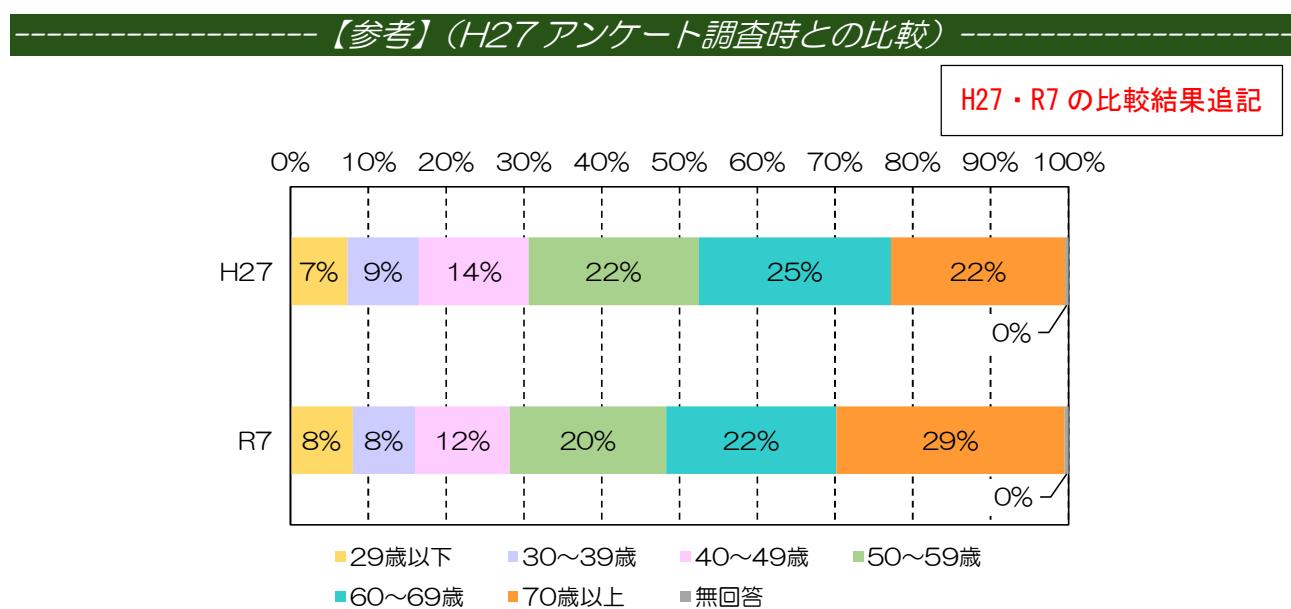
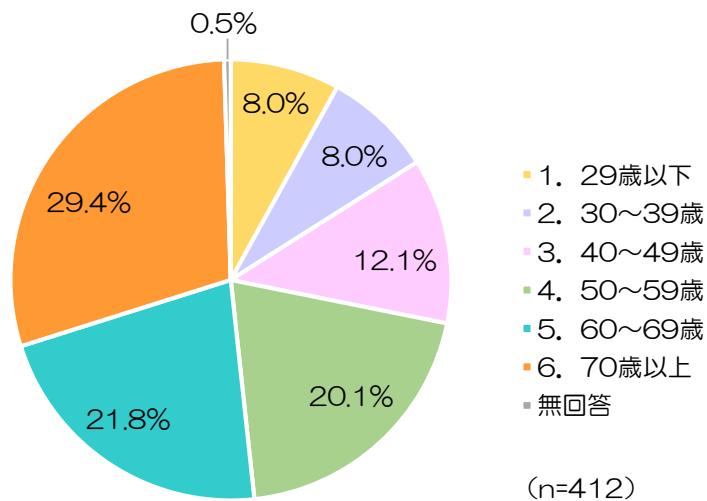
-----【参考】(H27アンケート調査時との比較) -----

H27・R7 の比較結果追記



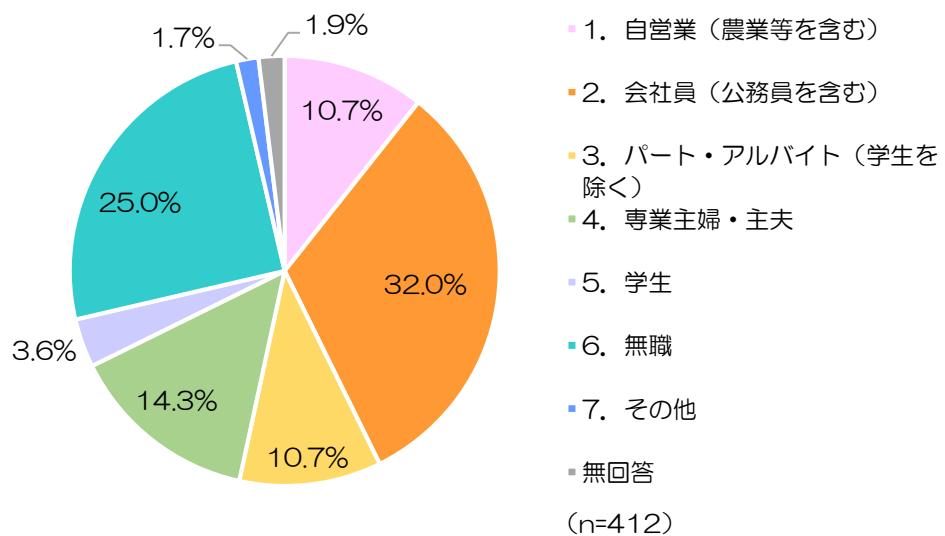
Q1-2 年齢

回答者は50歳代以降の年代の比率がやや高いですが、29歳以下、30歳代、40歳代もそれぞれ10%前後回答しており、比較的、各年齢層の回答が得られていると考えられます。



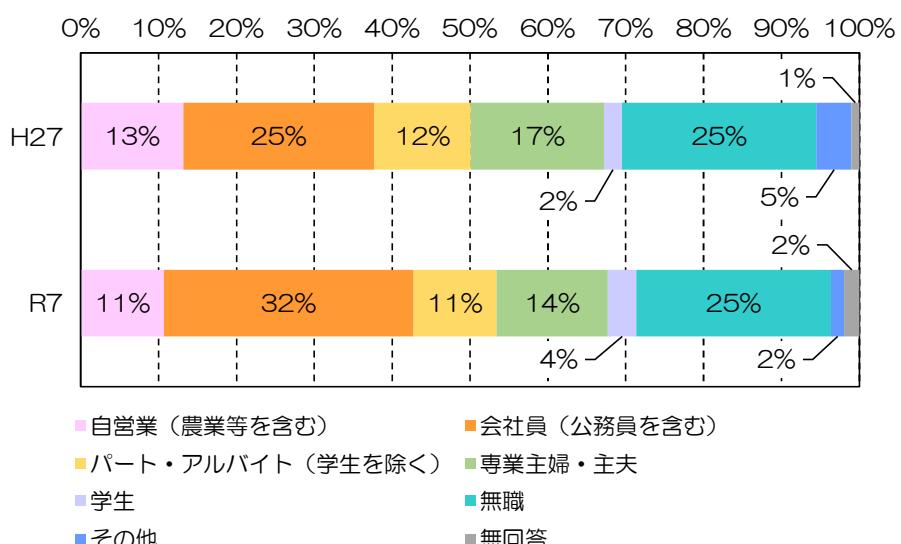
Q1-3 職業

回答者の職業は、会社員（公務員を含む）が最も高く、次いで、無職、専業主婦・主夫と続きました。



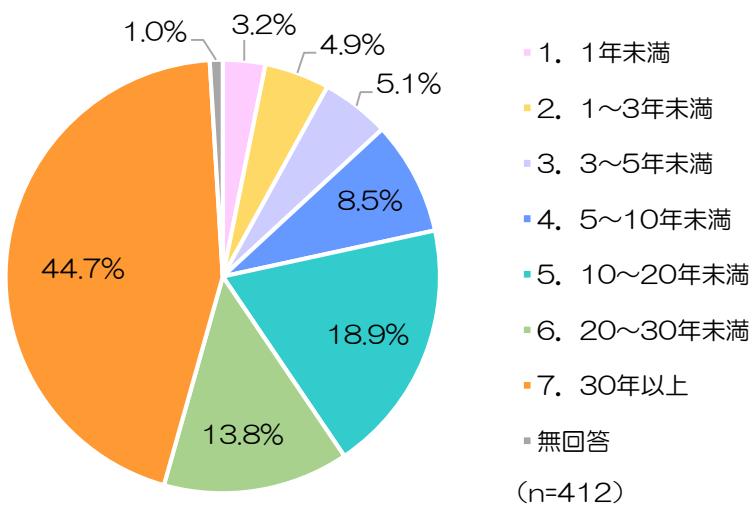
-----【参考】(H27アンケート調査時との比較) -----

H27・R7 の比較結果追記



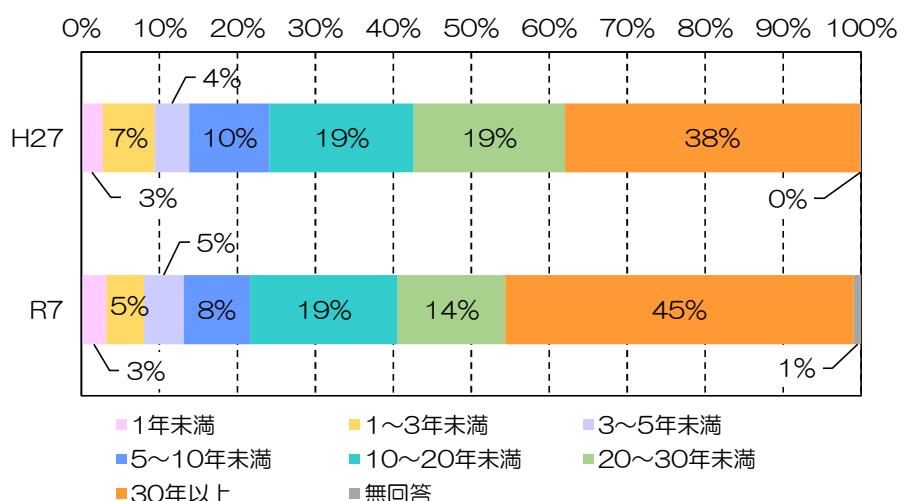
Q1-4 居住年数（市内で引っ越した場合は現在の住所になってからの年数）

回答者のうち、居住年数が10年以上の人は全体の約77%にのぼり、回答者の多くが本市に長く居住している方となりました。



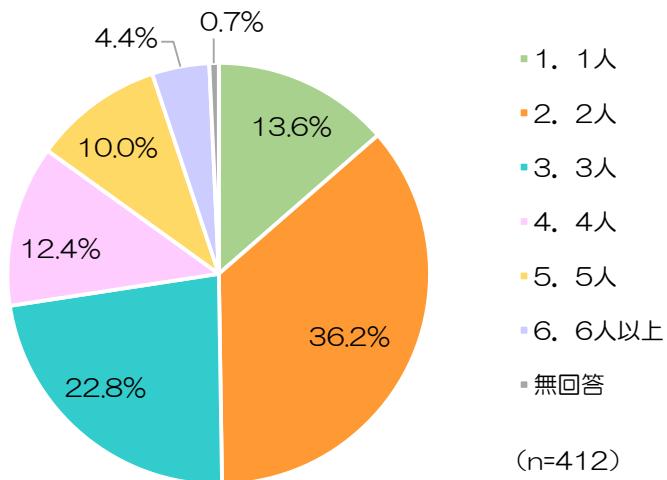
-----【参考】(H27アンケート調査時との比較) -----

H27・R7 の比較結果追記



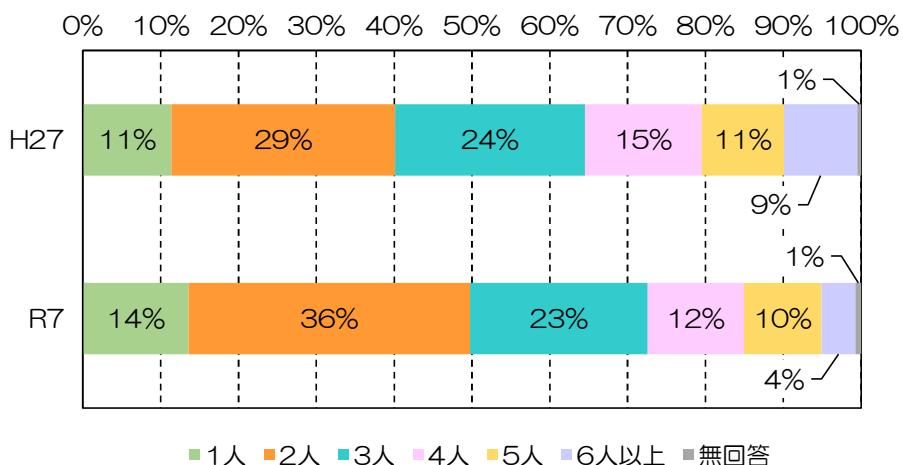
Q1-5 同居人数（回答者自身を含む）

回答者の同居人数は、2人以上を選択した人が全体の約86%となります。1人と回答した人も約14%いました。



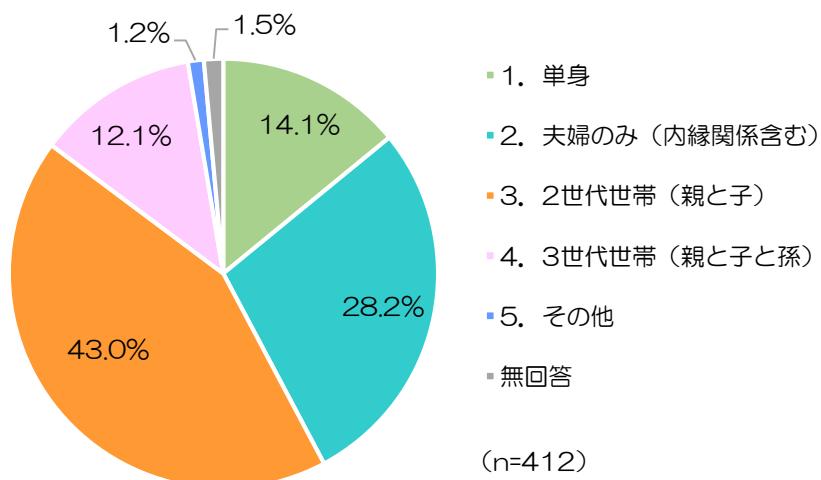
-----【参考】(H27アンケート調査時との比較) -----

H27・R7の比較結果追記



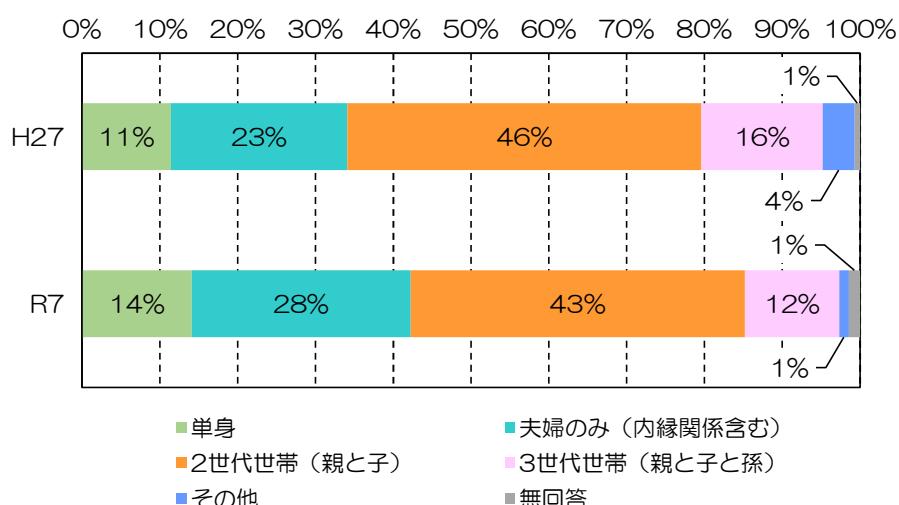
Q1-6 世帯構成

回答者の世帯構成は、2世帯（親と子）と回答した人が約43%、次いで夫婦のみ（内縁関係含む）、単身と続きました。



-----【参考】(H27アンケート調査時との比較) -----

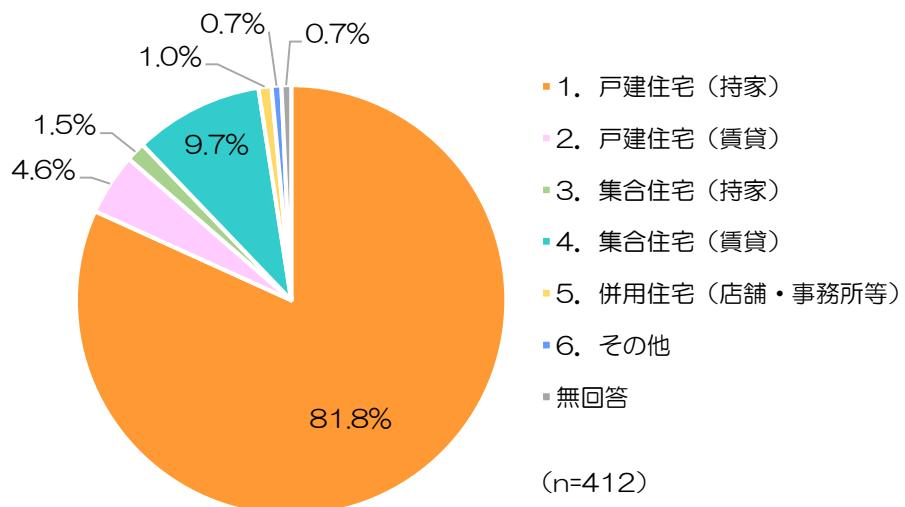
H27・R7 の比較結果追記



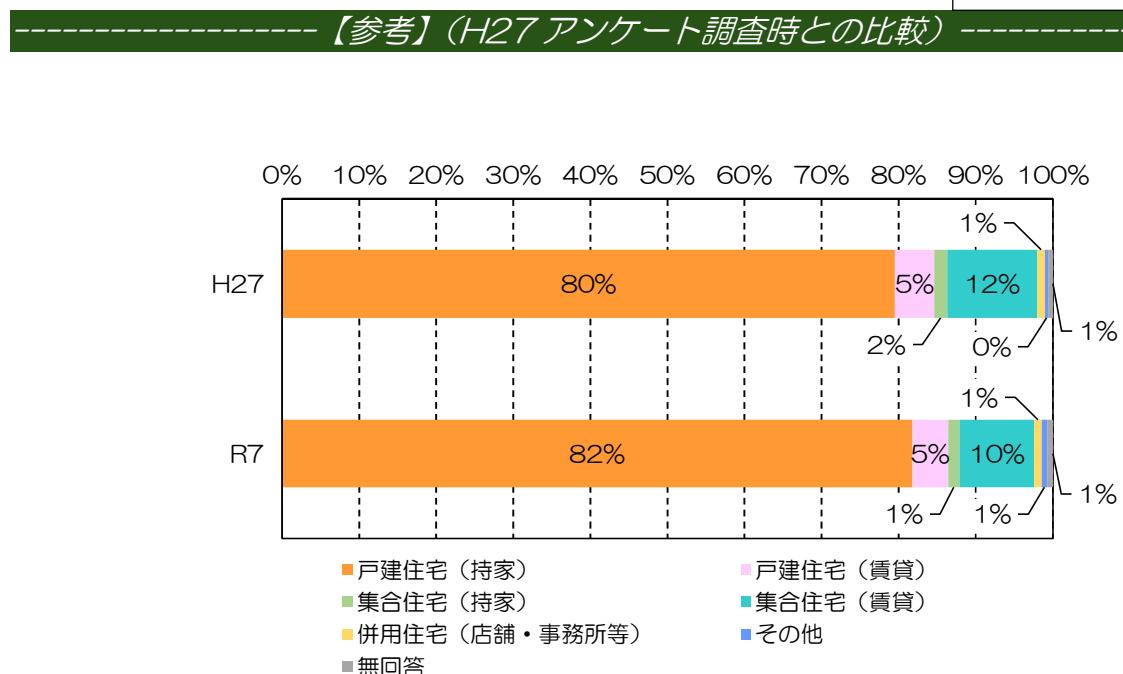
Q1-7 住居の種類

回答者の住居の種類は、「戸建住宅（持家）」が約82%と最も高くなりました。

Q1-4（居住年数）において回答者の居住年数も長く、本問では持家比率が高いことから、今回のアンケートの回答者は弘前在住歴が長く、弘前市のごみ排出実態に長年かかわっている方からの回答が多いと考えられます。

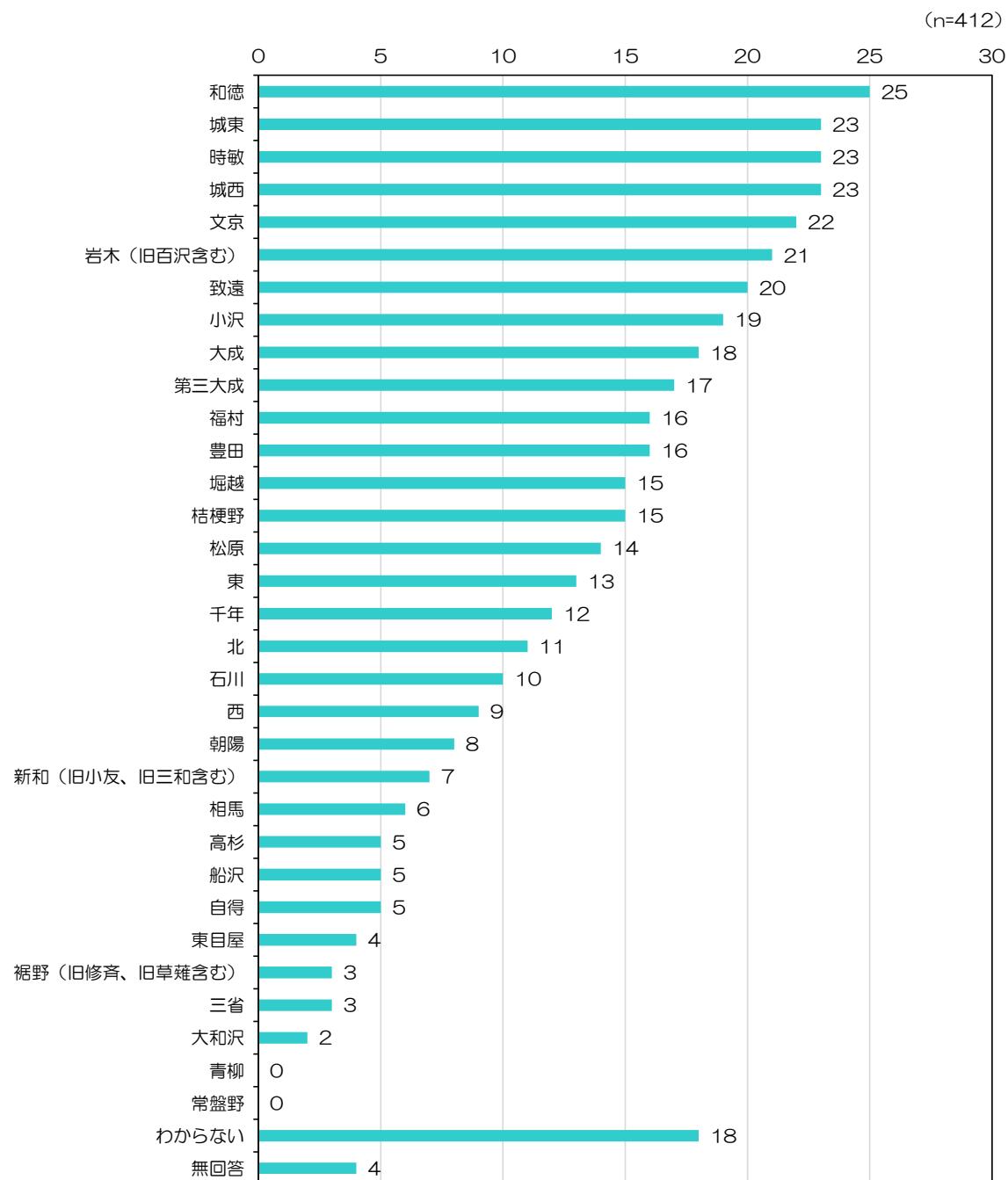


H27・R7 の比較結果追記



Q1-8 居住地域（小学校区）

回答者のお住まい（小学校区）を聞いたところ、「和徳」が25件と最も多く、次いで「城東」、「時敏」「城西」「文京」と続きました。



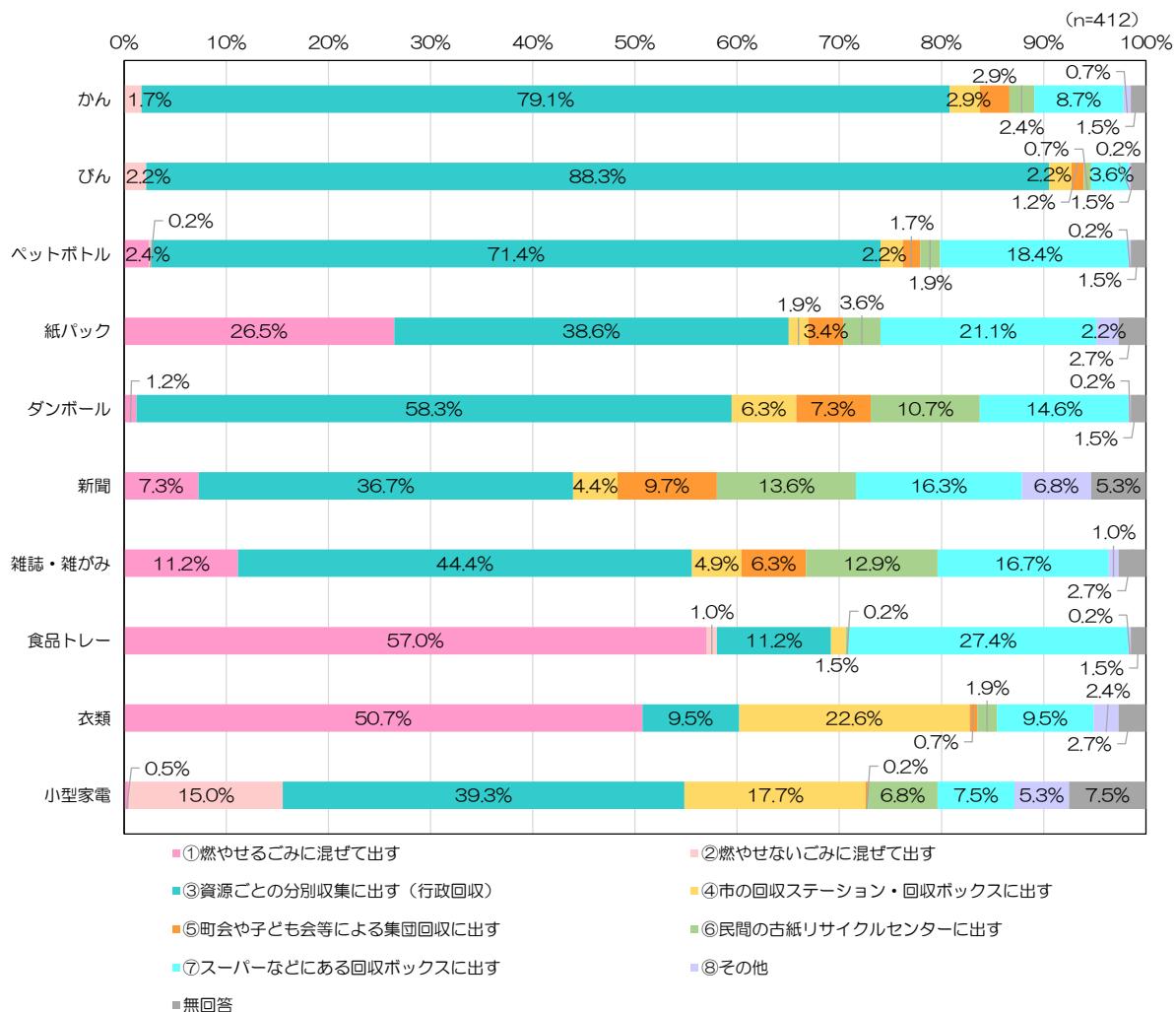
(資源物の排出方法について)

Q2 家庭では資源物をどのように排出しているか。(品目ごとに主な処分方法を1つ選択)

資源物の品目別に排出方法を尋ねたところ、かんやびんなど、多くの資源物は「資源ごとの分別収集（行政回収）」と答えた割合が高くなりましたが、紙パックや食品トレー、衣類については「燃やせるごみに混ぜて出す」と回答した人の割合が目立ちました。

また、衣類や小型家電は市の回収ステーションや回収ボックスに入れるという方も20%前後おり、品目により、排出方法に違いが見られました。

「その他」を選択した方で、リサイクルモア（民間のリサイクル業者が運営するごみ回収施設）を活用しているという意見も見られました。

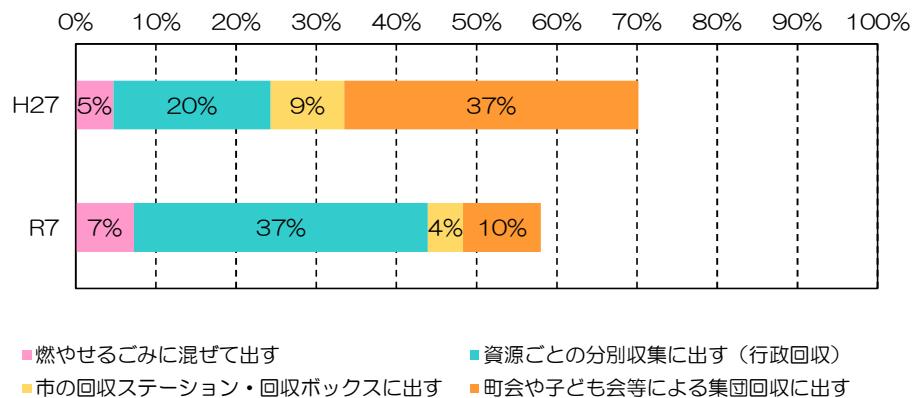


-----【参考】(H27アンケート調査時との比較)-----

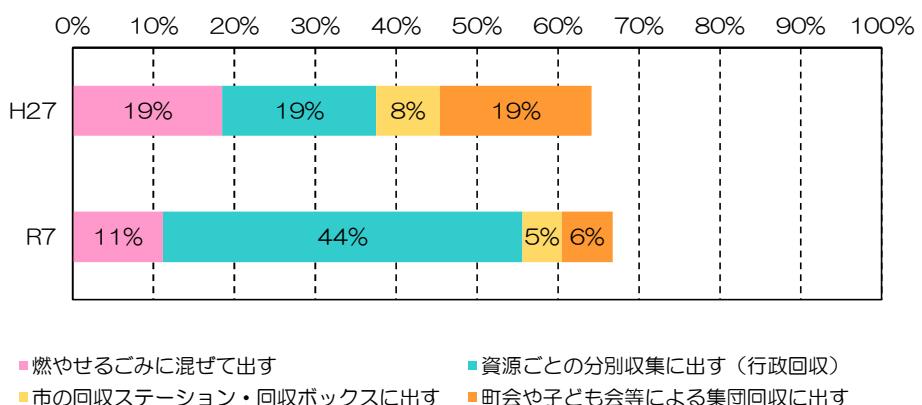
平成27年度と比較すると、今回調査（令和7年度）では、資源ごとの分別収集（行政回収）に出す人の割合が増えています。

（注）今回アンケート調査（令和7年度）と平成27年度アンケート調査では、項目や選択肢が一部異なるため、比較可能な項目及び選択肢を抽出しています。

新聞



雑誌・雑がみ



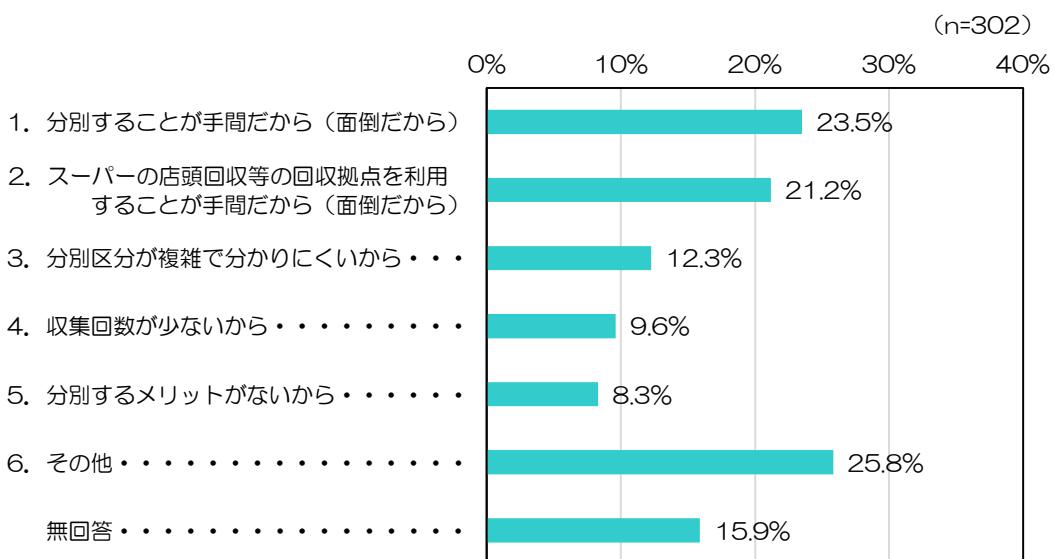
Q3 【Q2で「①燃やせるごみに混せて出す」または「②燃やせないごみに混せて出す」に1つ以上回答した方のみ】

資源物を「燃やせるごみ」や「燃やせないごみ」に混ぜて出している理由について。

(該当する選択肢全て選択)

資源物を「①燃やせるごみに混せて出す」または「②燃やせないごみに混せて出す」と答えた方にその理由を尋ねたところ、手間・面倒であることや、分別方法がわかりにくいといった回答割合が高くなりました。また、紙パックや新聞等を再利用してから燃やせるごみに出すという記述も見られました。

なお、年代別で見ても、どの年代も手間・面倒であることや、分別方法がわかりにくいといった回答割合が比較的高い傾向にあります。



(「その他」の内訳)

【全般】

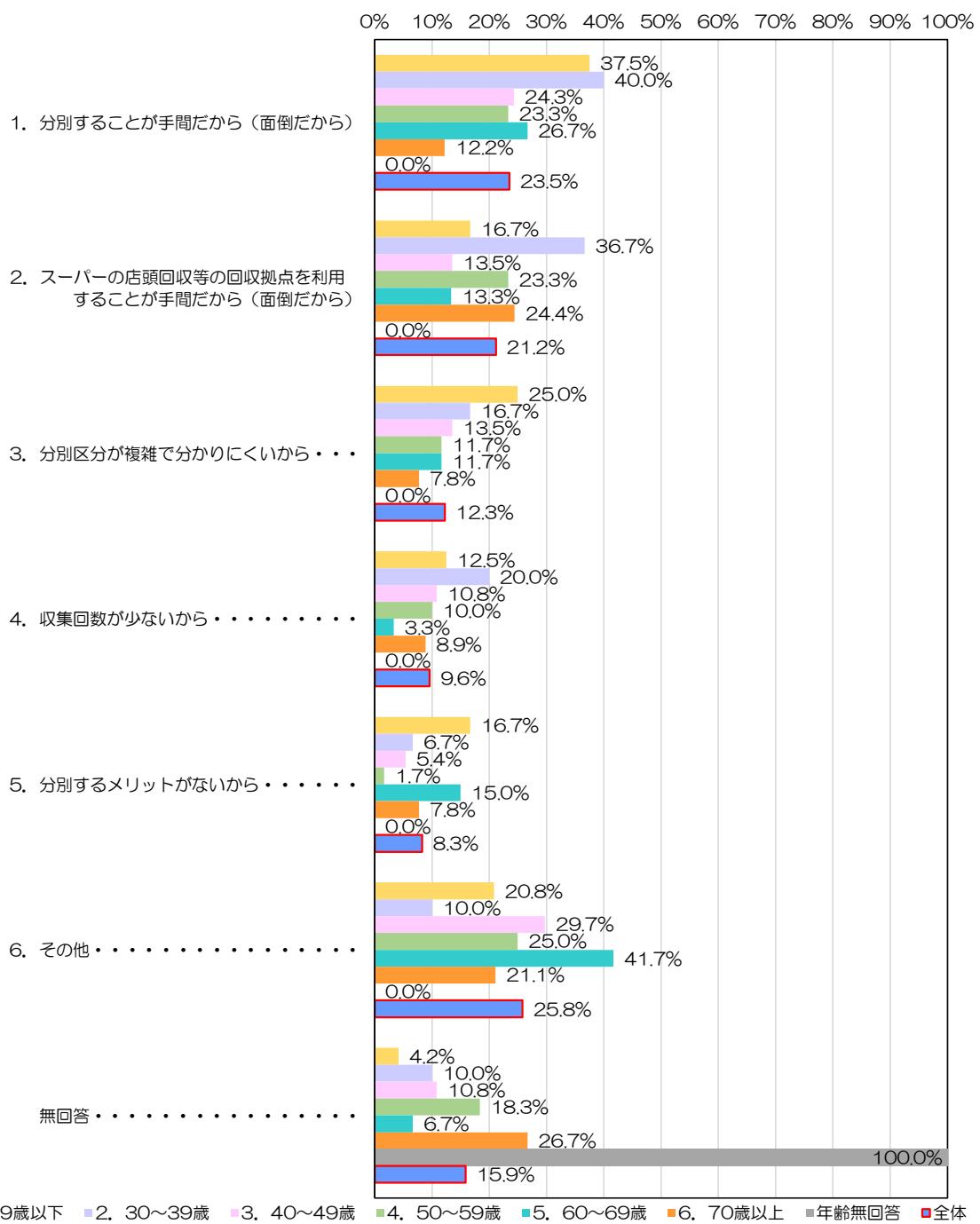
- ・排出量が少ないから。
- ・回収ステーションを持って行くのが面倒。
- ・燃やせるごみ/燃やせないごみでいいと思っていた。
- ・市のごみ分類指示の通りだから。
- ・分別が必要だと知らなかった。
- ・出し方が分からぬ。どこに持つて行つたらいいのか分からぬ。
- ・手間だから。
- ・回収後、どのようにリサイクルされているのか不明だから。
- ・高齢のため回収場所まで持つて行くことができない。
- ・置き場所がないから。
- ・捨てる頻度が少ないから。
- ・壊れているから。

【個別】

- ・紙パックは調理時にまな板や受け皿の代用にしており、使用後は燃やせるごみとして出している。
- ・新聞紙に生ごみや使用後のサラダ油など、様々なものを入れて捨てる。
- ・食品トレーなどは以前分別して出していたがリサイクルするよりも可燃ごみで処理した方がコストは安いと聞いた。
- ・食品トレーは汚れが簡単に取れなかったり、洗剤で洗う手間があるため。
- ・食品トレーは分別するのがわからなかった。
- ・食品トレーもプラスチック素材は燃やせるごみと令和7年度家庭ごみの分け方に記載されている。
- ・食品トレーを肉、魚の下処理に利用している。
- ・衣類は切って雑巾等として再利用してから捨てるため。
- ・衣類のゴミが頻繁にでるわけではないから。
- ・リサイクル出来ない衣類だから。
- ・衣類の個別収集がないため。
- ・衣類は回収先が分からぬ。
- ・衣類は汚れがあったりボロボロの場合は、捨てざるを得ない。
- ・衣類を寄付している。
- ・**使用済み衣服を資源物として認識していないから。**
- ・小型家電を資源物だという考えが思いつかない。

-----【参考】(年齢別)-----

29歳以下 : n=24、30~39歳 : n=30、40~49歳 : n=37、50~59歳 : n=60、
60~69歳 : n=60、70歳以上 : n=90、年齢無回答 : n=1、全体 : n=302



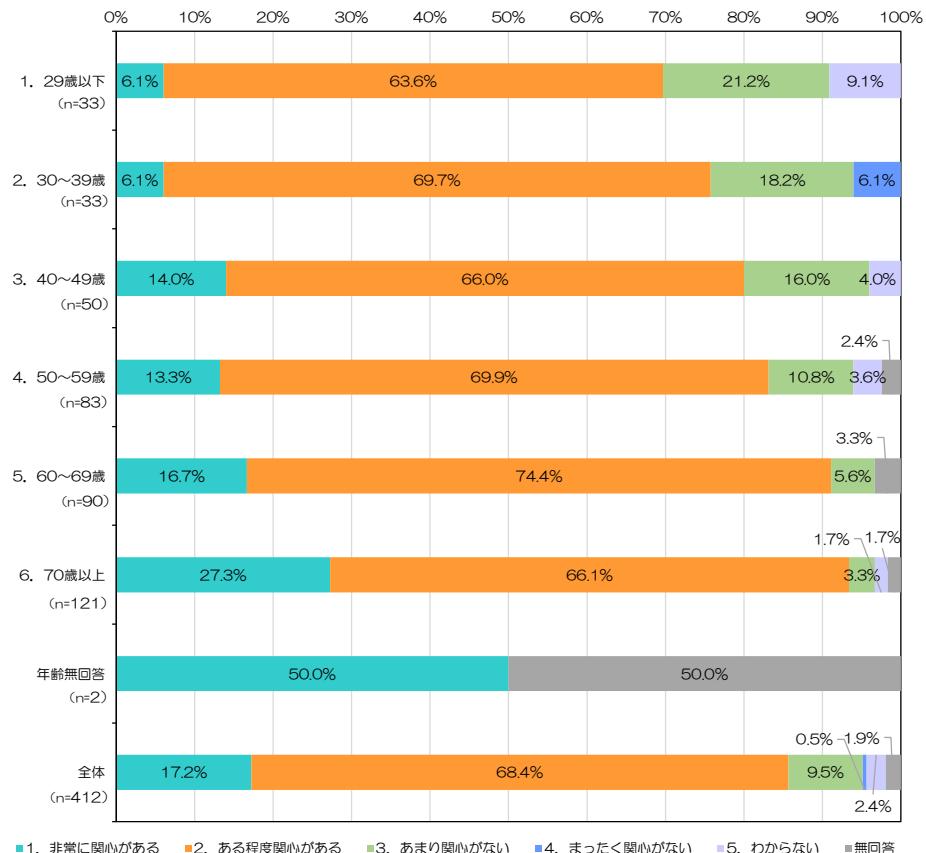
■1. 29歳以下 ■2. 30~39歳 ■3. 40~49歳 ■4. 50~59歳 ■5. 60~69歳 ■6. 70歳以上 ■年齢無回答 ■全体

(ごみ問題への関心度と取り組み状況について)

Q4 ごみの減量化や資源化に関心があるか。

ごみの減量化や資源化に関心があるか尋ねたところ、「非常に関心がある」「ある程度関心がある」と答えた人は全体の約86%で、多くの市民がごみ問題に関心を持っていることがわかりました。

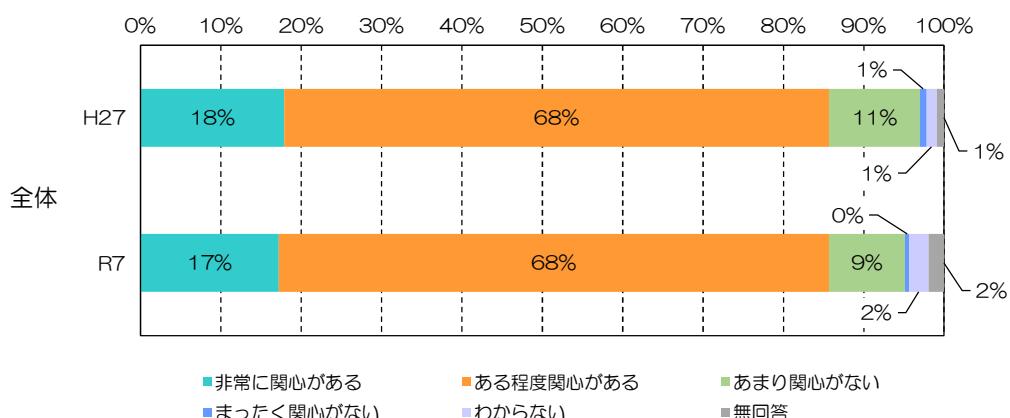
なお、年齢別で見ても年代問わず、ごみの減量化や資源化に関心があることがわかりました。



H27・R7 の比較結果追記

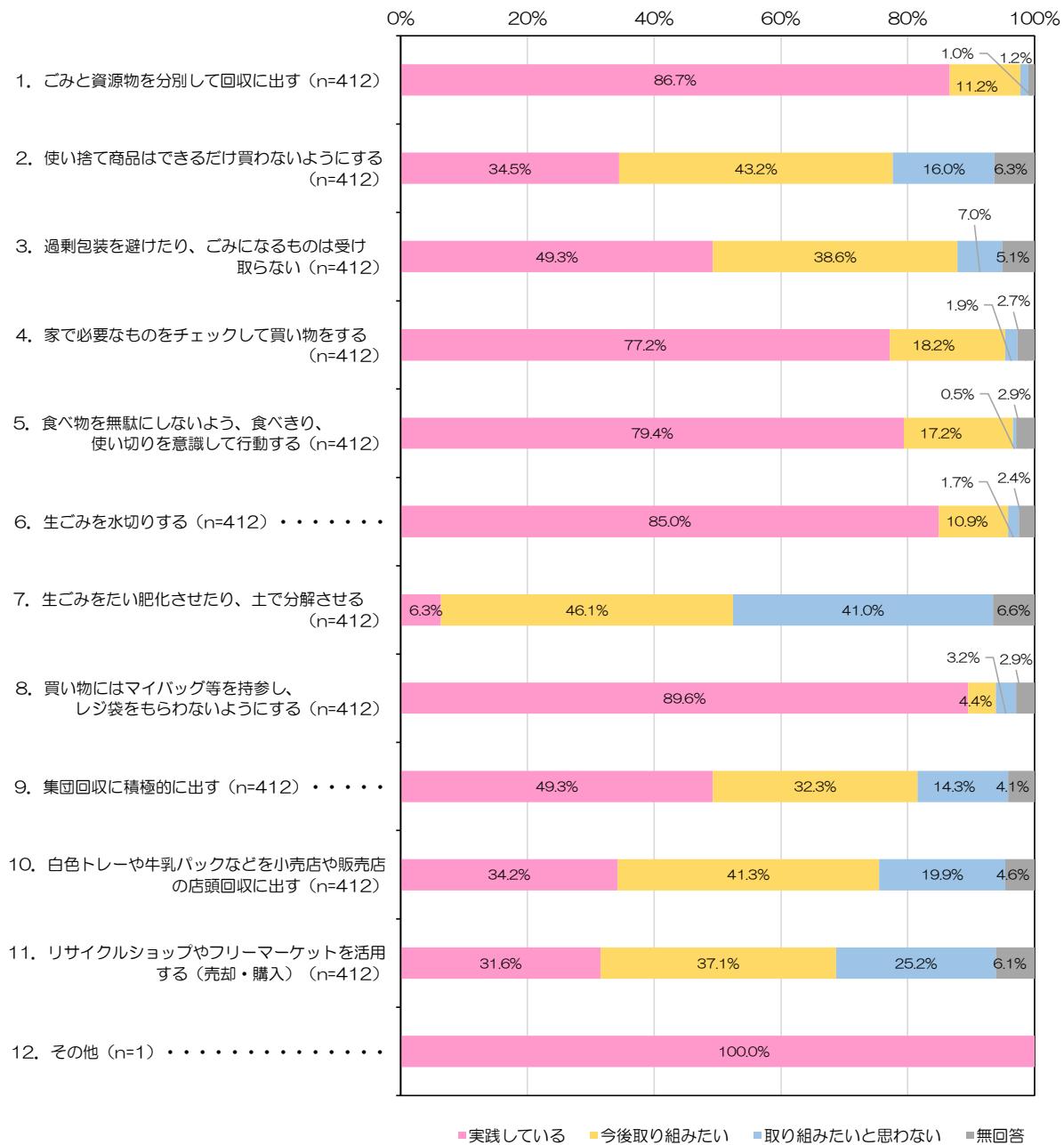
-----【参考】(H27アンケート調査時との比較) -----

平成27年度と今回調査（令和7年度）で、大きな変化は見られませんでした。



Q5-1 日頃からどのような取り組みを実践しているか。または今後取り組んでいきたいと考えているか。(それぞれの項目必須)

下図に示す1~11の項目について、取組み状況を尋ねたところ、多くの項目で「実践している」と答えた人の割合が高くなりました。一方、「6.生ごみをたい肥化させたり、土で分解する」の実践率は低い状況でした。しかし、「今後取り組みたい」と考えている人も半数近く見受けられました。



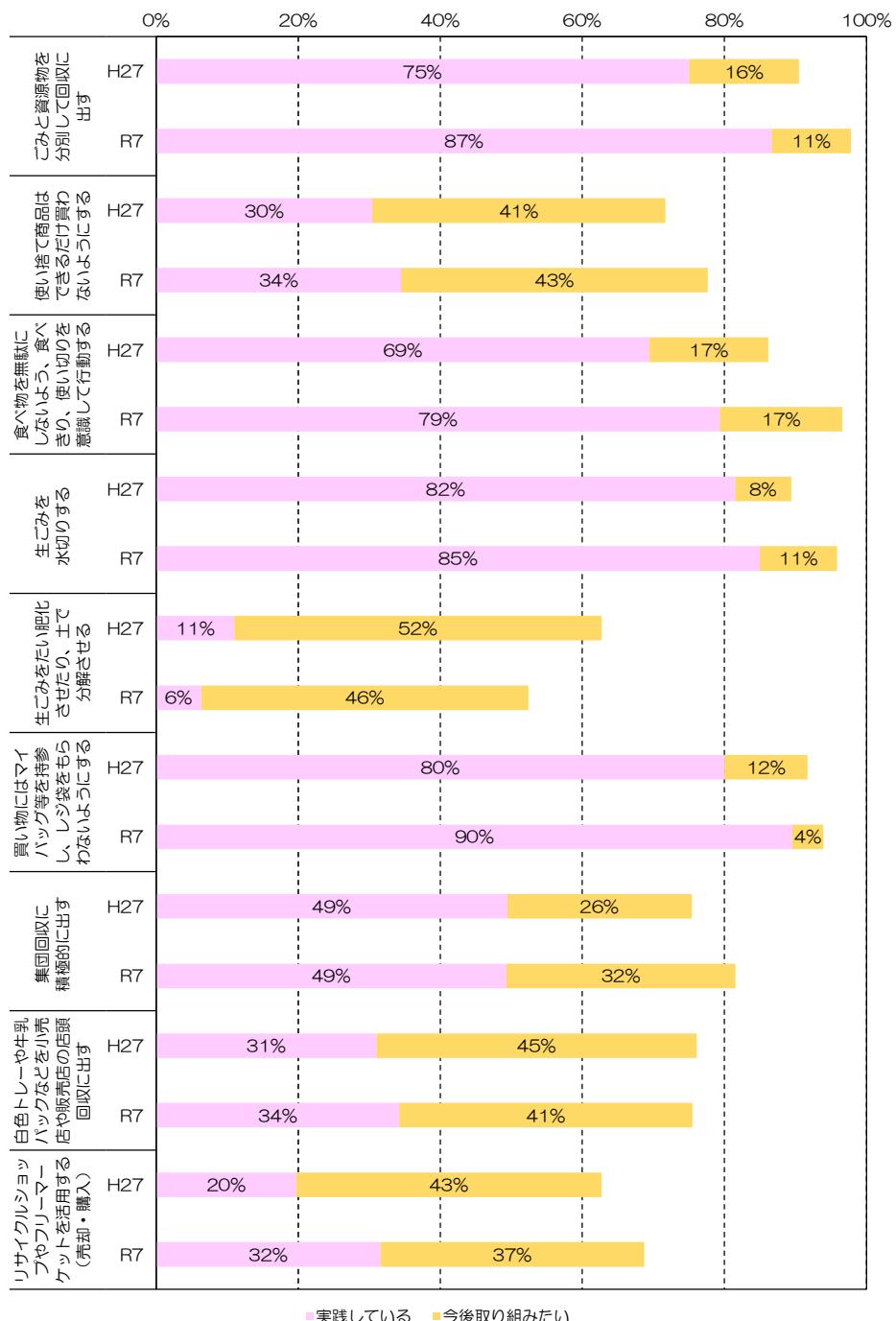
(「その他」の内訳)

- ・レジ袋を、ゴミ袋として活用している。

-----【参考】(H27アンケート調査時との比較)-----

平成 27 年度と比較すると、今回調査（令和 7 年度）では、多くの項目で「実践している」と回答した人の割合が高くなりました。

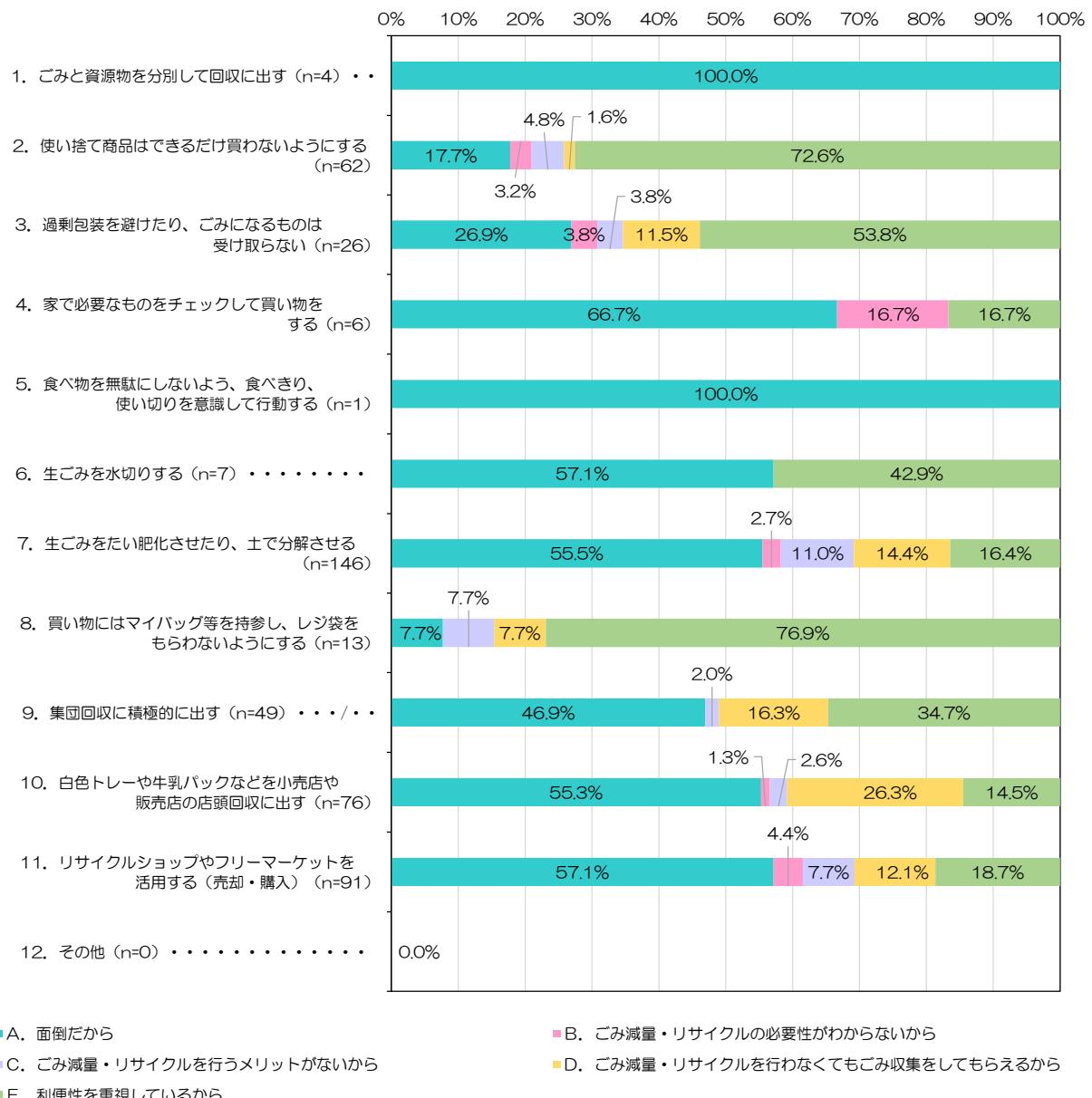
(注) 今回アンケート調査（令和 7 年度）と平成 27 年度アンケート調査では、項目や選択肢が一部異なるため、比較可能な項目及び選択肢を抽出しています。



Q5-2 【Q5-1 で「取り組みたいと思わない」と回答した方のみ】

取り組みたいと思わない理由は何か。(該当する選択肢 1 つ選択)

Q5-1 で「取り組みたいと思わない」と回答した方に、その理由を尋ねたところ、いずれの取り組み項目でも「A.面倒だから」または「E.利便性を重視しているから」の割合が高い傾向でした。



(選択肢 A～E 以外の記述)

- ・場所がない。
- ・売却するものがない。店に行かないで買うこともない。
- (ごみ問題の課題について)

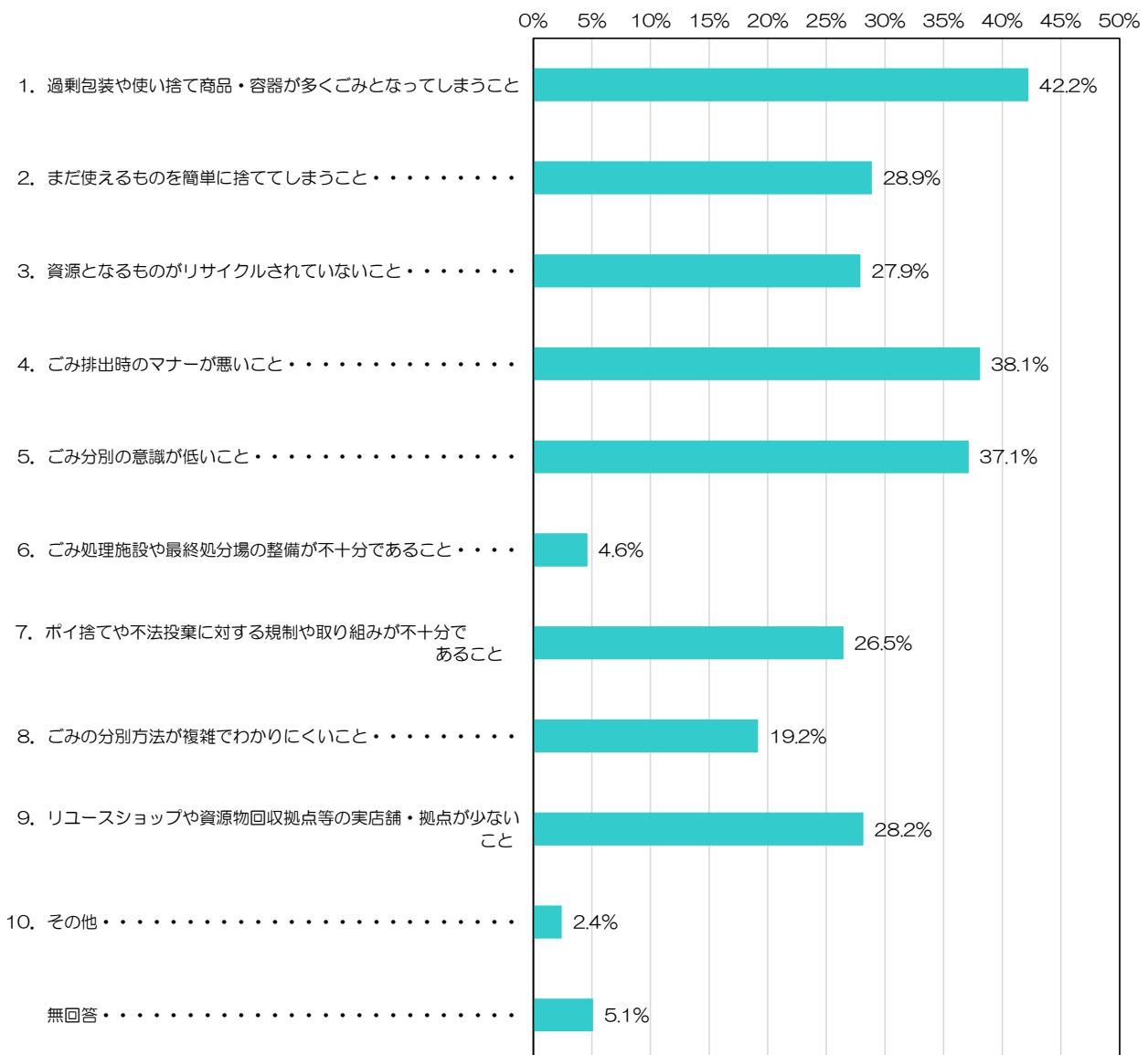
- ・行政に出している。
- ・他人の使用品に抵抗がある。

Q6 本市のごみ問題に関してどのような課題があると考えるか。(該当する選択肢全て選択)

本市のごみ問題の課題として「過剰包装や使い捨て商品・容器が多くごみとなってしまうこと」「ごみ排出時のマナーが悪いこと」「ごみ分別の意識が低いこと」と回答している割合が特に高く、ごみ問題に対する個々の意識を指摘する方が多く見られました。

なお、「ごみ処理施設や最終処分場の整備が不十分である」を除き、どの年代も課題として意識していることがわかりました。

(n=412)

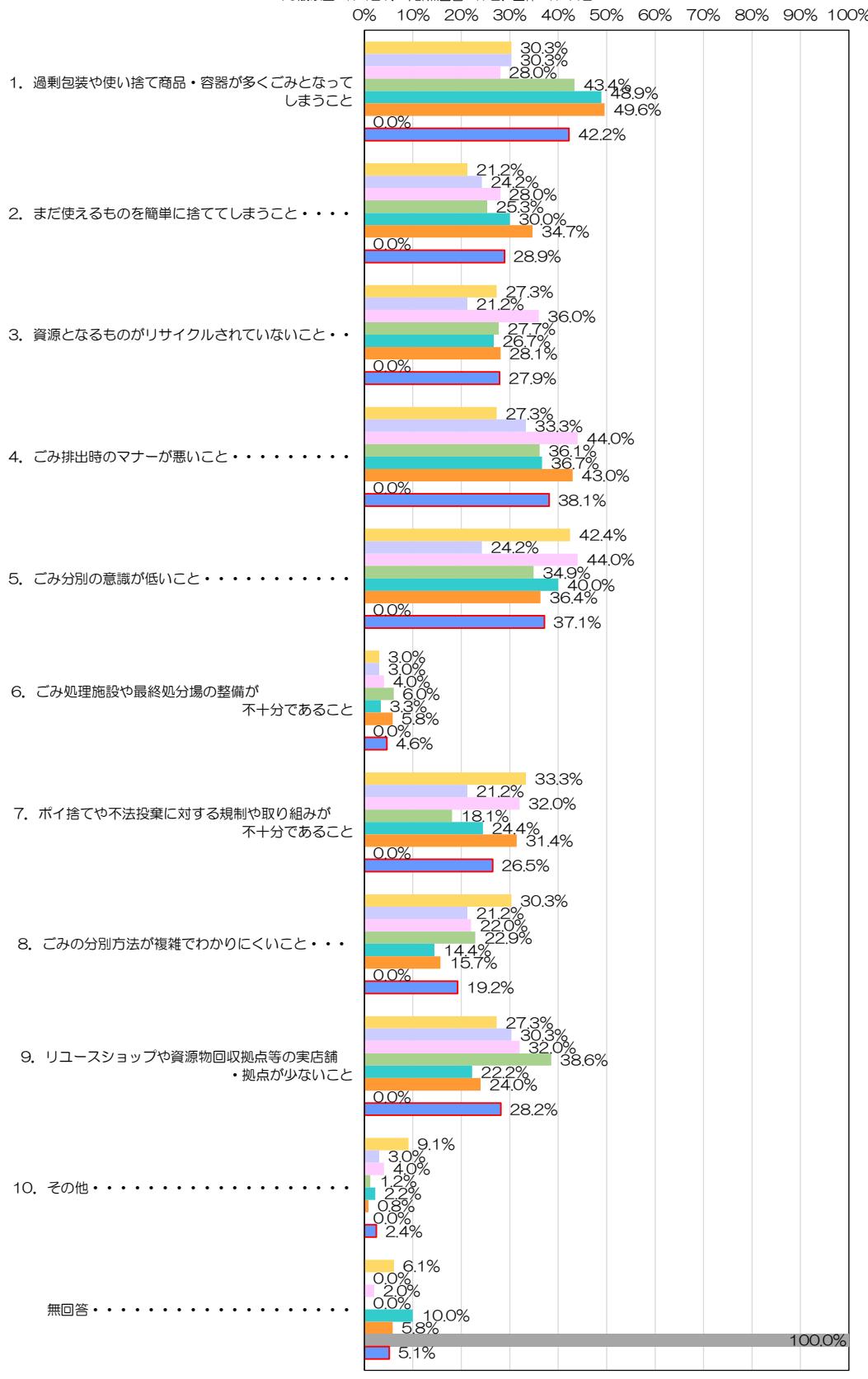


(「その他」の内訳)

- ・課題について特に感じていない。
- ・洗濯機等のリサイクル料金が高い。
- ・回収拠点が近くにない。
- ・どのようにリサイクルされているのか、製品名で具体的に周知してほしい。
- ・車がない人は回収ボックスを持って行けない。
- ・特に、若者たちのごみ分別方法の浸透率の低さ。
- ・よく分からない。

-----【参考】(年齢別)-----

29歳以下：n=33、30～39歳：n=33、40～49歳：n=50、50～59歳：n=83、60～69歳：n=90、
70歳以上：n=121、年齢無回答：n=2、全体：n=412



■1. 29歳以下 ■2. 30～39歳 ■3. 40～49歳 ■4. 50～59歳 ■5. 60～69歳 ■6. 70歳以上 ■年齢無回答 ■全体

Q7 ごみの減量やリサイクル、分別等について困っていることや市に取り組んで欲しいこと。 (自由記述)

ごみの減量やリサイクル、分別等について自由記述で記載をお願いしたところ、「回収場所を増やしてほしい」や「分別方法がわかりにくい」等の意見が寄せられました。

【テキストマイニング】

寄せられた意見の内容をもとに、出現頻度が比較的高い単語を抽出しました。

意見の内容から、「回収」「分別」「リサイクル」「ゴミ袋」といったキーワードが多く記載されていました。

※：文字の大きさは出現頻度が高い単語であることを示します。文字の色や文字の向きは任意で設定しています。



【主な意見の内容】

●減量化、リサイクルについて

- ・市内に資源ごみ回収場所やリサイクル回収場所をもっと増やして欲しい。
 - ・回収ボックスに入れることによる利点があるといい。
 - ・ペットボトルのふたも回収してほしい。
 - ・白色トレーは「家庭ごみの分け方・出し方」にも出ていないので、市民はリサイクルの対象になっているのを認識していないのではないか。
 - ・食品トレー専用の回収日を設けてほしい。
 - ・スーパーなどの回収ボックスについて、店舗によって回収品目が異なるので、統一化を図ったり、明確化してほしい。
 - ・資源のリサイクルは大切だと思うが、メリットとデメリットやコストを比較して取り組んでもらいたい。デメリットのほうが大きいならリサイクルの必要はないと思う。
 - ・仕事の都合などで、資源ごみ回収ステーション（市）の開いている時間帯になかなか間に合わない。
 - ・ポストに広告チラシを入れないようにできたら良い（チラシそのものがごみになるので）。
 - ・短期間だけ弘前に住む学生にリサイクル家具や台所用品、食器や防寒服などを無償提供するというのがあっても良い。
 - ・生ゴミ処理機やコンポスト購入時の助成金があると助かる。
 - ・官民連携して、食品ロス問題に取り組んではどうか。
 - ・牛乳パック等で作った物を安く売ったらいいと思う。
 - ・テーブル、イスなど市民も安く買えたらもっとみんなが協力すると思う。

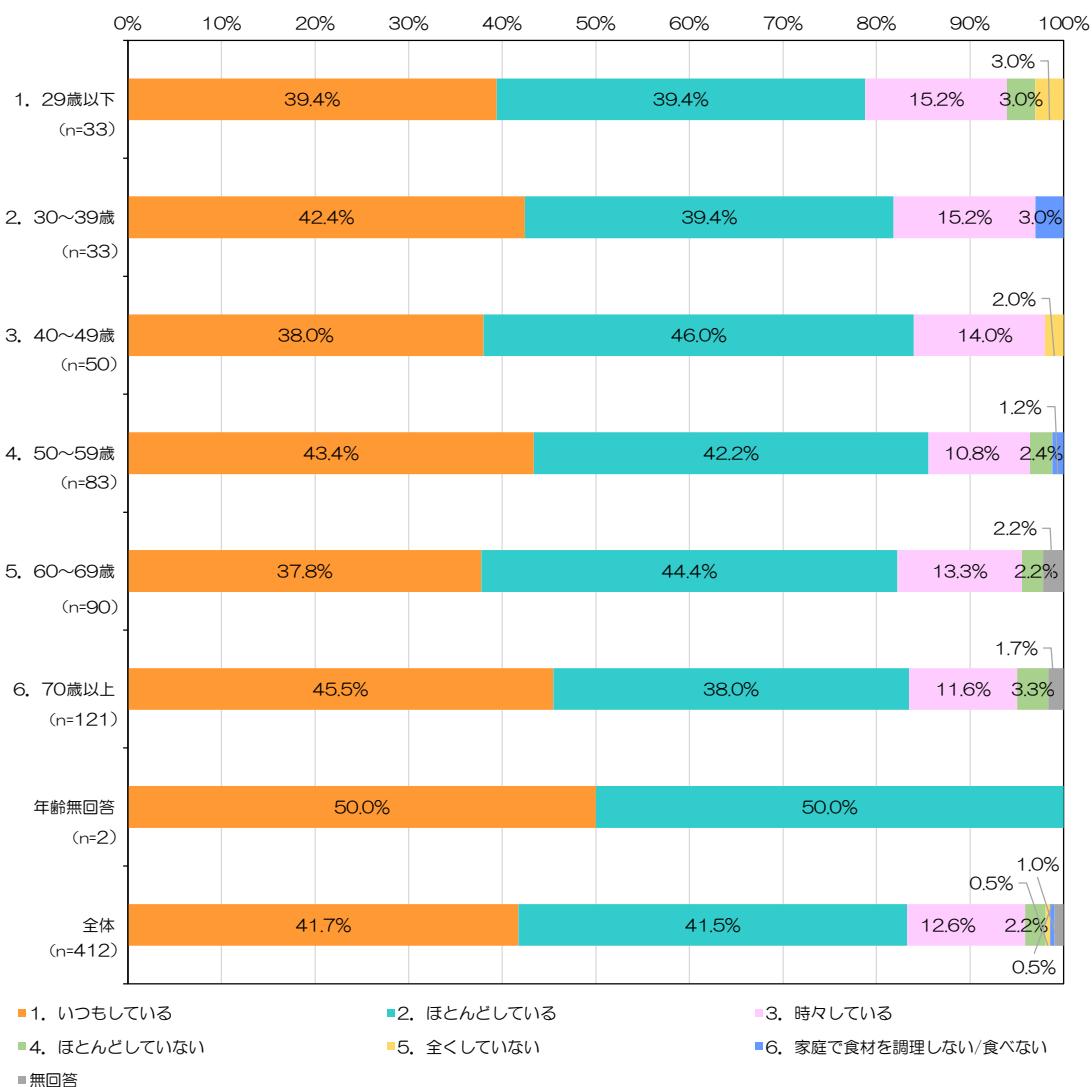
●ごみの分別について

- ・分別方法が分かりづらい。
- ・資源ごみの回収頻度を増やしてほしい。
- ・有害ごみ（電池や電球）の回収日が少ない。
- ・リチウムイオン電池、プラスチック、電気製品、衣類等、品目ごとの処理方法が分かりにくい。分別方法の見直しと周知が必要だと思う。
- ・衣類の出し方について、ガイドブックを見ないと解らないのが手間。再利用できるのかも個人では判断がつきにくい。
- ・分別方法について「これは〇〇ゴミ」など、細かくて分かりやすい説明書のようなものがあると助かる。
- ・もう少し細かな分別を実施してもいいと思う。
- ・「缶詰の本体は缶ごみ、ふたは燃やせないごみ」のように、同じ素材なのになぜ分別が必要なのかわからない。
- ・有害ごみに電池を出す際、+-の両方テープを貼るが、片側だけでも良いのではないか。
- ・プラスチックと紙ごみがくっついているものを分別するのが手間。
- ・家庭用消火器やカセットコンロ等のガス缶、残量がある場合の缶やライター（ガス抜き）などの処理方法を明示してほしい。
- ・携帯電話をリサイクル回収ボックスに入れたいが、本当に初期化されているのかわからないので、確認方法を明示してほしい。
- ・指定された分別以外の物を排出する人がいる。

(食品ロスについて)

Q8 家庭で食材が無駄にならないようにしているか。(該当する選択肢 1 つ選択)

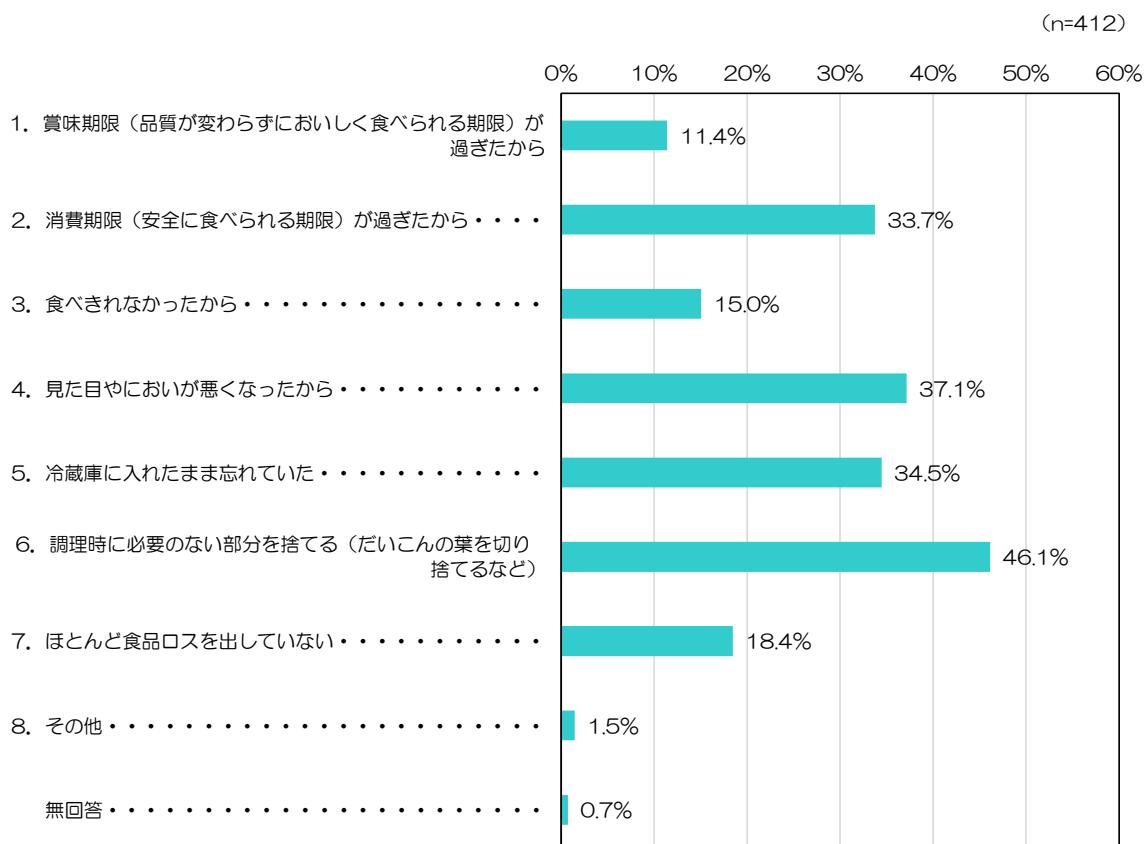
家庭で食材が無駄にならないようにしているかという質問に対して、「いつもしている」もしくは「ほとんどしている」と回答した人の合計が約83%となり、年齢を問わず食品ロスに対する意識が高いことがわかりました。



Q9 家庭で食材を捨てる理由として多いもの。(該当する選択肢全て選択)

食材を捨てる理由を尋ねたところ、「調理時に必要のない部分を捨てる」と回答した割合が約46%となり、次いで「見た目やおいが悪くなったから」「消費期限が過ぎたから」が続きました。

なお、年齢別にみても、食材を捨てる理由に大きな偏りは見られませんでした。

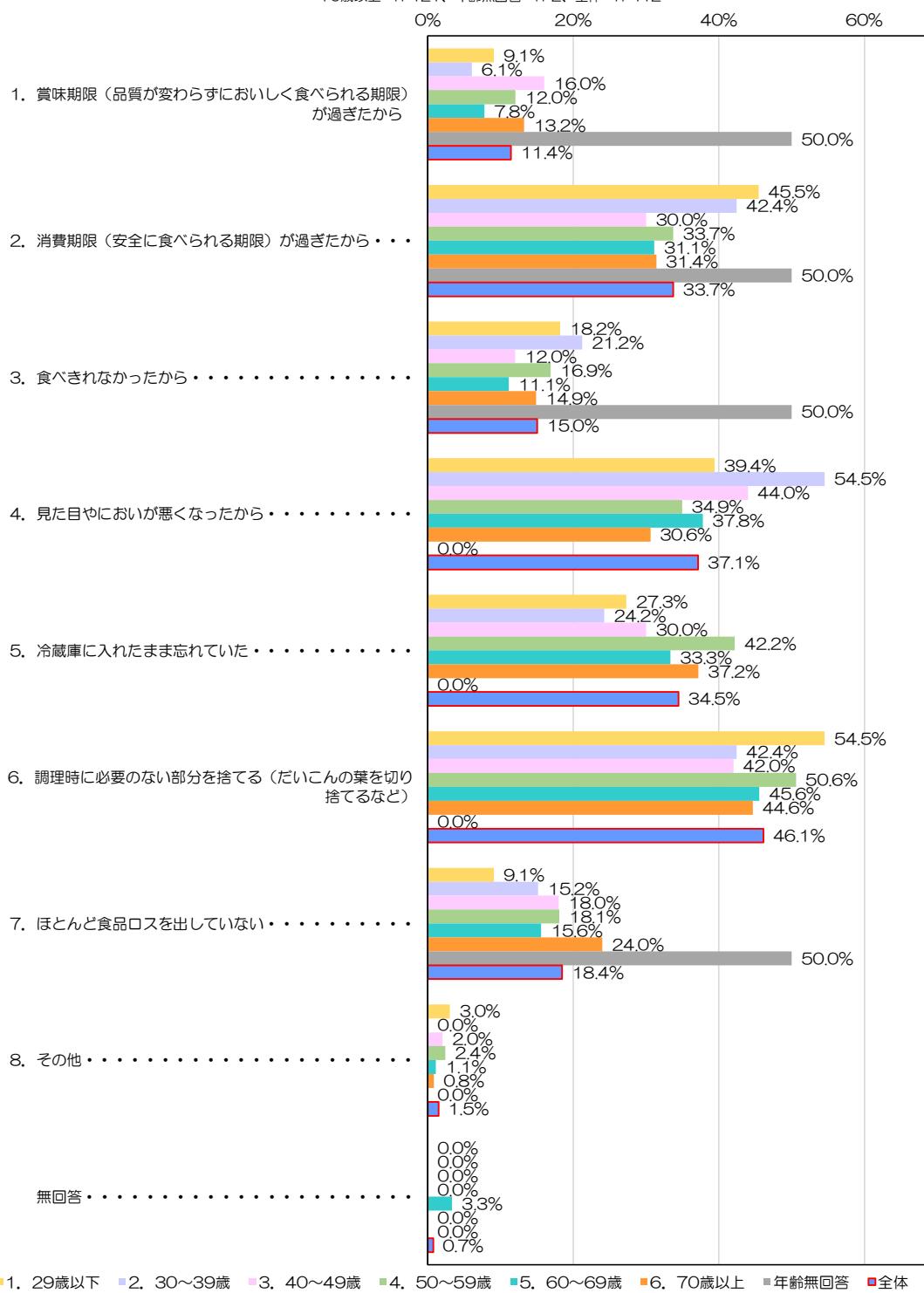


（「その他」の内訳）

- ・腐ったりカビが生えてしまい、食べられなくなったから。
- ・消費期限が長く多くて食べきれないものはフードバンクに持つて行っている。
- ・捨てることはしない。

-----【参考】(年齢別)-----

29歳以下 : n=33、30~39歳 : n=33、40~49歳 : n=50、50~59歳 : n=83、60~69歳 : n=90、
70歳以上 : n=121、年齢無回答 : n=2、全体 : n=412



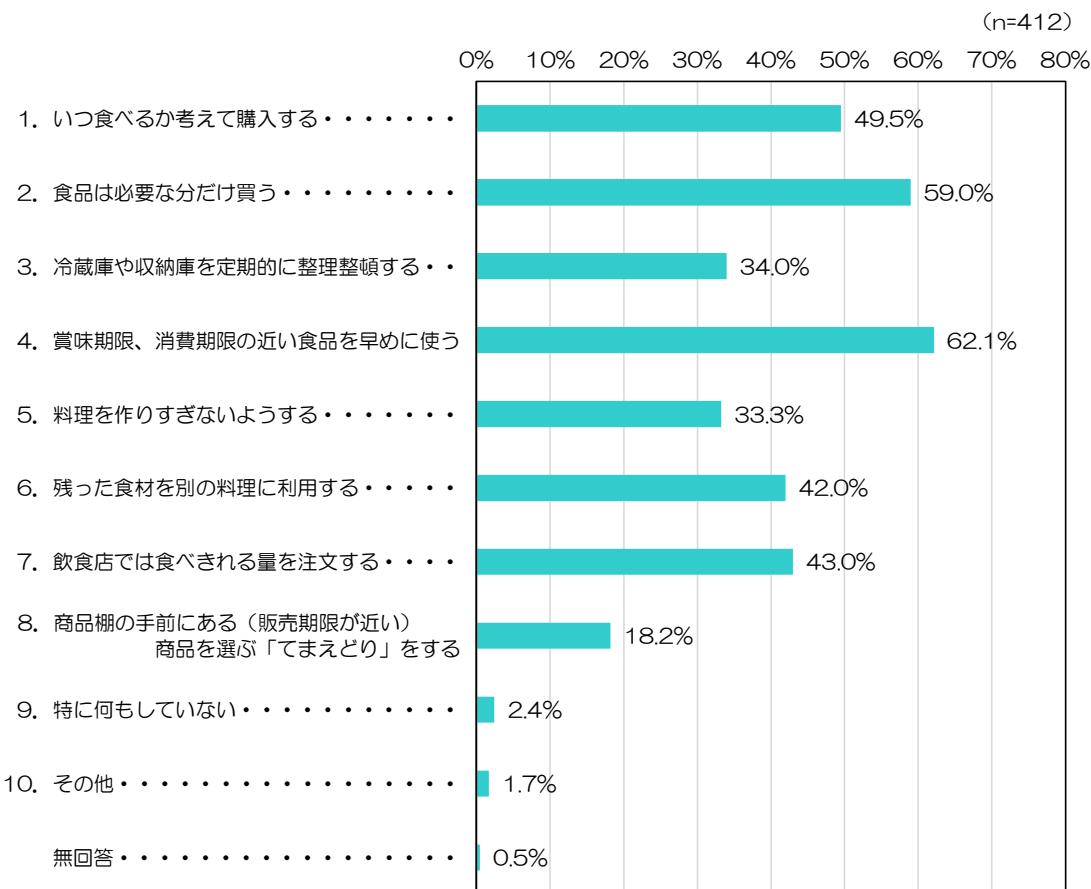
■1. 29歳以下 ■2. 30~39歳 ■3. 40~49歳 ■4. 50~59歳 ■5. 60~69歳 ■6. 70歳以上 ■年齢無回答 ■全体

Q10 食品ロスを出さないために普段行っていること。（該当する選択肢全て選択）

食品ロス対策として普段行っていることを尋ねたところ、「賞味期限、消費期限の近い食品を早めに使う」「食品は必要な分だけ買う」と回答している人の割合が特に高くなりました。

また、その他の回答として「買い物に行くときはメモしてから行く」「冷凍できるものは冷凍する」といった意見もいただきました。

なお、年齢別にみても年代問わず食品ロス削減のための取り組みを行っていることがわかりました。

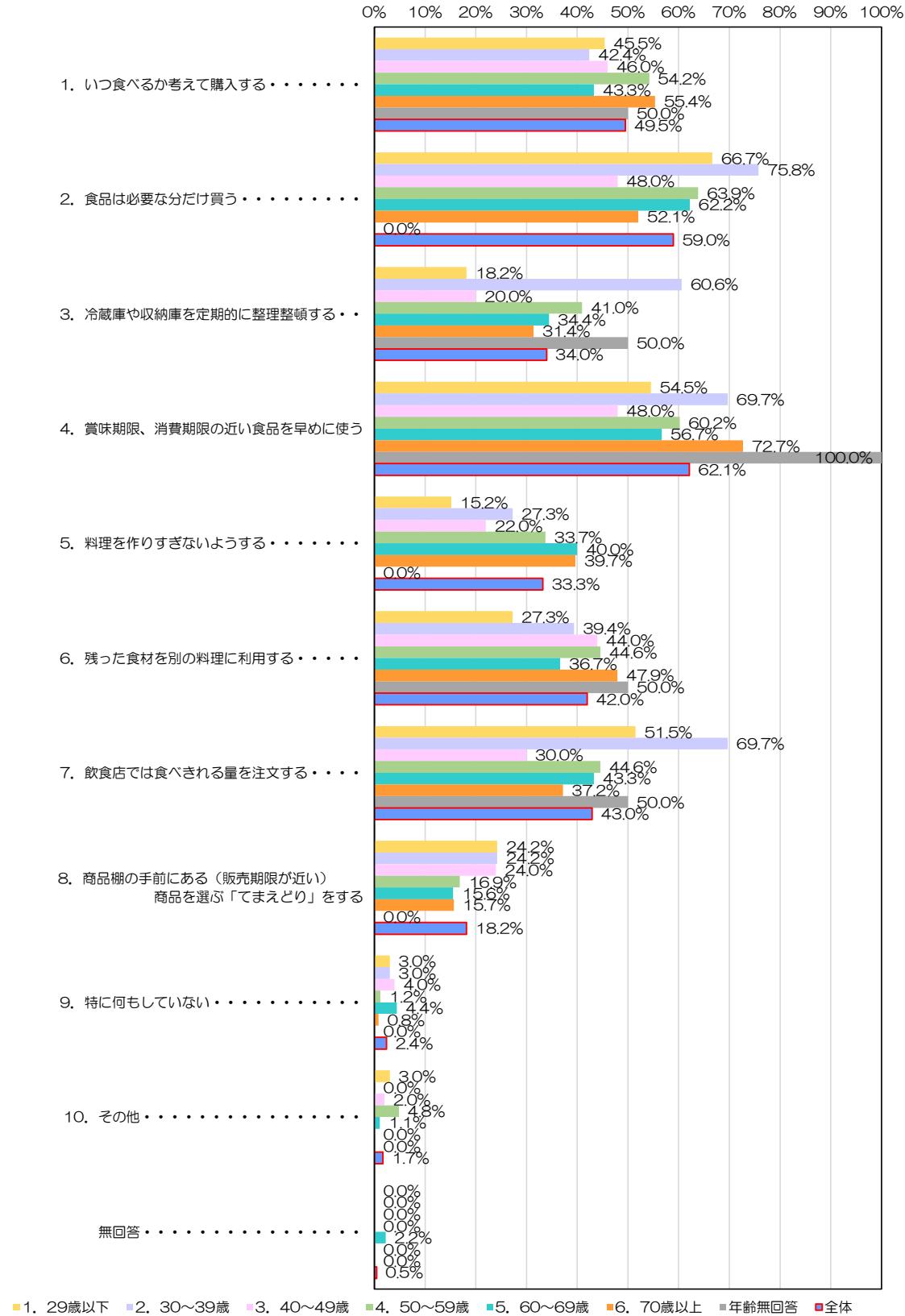


（「その他」の内訳）

- ・状態が良くなさそうなものは避ける。
- ・食べ物は粗末にしない。
- ・買い物に行くときはメモしてから行く。
- ・飲食店で食べきれないとき、可能なら持ち帰る。
- ・飲食店では、食べきれる量を注文して食べ残しを減らす。
- ・賞味期限、消費期限はあまり重視しない。匂い、色等で判断し大丈夫そうなら食する。
- ・食材宅配を頼んでいるので人数分しか食材は届かない。
- ・値引きシールのついたものを買う。冷凍できるものは冷凍する。

-----【参考】(年齢別)-----

29歳以下 : n=33、30~39歳 : n=33、40~49歳 : n=50、50~59歳 : n=83、60~69歳 : n=90、
70歳以上 : n=121、年齢無回答 : n=2、全体 : n=412



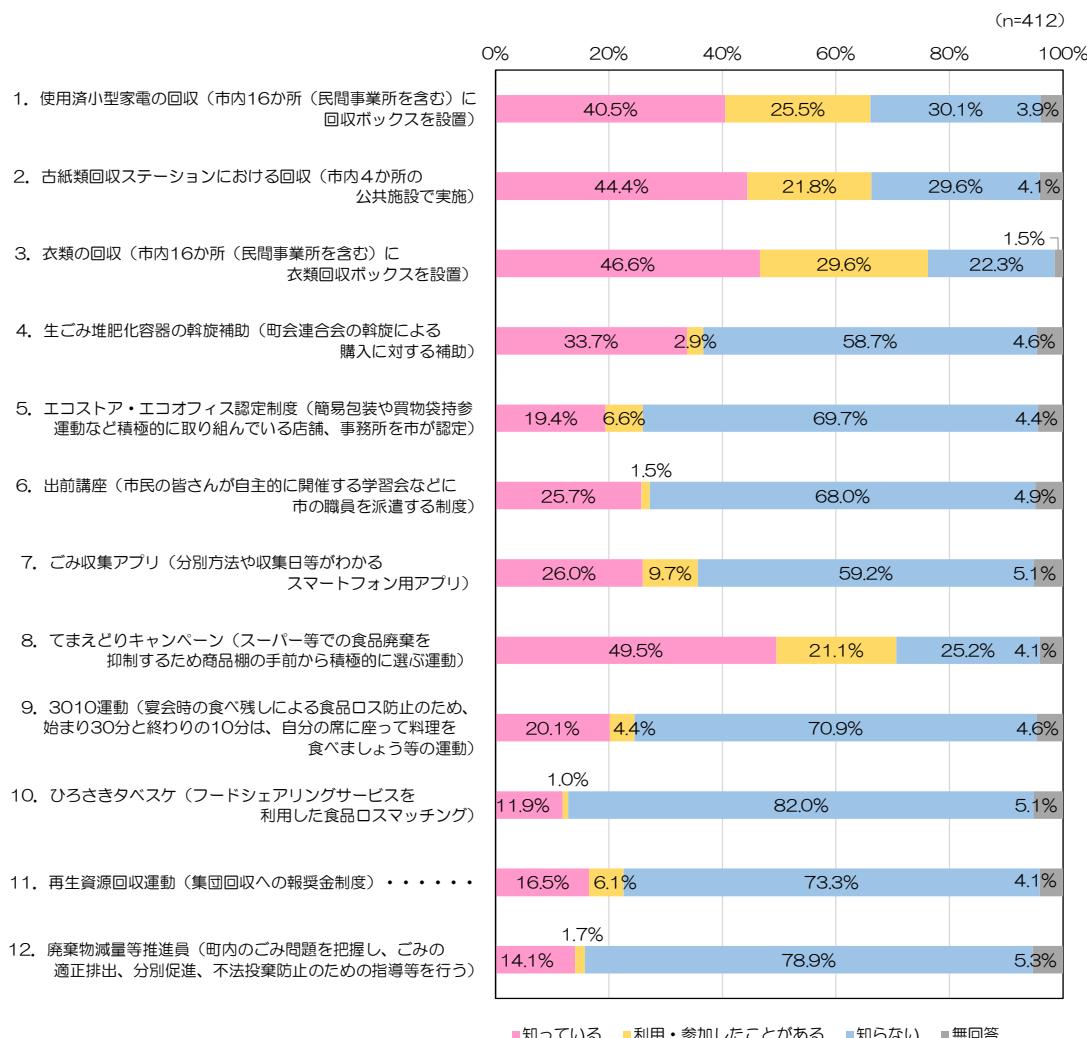
■1. 29歳以下 ■2. 30~39歳 ■3. 40~49歳 ■4. 50~59歳 ■5. 60~69歳 ■6. 70歳以上 ■年齢無回答 ■全体

(市の施策の周知度)

Q11 市が実施しているリサイクルに関する取り組みについて知っているもの、利用したことがあるものはどれか。(それぞれの項目必須)

市が実施している取り組みの認知度を尋ねたところ、小型家電、古紙回収、衣類回収といったリサイクルに関する取り組みや、てまえどりキャンペーンなどスーパーなどで目に入りやすい取り組みは認知度も高く、利用していると回答している割合も高い傾向にありました。

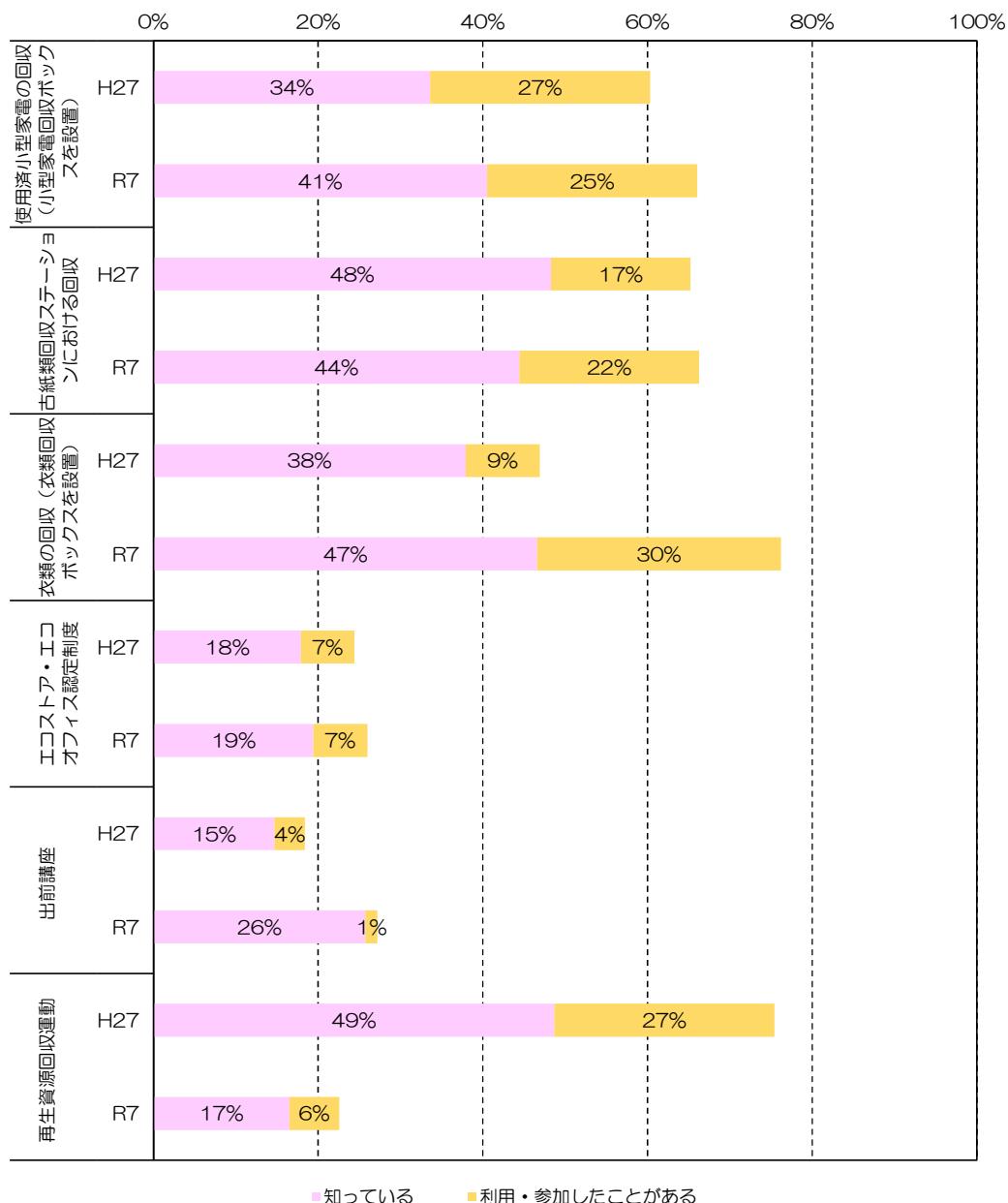
一方で、その他の取り組みについては「知らない」と答えた割合が高く、まずは、取り組みを認知してもらうところから始める必要があると考えられます。



-----【参考】(H27アンケート調査時との比較)-----

平成27年度と比較すると、今回調査（令和7年度）では、ほとんどの項目で「知っている」「参加したことがある」と回答した人の割合が増えています。一方、「再生資源回収運動」の「知っている」「参加したことがある」と回答した人の割合は減っています。

(注) 今回アンケート調査（令和7年度）と平成27年度アンケート調査では、項目や選択肢が一部異なるため、比較可能な項目及び選択肢を抽出しています。

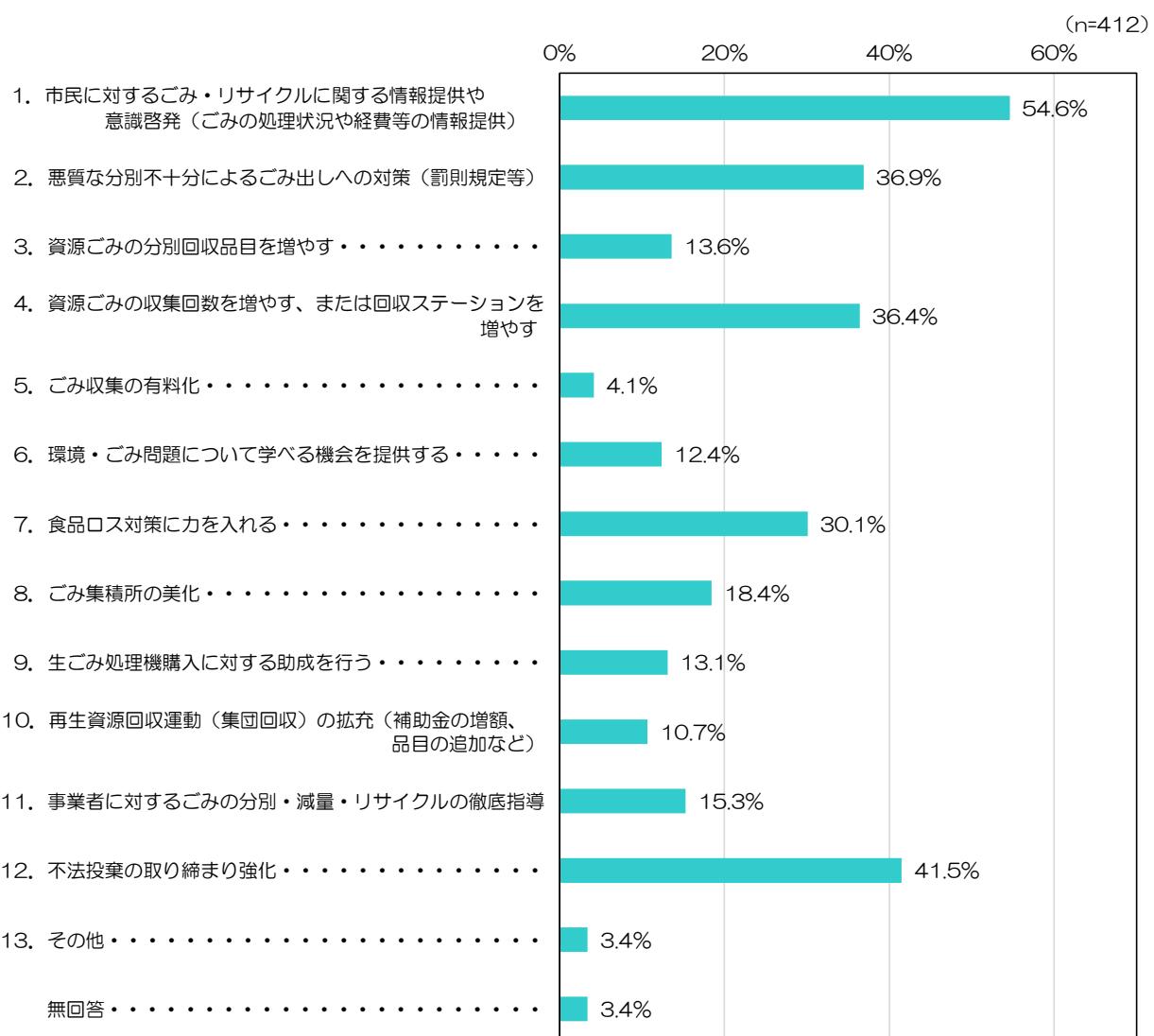


(今後の市の施策について)

Q12 ごみ減量やリサイクルを進めていくうえで重要だと思うこと。(該当する選択肢全て選択)

ごみ減量やリサイクルを進めるうえで重要だと思うことについて尋ねたところ、「市民に対するごみ・リサイクルに関する情報提供や意識啓発」「悪質な分別不十分によるごみ出しへの対策」「資源ごみの収集回数を増やす、または回収ステーションを増やす」「不法投棄の取り締まり強化」と回答した人の割合が高くなりました。なお、年代別に見ても選択肢に大きな偏りは見られませんでした。

本問に関する意見はQ16の自由記述で多く寄せられており、選択肢の回答率を問わず、総合的なごみ処理の施策を考えていく必要があります。

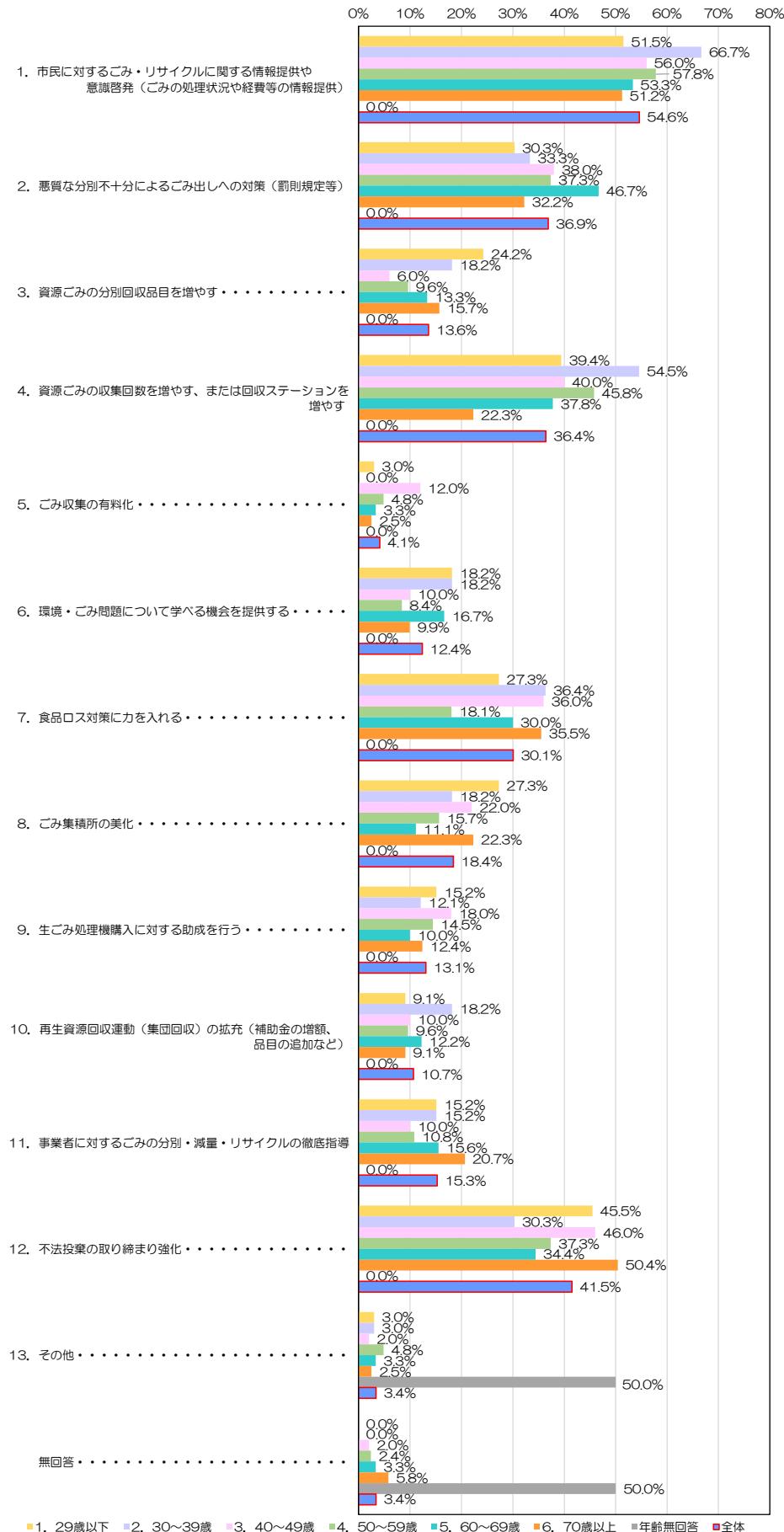


(「その他」の内訳)

- ・過剰包装をしない。
- ・スーパー やコンビニ等にリサイクルボックスを増やしてほしい。・小中学校でのリサイクル3Rの教育指導。
- ・スーパーはびん、かん、アルミ、牛乳パック、電池も回収してほしい。
- ・回収・リサイクルに特化した寄付や協力金の制度。
- ・ペットボトルや缶の排出方法を統一してほしい(つぶす、ラベルをはがすなど)。
- ・小売業者などがトレー、包装、ビニールを出さないようにする。使い捨てプラスチックの制限、販売禁止、回収中止。
- ・食品ロスは家庭よりもコンビニや店からの廃棄が多いと思う。
- ・個人の意識の問題。
- ・一人一人がルールを守るべき。
- ・分からぬ。

【参考】(年齢別)

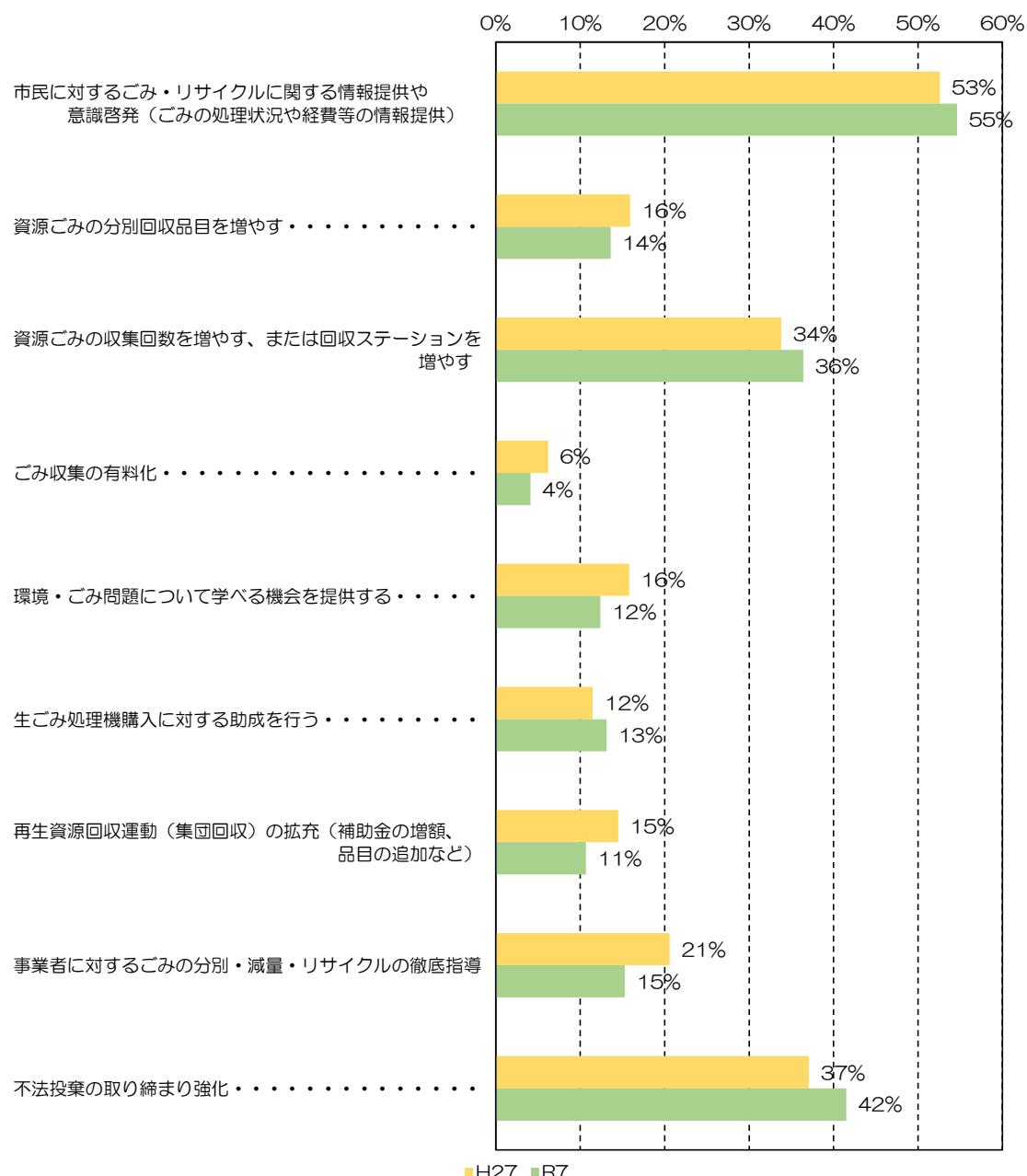
29歳以下 : n=33、30~39歳 : n=33、40~49歳 : n=50、50~59歳 : n=83、60~69歳 : n=90、70歳以上 : n=121、年齢無回答 : n=2、全体 : n=412



-----【参考】(H27アンケート調査時との比較)-----

平成 27 年度と今回調査（令和 7 年度）で、大きな変化は見られませんでした。

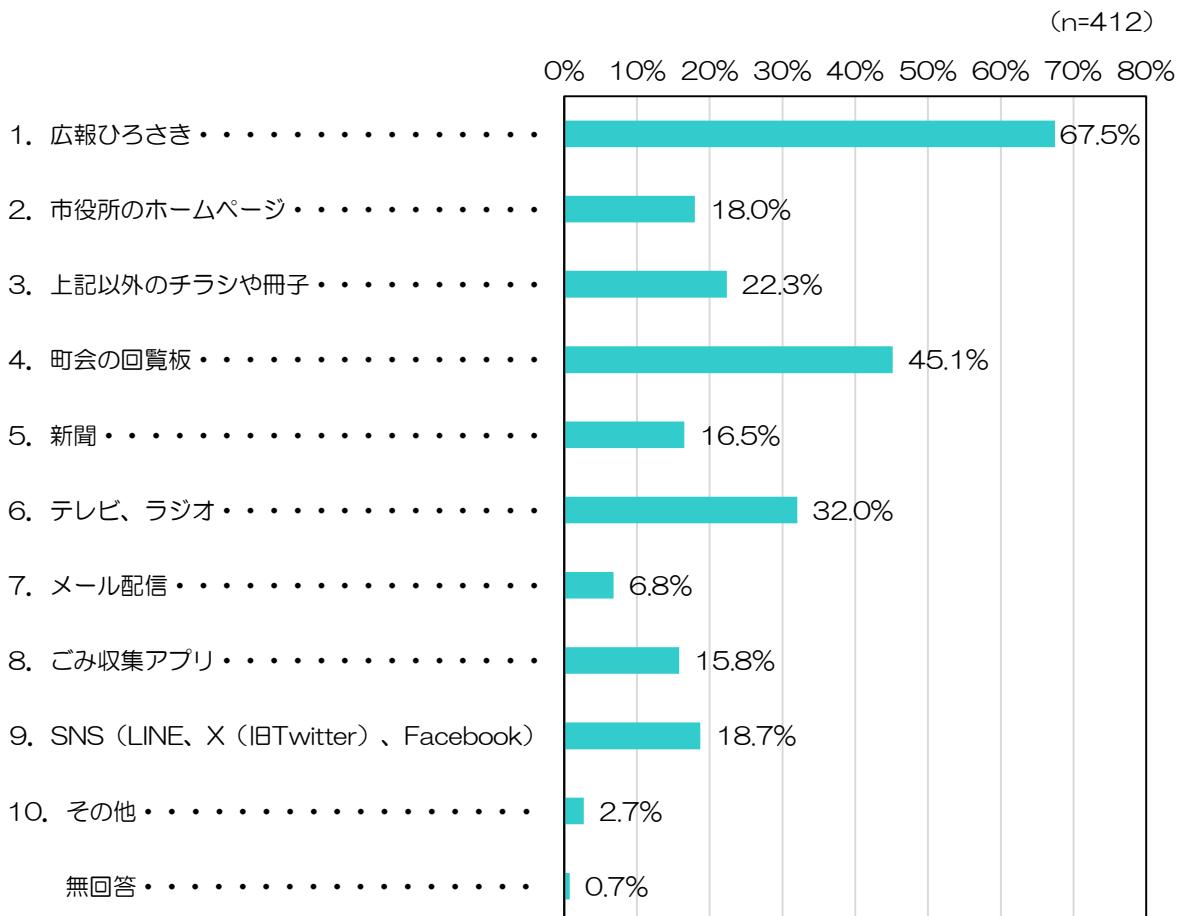
(注) 今回アンケート調査（令和 7 年度）と平成 27 年度アンケート調査では、項目が一部異なるため、比較可能な項目を抽出しています。



Q13 ごみ減量やリサイクルについて、市から情報提供を行う場合、どの媒体が利用しやすい（伝わりやすい）か。（特に利用しやすいと思うものを3つまで選択）

市からの情報提供の利用のしやすさについて尋ねたところ、「広報ひろさき」「町内の回覧板」「テレビ、ラジオ」が使いやすいと回答した人の割合が高くなりました。Q16の自由記述では紙媒体を求める声、電子媒体を求める声のいずれもあり、個々に使いやすい媒体が必要であると考えられます。

なお、年齢が高い方ほど広報紙や新聞といった紙媒体を便利であると感じ、年齢が若い方ほどメール配信やSNSといったデジタル媒体を便利であると感じています。

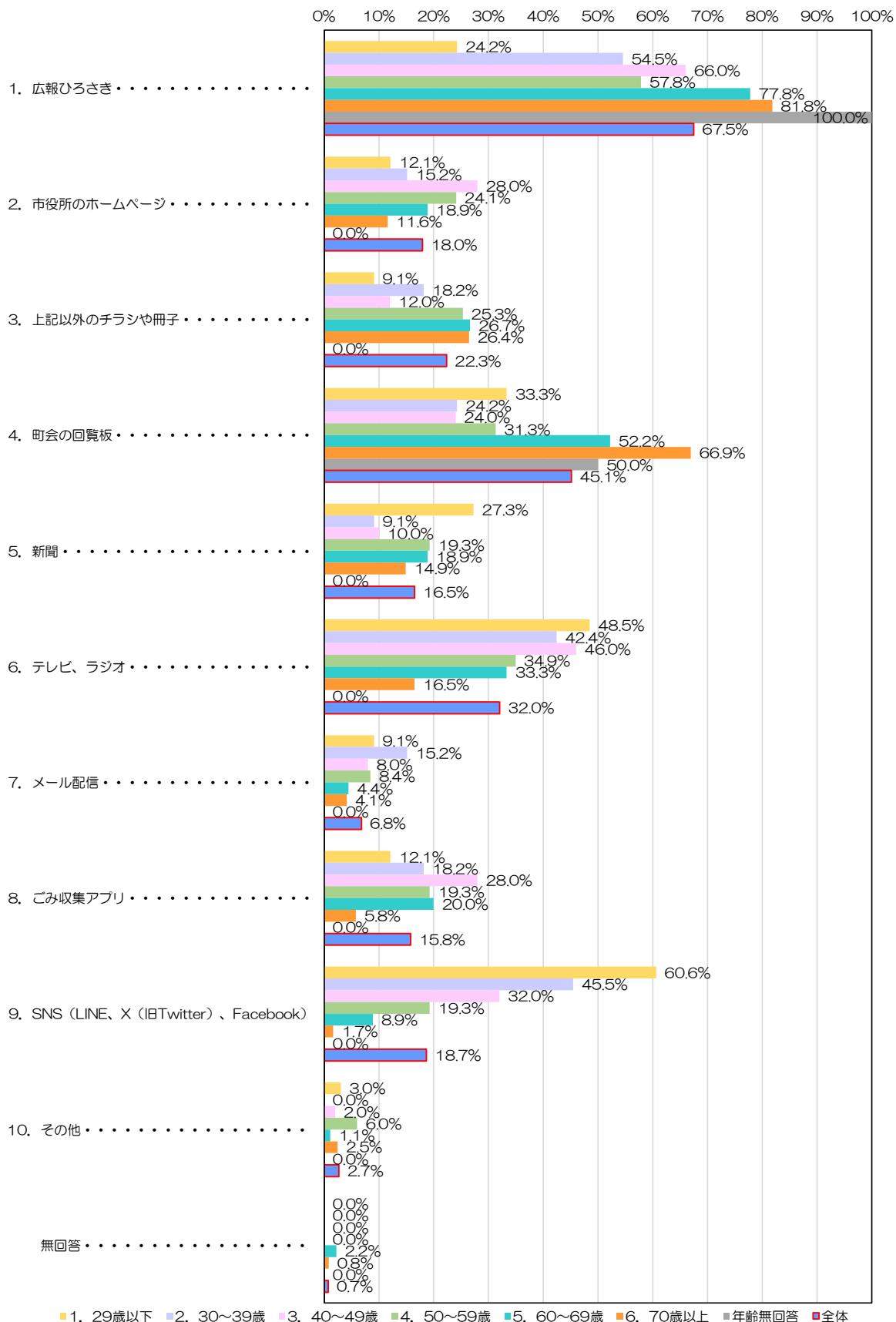


(「その他」の内訳)

- ・スーパーで目に付いたら読む。
- ・ゴミ集積所にわかりやすいイラストの掲示を行う。
- ・駅、スーパー、銭湯などに一斉にキャンペーンポスターを出す。
- ・携帯を使いこなせないため7~9はできない。
- ・広報ひろさきのSNS化。
- ・職場での情報。
- ・市役所に行って資料をもらったり、見に行っている。
- ・分からぬ。

-----【参考】(年齢別)-----

29歳以下 : n=33、30~39歳 : n=33、40~49歳 : n=50、50~59歳 : n=83、60~69歳 : n=90、
70歳以上 : n=121、年齢無回答 : n=2、全体 : n=412

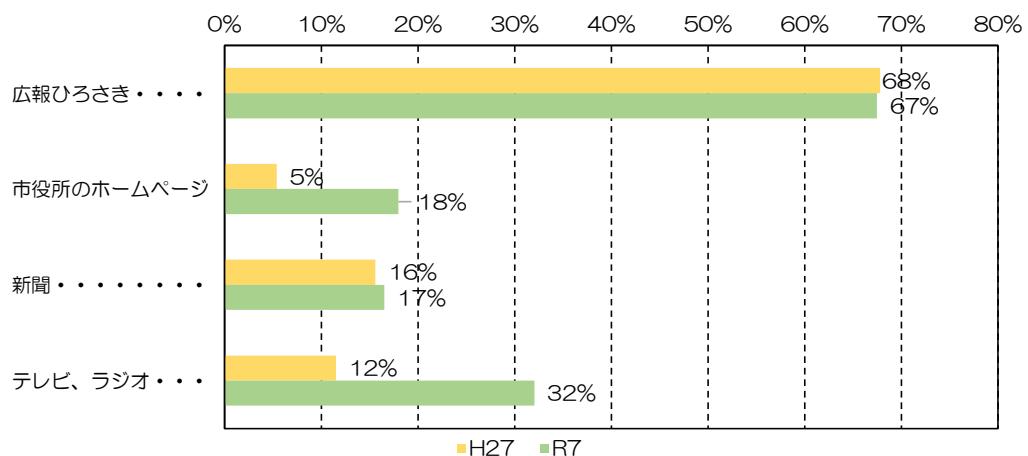


■1. 29歳以下 ■2. 30~39歳 ■3. 40~49歳 ■4. 50~59歳 ■5. 60~69歳 ■6. 70歳以上 ■年齢無回答 ■全体

-----【参考】(H27 アンケート調査時との比較) -----

平成 27 年度と比較すると、今回調査（令和 7 年度）では、「弘前市のホームページ」「テレビ、ラジオ」を利用しやすいと回答する人の割合が高くなりました。

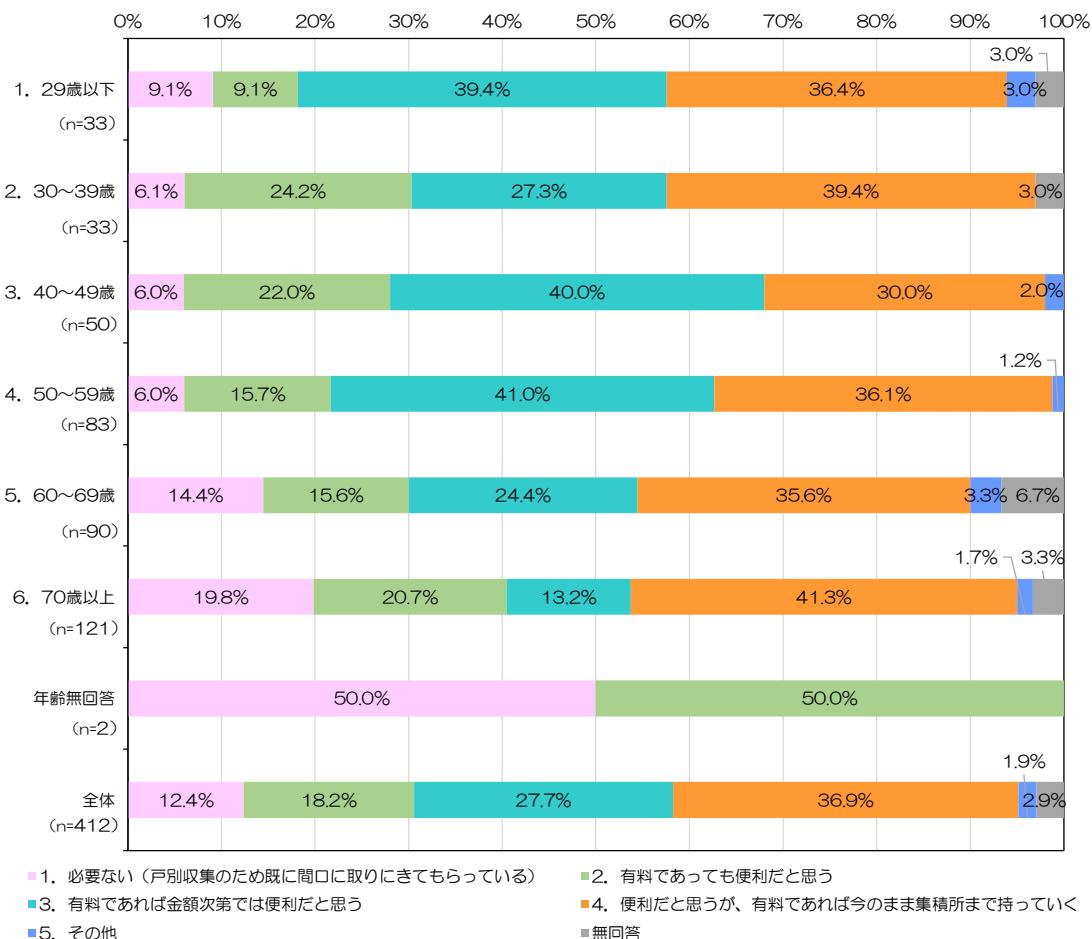
(注) 今回アンケート調査（令和 7 年度）と平成 27 年度アンケート調査では、項目が一部異なるため、比較可能な項目を抽出しています。



Q14 多くの自治体で実施している、有料で各家庭の間口まで大型ごみを収集に行くサービスについてどう思うか。（該当する選択肢 1つ選択）

有料で各家庭の間口まで大型ごみを収集に行くサービスについて尋ねたところ、「便利だと思うが、有料であれば今そのまま集積所まで持つて行く」と感じている割合が最も高かったものの、「金額次第では便利だと思う」と答えた割合も比較的高い傾向にありました。

なお、年代別に見ると、年齢が高い方ほど、「便利だと思うが、有料であれば今そのまま集積所に持つていく」と答えた方の割合が高い傾向にありました。



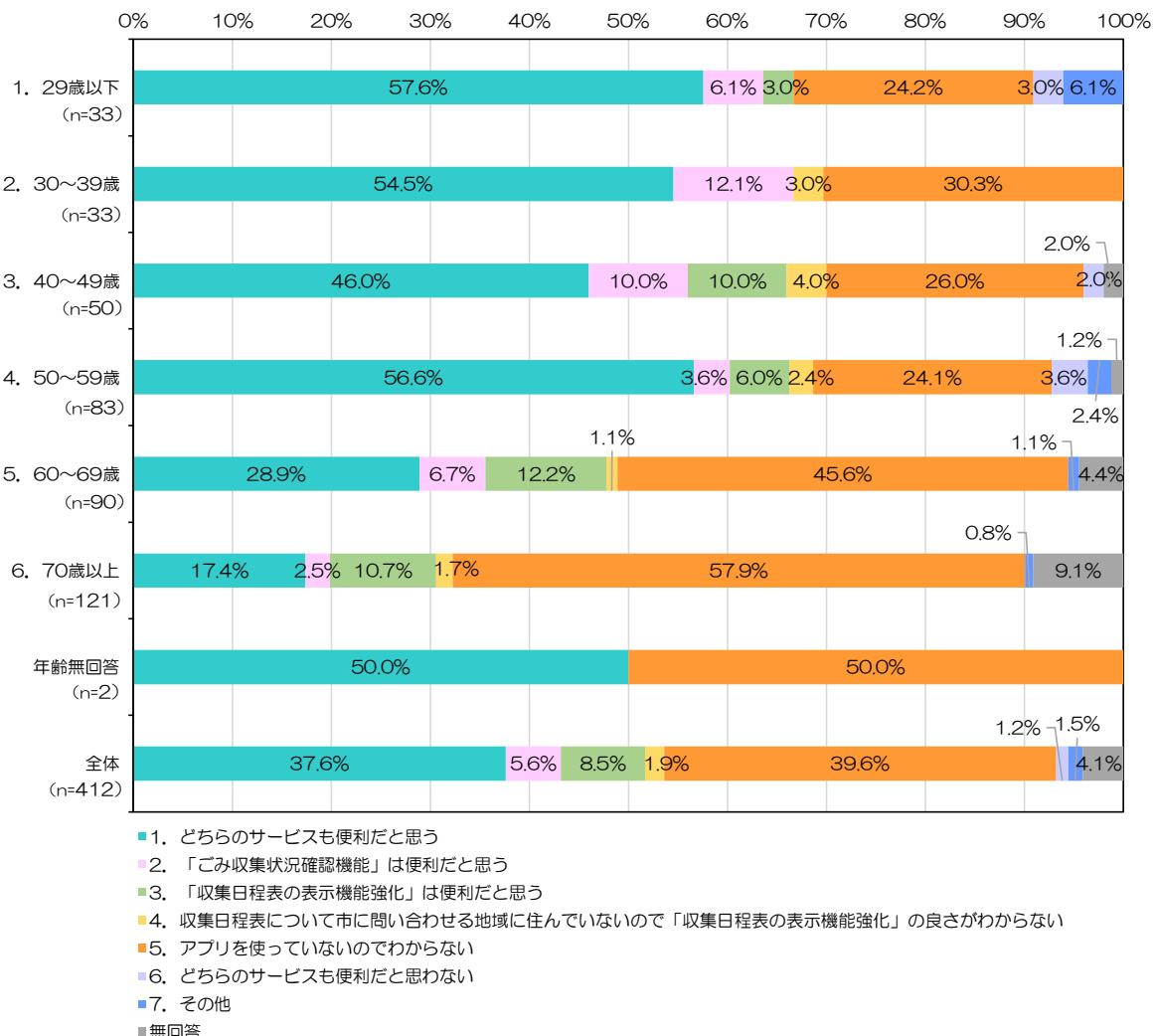
（「その他」の内訳）

- ・車の無い人のために、あればいいと思う。
- ・便利かもしれないが、新品購入の際に下取りとか引き取りサービスがあるからそこまで必要ではない。
- ・考えたこともない。
- ・不要。
- ・分からない。

Q15 本市ではごみ収集の利便性向上を目的に、「ごみ収集アプリ」に「ごみ収集状況確認機能」、「収集日程表の表示機能強化」の追加を検討している。これらの機能が追加された場合、どう思うか。(該当する選択肢 1 つ選択)

本市では、ごみの収集日をお知らせする「ごみ収集アプリ」があります。このアプリに2つの追加機能を検討していることについて尋ねたところ、「便利だと思う」と「アプリを使っていないのでわからない」が二極化した回答となりました。また、「その他」の意見として、いくらアプリが便利になっても個人がルールを守らない限り本市のごみ問題は解決しないといった意見も寄せられました。

また、年齢が若い方ほどアプリの利用率が高い傾向にあることから、アプリの利便性の向上及び普及を図っていく必要があると考えられます。



(「その他」の内訳)

- ・アプリ使ってないものもあるが、収集したかどうか見に行けばわかる。そもそも収集時間の指定もある。
- ・アプリ使ってないが、どちらも便利なように思う。
- ・スマートフォンを持っていない。
- ・分からぬ。
- ・きちんとした出し方をしない人がいる限り、どのような便利機能があっても無駄だと思う。

Q16 本市のごみ行政における課題・問題点、今後の方向性等についての意見等。(自由記述)

本市のごみ行政における課題、今後の方向性について尋ねたところ、多くの意見が寄せられました。

【テキストマイニング】

寄せられた意見の内容をもとに、出現頻度が比較的高い単語を抽出しました。

意見の内容から、「収集」「回収」「リサイクル」「ゴミ袋」「意識」「有料」といったキーワードが多く記載されました。

※：文字の大きさは出現頻度が高い単語であることを示します。文字の色や文字の向きは任意で設定しています。



【主な意見の内容】

●意識、モラル、マナーについて

- ・市民のごみ処理意識の低さがごみ減量化の進まない理由だと考える。
 - ・学生や新しく入居した人、町会未加入者など一部の「分別意識・マナーの低さ」が目立つ。
 - ・自治会に参加しない方のごみの捨て方が良くないことがある。対応しきれず負担がかかりすぎる。
 - ・市民みんなで取り組まないといけない。市の広報や回覧板に、リサイクル率が低い現状や改善進捗状況、問題点等を毎月掲載して、少しでも市民に対して意識付けすることが必要だと思う。
 - ・「誰かが片付けるだろう」という他人事意識が問題だと思う。根気強い啓発やメリット付与（報奨）が有効ではないか。
 - ・今後もこの状況が続ければ、他市町村のように有料化に踏み出すしかないといった市民への影響を伝えていければ、1人1人が考える一歩になるのではと思う。
 - ・アンケートを受領し、ごみ減量に対して意識づけができた。少しでも削減できるよう取り組みたいと思う。
 - ・収集日（ごみ出し時間）に合わせてごみを出してほしい。収集日前日からごみを出す人がいると、カラスが生ごみを荒らしている。特に夏場は悪臭がひどい。
 - ・集積所にゴミを出す時間（朝出し）は職種によって守れないため、融通を利かせて欲しい。

●ごみ収集アプリ、冊子（ごみ分別ガイドブック等）について

- ・ゴミの分別については、市のアプリがとても役立っていて使いやすい。
- ・ごみ収集アプリの使用率がどの程度なのか知りたい。
- ・アプリを使ったことがなかったのでインストールしてみた。便利そうだ。
- ・ごみ収集アプリがあることを知らなかった。
- ・ごみ収集状況確認機能を追加した場合、朝出しルール（8:30までに出す）が無意味になるような気がする。
- ・収集日程表では、排出項目別に色分けして、ごみを出す日が書いてあるので、一目見れば分かるようになっていてとても楽に捨てている。
- ・アプリでごみ分類を調べる際、「環境課まで問い合わせしてください」と表示される場合がある。問い合わせせずともアプリ上で教えてほしい。
- ・市で出しているごみ分別のマニュアル本がボロボロになるので5年に1回でもいいので配布してほしい。
- ・ごみ回収のカレンダーを新聞などでも表記して、毎日目に入るようにして欲しい。

●草木の処分について

- ・草ごみも相当量が出ていると思うので、生ゴミとは別に収集場所を考えても良いと思う。
- ・周囲の畠をやっている人の中には、畠で出た草や野菜のくずや落ち葉などを毎回、ごみ袋をいくつも出している。畠のすみでたい肥にするなどしたら良いのにと思う。

●市の取り組みについて

- ・市の対策もがんばっていると思う。
- ・行政で取り組んでいる具体的な内容が分からない。
- ・リサイクルに関する取り組みをほとんど知らなかったので、手軽に知れる機会があれば良いと思う。
- ・目に見える施策をしてほしい。
- ・3010運動を市民だけではなく市議、県議にも徹底させるべきだと思う。
- ・本市が他と比べてゴミの量が多い理由が分からない。調査が不十分なのでは。何処と比べて何がどれくらい多いのか。理由を明確にしなければ、対処法も見つからないと思う。
- ・ゴミが市の収入になる仕組みがあると参加したい。市営の不用品交換センターでも良いと思う。
- ・公共場所のごみや草刈だけではなく、空き家や空き地のごみも集めてほしい。
- ・高齢者に負担を感じることなくごみ捨てができるように行政も考えてほしい。

●ごみの分別について

- ・ごみ分別が分かりにくい。
- ・ごみの分別はもっと簡素にしてほしい。
- ・汚れたダンボールは資源回収できないため、燃やせるごみに出したら資源物回収に出すようシールを貼られて回収してもらえないかった。この場合どうしたらいいのか。
- ・きれいな商品の外装を燃えるごみとして捨てているため、それも回収できるようになるといいと思う。
- ・今一番多く出るごみは食品の白色トレーや透明容器だと思う。
- ・きちんと分別してほしいというのが市の理想だと思うが、生活している側からすると、厳しすぎるのはよくないと思う。食べ残し等の容器の処理の仕方で、高齢者や単身者、学生から「もういやだ」という声を聞く。もちろん洗って出すことは当たり前と考えているが、洗いづらいものは燃やせる日に出してもOK等の分別弱者への配慮をしてほしい。
- ・各地域によってごみの分別が一律としていないのはなぜなのか。
- ・バスも減便になり、障害者や病人はスーパーへ買い物に行くこともできなくなったので、分別していないものは燃やせるごみか、燃やせないごみに出すしかない。
- ・今後高齢になったときに分別やごみ捨て、ごみ出しに関して不安を感じている。

●ごみ出し、収集、回収について

- ・電池の捨て方について、+にセロテープを貼ってもメーカーによってははがれてしまう場合がある。
- ・リチウムイオンバッテリーの回収を簡易化してほしい。
- ・集積箇所以外に各戸で排出していることについて、集積作業者の負担になっていると思う。
- ・雑誌、雑がみと新聞の回収日を同じ日にしてほしい。
- ・昼頃にならないとごみ収集に来ない地区もあるので、早めに（時間帯を一定にして）収集してほしい。
- ・生ゴミ（燃えるゴミ）はカラスに荒らされるので午前中の早い時間帯に収集してほしい。
- ・生ゴミに対するカラス対策をしてほしい。ゴミ収集箱のゴミを網で覆っても下から入って散らかしている。
- ・年始のごみ収集をしてほしい。
- ・月1回のみの収集品目だと、チャンスを逃すと1ヶ月捨てられないので回数を増やしてほしい。
- ・収集の時間がある程度わかるようになると、とてもありがたい。
- ・ゴミ収集員として働いている芸人など、地域のゴミ収集に詳しい人に市の現状を伝えて意見を聞いてみてほしい。
- ・危険ごみの日に対象品目以外のものが1つ入っていたために回収されないことがあったが、それだけ除いて収集してくれても良いのではと思う。
- ・食品トレーや衣類等もごみ集積所に出せるようにしてほしい。
- ・ゴミを出すのに車等が無いため不便。
- ・高齢なので収集場所にもって行くのも大変。
- ・大型ごみを家から出すのに人手が必要で運べない。車（トラック）もないので収集場所に持つて行けない。
- ・年を重ねると分別の遠い場所へは無理な所もあり、各町内ですべて出せるようであればと思う。

●環境教育、啓発について

- ・ごみの分別やリサイクルといった意識は、小さい頃から生活の一部として溶け込ませる必要があると思うので、小学生や中学生を対象に、道徳教育や出前講座を強化して、ごみ分別に対する教育や意識づけの機会を増やしてほしい。
- ・大人になってしまふと、一度ついた悪い習慣はなかなか正しい方向へ行かないと思う。
- ・将来のために小学校から学んでほしい。
- ・教育で理想モデルを示して、ごみ処理について考える機会を設けても良いと思う。
- ・ごみのマナーが悪い人が多いため、もっと啓発活動が必要。

●収集場所について

- ・集積所が狭い。ゴミステーションが自宅から遠い。
- ・町内会に入っている人しかごみ収集場所が使えないと書いてあったが、町内会に入っていない人はごみを何処に出せばいいのか。どこの収集場所も、町内会に入っていないと出せないのか。
- ・道の狭い場所で収集車が作業をしているとき、反対車線に車が来ているか見えづらく、追い越すことが難しい場合がある。
- ・車道に面した場所に集積所があるところは朝の車の通勤ラッシュとかぶり、とても危ないと思っている。必要に応じて見直しもお願いしたい。
- ・冬のゴミ捨て場の管理。
- ・ごみ場所をきちんと設置してほしい。箱などカラスに狙われないようにお願いしたい。
- ・ごみの収集場所を1か月ごとの当番制にして、当番の玄関先がごみ収集場所としている。毎月収集場所が変わるので収集作業者は大変だと思うが、町内のごみ出し時間、捨て方等に気づきが出て、自分ごととして捉えられて良いと思う。

●ごみの有料化、指定ごみ袋について

- ・ごみ袋を有料化するといった必要性も検討すべきだと思う。
- ・ゴミ袋を指定の有料にしたら減らそうとする人が増えると思う。
- ・市のゴミ袋をスーパーマーケットで販売出来たらと思う。また補助があると各家庭で同じものが使ってよいのでは。
- ・大型ゴミに関しては有料化も検討し、ゴミ収集の財源に当てても良いと思う。
- ・市指定ゴミ袋のみ使用可にするといった検討も必要。
- ・他地域に住んでいた際、ゴミ袋の料金がとても高かったので自然にごみを減らすよう工夫していた。
- ・以前住んでいた所は粗大ごみ収集が有料で、大きさや種類で値段も変わっていた。
- ・指定ごみ袋に名前を記入することで自分のごみに責任意識を持たせる取り組みは必要だと思う。
- ・大型ごみ等はコンビニ等で料金を払いシールを貰う方式にして、家の前まで回収に来て欲しい。
- ・洗濯機等の大型ごみについて、料金の支払いがあってもいいので年に何回か回収してほしい。
- ・大きな庭や畑をしている方は毎回多量にゴミ袋を出している。自分たちで処理するか有料にするべき。
- ・ごみ袋が有料でないのはとてもありがたいが、それが原因で弘前市のごみの量が多く、マナーが悪くなっているように思う。
- ・指定ごみ袋の価格はあまり高額にして欲しくない。
- ・ごみ収集の有料化はしないでほしい（無料のままがいい）。
- ・ゴミ袋有料化は反対。
- ・収集が有料となれば市民は黙ってはいないと思う。
- ・リサイクルを向上させるのであれば有料では意味がない。
- ・他市町村ではリサイクル、ごみ収集手数料等でゴミ袋が高額で逆に不法投棄が増えていると思う。
- ・農作業のごみを入れるのに市のゴミ袋は強くて破れないので大変助かる。
- ・弘前市の分別はわかりやすくゴミ袋も安価なので、年金生活者にも負担が少ないと思う。
- ・弘前市はゴミ袋も半透明であればいい。
- ・スーパーなどのレジ袋をゴミ袋として活用できていて非常に助かっているので今後も継続してほしい。

●処理施設について

- ・家庭菜園等で発生する、土を処分できる施設が欲しい。
- ・プラスチックも燃えるごみで良いので、ダイオキシンの出ない焼却炉を使ってほしい。

●不法投棄、不法回収について

- ・他の地域や他の町会の人が車で来て排出している。
- ・市外からのごみの持ち込みをどうにかしないと減量してもだめな気がする。
- ・ごみ集積所の数を個別に増やすと不法投棄が減ると思う。
- ・路上にポイ捨ては困る。
- ・時期によっては他の地域の人がごみを町内の収集場所に捨てていく。引っ越し時に発生するごみに関しては、別に契約する方法もあるのではないか。
- ・不法業者が資源物やリサイクル可能なものを持って行ってしまう。
- ・カメラを積極的につけた方が良いと思う。
- ・マイナンバーや AI を活用できたら、不法投棄を減らせるかもしれない。

●減量化、リサイクルについて

- ・回収資源が有効利用された実績（成果）を教えてほしい。
- ・リサイクルに出した物の、その先を詳しく知りたい。知ることで未来への意識が変わるとと思う。
- ・資源ゴミを分別させて回収するからには、ちゃんとリサイクルされているのか検証して公開してほしい。
- ・カテゴリー1 つずつの数値を出して発信し、達成率を感じられるとよい（例えば、「弘前市ペットボトル回収率90%」など）。
- ・リサイクルステーションを増やして欲しい。
- ・衣類回収をもっと増やしてほしい。
- ・市の収集と民間の回収ステーションどちらも有難い。
- ・アルミ缶だけでなくスチール缶の回収もしてほしい。
- ・ペットボトルのふたを回収してほしい。
- ・紙パック、食品トレー、衣類、雑誌の回収があれば出したい。
- ・透明容器、トレー専用の資源ゴミの回収、または回収ボックスを増やしてほしい。
- ・スーパーなどに設置されているリサイクルボックスで回収するものを一律にしてほしい。
- ・スーパーなどで、トレーなど使わずに販売はできないか。衛生面や企業側の努力も必要になってくると思うが、トレイやナイロンなどが、購入後のごみになってしまうので。
- ・公共から送られてくる封筒だけでも、宛先部分をフィルムにしないで紙にしても良いと思う。紙にすることでそのまま雑紙リサイクルに出せる。
- ・食品関係のトレー、紙パックなら市内スーパー店舗に協力してもらい官・民連携して取り組むのはどうか。
- ・使える物だけ置き場（無料で持ち帰りOK）があるといい。
- ・子どもの成長などで服などがすぐ小さくなるので、学校にお下がりを提供できる部屋があるといい。
- ・アナログな掲示板（欲しいもの、あげるもの）があるといい。
- ・生ゴミコンポストを持家世帯に配布してほしい。
- ・記事を参考にしたりして、ごみを出さない工夫をしているが、買い物に行くと食品トレーやパックなどごみが大量に出てしまう。
- ・今現在の生活ではできるだけリサイクルなど利用しようと思っている。
- ・資源ごみであっても市の回収ルールでは燃やせるごみ扱いなので、資源ごみが無駄になっていると思う。
- ・使用できるものはなるべく捨てずに再使用するようにしている。
- ・必要以上に物を買わないようにしている。
- ・食品の白色トレーや透明容器ができるだけスーパーの店頭回収ボックスへ持って行きたいと思っているが、車がないため、時間をかけて歩いている。冬や暑い日が続くと、なかなか持って行けない。

●罰則、指導について

- ・各事業所への立ち入りを強化し、実態をつぶさに見てほしい。
- ・各スーパー等の食品トレーの多用に対して、指導を強化していただきたい。トレーを使用すると確かに見栄え良く思われるが、食生活に不用になることのほうが多く、ごみは減らず、価格も商品に上乗せされる。消費者にとっても良いことは何もないと思う。
- ・事業所から排出されるごみは有料だが、だからといって大量廃棄しても良いということではないと思う。
- ・ピンポイントの指導というより、社会全体から見たごみの減量、リサイクルに目を付けてほしいと思う。
- ・国民、市民、各個人に対してはスーパー等のエコパックを強力に推し進めているが、バックヤードでは大量にビニール袋が使われている。この実態に光を当てて、指導対象にしてもよいと思う。
- ・季節のイベントなどで食品を大量に捨てていると思われる所以、家庭での努力はもちろんだが、店側の考え方の指導も必要だと思う。
- ・ごみにならない包装など事業所の取り組み方も進めていけたらよい。
- ・小売業と連携し、はかり売りを多くする。
- ・ホテルの会食や飲食店で持ち帰りを禁じているが、行政で持ち帰りを推奨すればよいのではないか。

●周知、サポートについて

- ・周知方法の検討が必要だと思う（学校や企業への訪問等）。
- ・市で回収していない物、ごみと資源物の区別など、様々広報が必要だと思う。
- ・よくある間違ったごみの分別や出し方をイラストでわかりやすく示してみるというのはどうか。
- ・引き続き現状の様々なデータを可視化、広報し、一人ひとりの当事者意識の醸成や啓発を行ってほしい。
- ・資源やりサイクルの対策をすることが身体的な理由などで難しい人もいると思うので、そのような人でも日常生活で発生するゴミを気軽に処分することができるようアナウンスまたはサポートしてほしい。
- ・まず（アプリやキャンペーンを）知ってもらうことから始めても遅くはないのではと思った。どのような結果になってもできるだけ協力していきたいと思う。
- ・市のホームページやSNS、会報での情報提供をしてほしい。
- ・スマホは持っているが、インターネットを使いこなせていないため、ネット情報を活用できずにいる。
- ・リサイクル品の出し方について、回収ステーションやスーパー等への持ち込み、PTA等の集団回収へ出した方が市として利点なら、具体的に説明や宣伝が必要だと思う。
- ・紙媒体やSNS等で情報提供をしたとしても、流し読みする程度で終わってしまうか、そもそもSNSを見ない人が一定数いて、情報の伝達に苦慮すると思う。
- ・ペットボトルのキャップを回収する場所を広報などで教えてほしい。
- ・紙媒体での周知が多すぎるため、希望者に対してはデジタル媒体での周知を進めてほしい。
- ・白色トレーと衣類のリサイクルを推進するのであれば、もっと市からの排出の仕方等の説明や回収方法の改善（市が月一回収集するなど）が必要だと思う。
- ・高齢のためカタカナ表記（横文字）が分からない。
- ・インターネット、スマホのできない人（高齢者など）を忘れないでほしい。

●その他

- ・このアンケートも紙を使用しているので資源の無駄ではないかと思った。
- ・いつもゴミ回収ありがとうございます。いつも助かっています。*/がんばれ/*ごみ減量、リサイクル活動お疲れ様です。
- ・まだまだ知らないことが多いと実感した。
- ・特段現状に不満はない。/満足している。/不便を感じていない。
- ・以前、ごみの分別について市に問い合わせたところ、きつい口調で返され、納得のいく説明がなかったためとても不快な気分になった。
- ・ゴミ出しでポイントなどあるのかもしれないが、あるならもっと発信してほしい。
- ・今のゴミ袋より大きめの45L用もあってよいのではと思う。
- ・スーパーにリサイクル品を持っていったら、スーパーのポイントが付くとうれしい。
- ・カラスが多くて大変。

4. 事業所アンケートの集計結果

(1) 調査結果の要約

設問はQ1～Q16まであります。設問ごとの回答状況の詳細は【集計結果】に記載していますが、ここでは、要約した回答内容を記載します。

●選択式設問の要約

- 回答事業所のうち、約79%は収集運搬許可業者と契約している。(Q4)
 - 収集運搬許可業者と契約している事業所のうち契約している分別区分は以下のとおり。(Q5)
可燃ごみ…約96% 資源物…約84%
 - 排出されるごみの種類で、特に多いのは以下のとおり。(Q6-1)
段ボール 新聞・チラシ OA用紙・雑紙等 従業員が消費したプラスチック容器
 - 排出される量が、特に多いごみの種類は以下のとおり。(Q6-2)
段ボール OA用紙・雑紙等 従業員が消費したプラスチック容器
- Q6-1～Q6-3より事業所では紙類、プラスチック類の排出が多い傾向にあることがわかる。
- Q6-1で「段ボール、新聞・チラシ、OA用紙類」を選択した事業所のうち、古紙類の処理方法について「オフィス町内会を活用」もしくは「その他リサイクル業者に引き渡している」といったリサイクルをすると回答した事業所が約72%となっている。(Q7)
 - Q6-1で「食品残さ」を選択した事業所のうち、約27%の事業所は「調理方法の工夫や歩留まりの改善」により食品残さの削減に取り組んでいると回答されている。一方、約77%の事業所は食品残さを減らす取り組みを特に何も行っていないと回答。(Q8)
 - 従業員が消費した飲料・食料のプラスチック容器を排出している事業所のうち、半数の事業所が「ペットボトルを分別している」と回答。一方、約26%の事業所では特に取り組んでいないと回答。(Q9)
 - ごみの減量化・資源化のために現在実践している取組みとして「ペーパーレス化」「素材・材料の再利用」「普及啓発」「事業所内でのごみの分別を徹底」の割合が特に高い。(Q10)
 - ごみ減量化等を進めるための課題で約47%の事業所が「分別作業が手間」と感じている。(Q11)
 - ごみの減量化等を進めるために、行政には「ルールを守らない事業所への指導を強化」「リサイクル事例の紹介」「減量化・リサイクルに役立つ情報を充実させてほしい」と感じている。(Q14)
 - 市からの情報提供は「広報ひろさき」「市のHP」「事業系ごみガイドブック」が使いやすいと感じている。(Q15)

●自由記述や「その他」回答内容の要約(主なもの)

- このアンケートによりごみ処理を考える機会になった。今後できることを考えたい。
- 法人設置届を出すごとに(支店の設置など)、ゴミ出しのルール、事業者の義務などを明示して文書で欲しい。
- リサイクルにかかるコストや効果をもっと発信して有効性をアピールすべき
- 事業所の代表者への教育 等

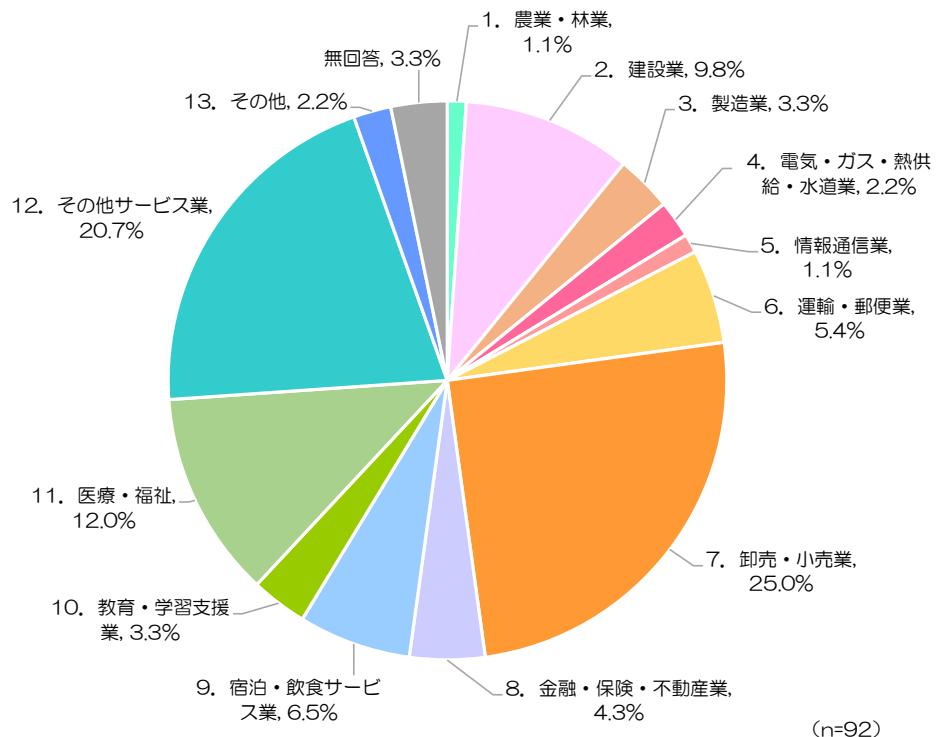
(2) 集計結果

(事業所について)

Q1 基本的事項

Q1-1 業種

回答した事業所のうち、業種は「卸売・小売業」及び「その他サービス業」の回答率が高い傾向にありました。

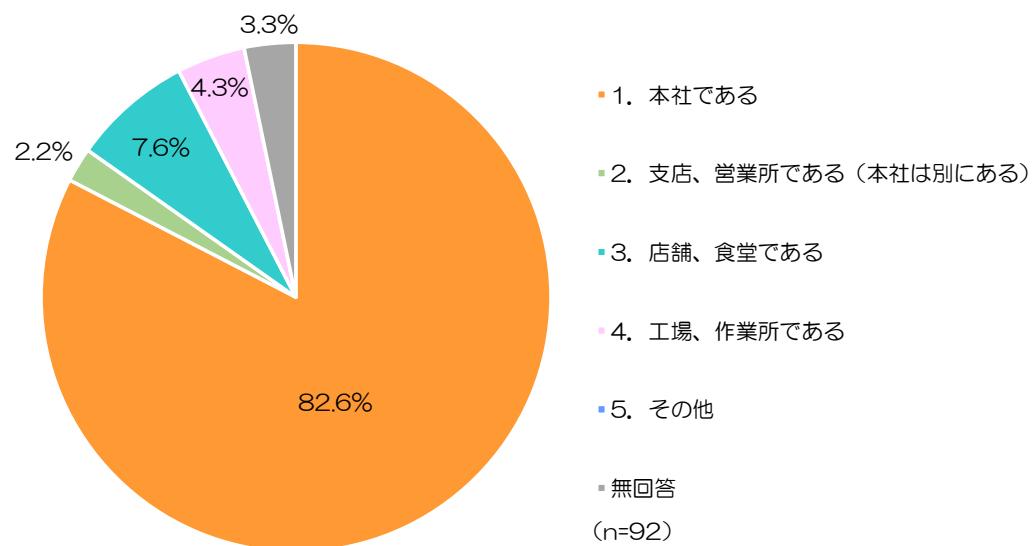


(「その他サービス業」及び「その他」の内訳)

- ・クリーニング業
- ・美容院
- ・スポーツチーム運営
- ・建設コンサルタント
- ・地質調査・設計・測量
- ・イベント備品レンタル他
- ・洗濯業
- ・総合事業
- ・ビルメンテナンス
- ・自動車钣金・塗装清掃・廃棄物処理
- ・コインランドリー
- ・清掃用品レンタル
- ・警備業
- ・清掃業

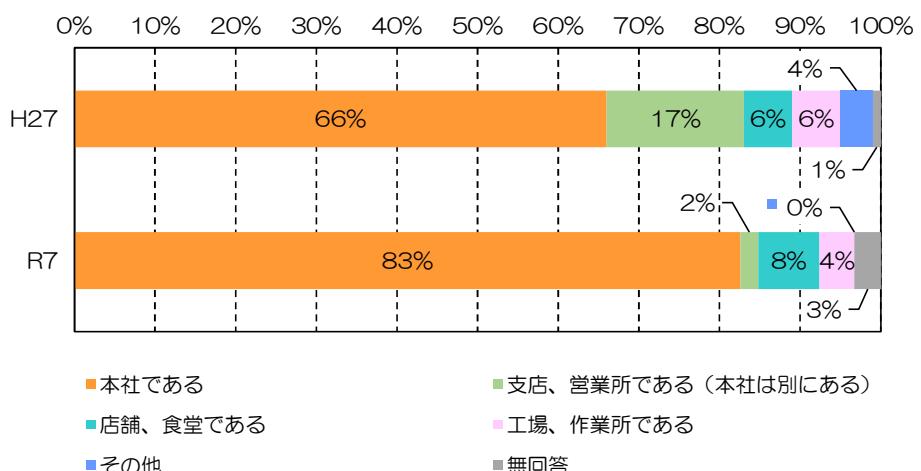
Q1-2 事業所の位置づけ・形態

事業所の位置づけ・形態を尋ねたところ、回答した事業所のうち約83%が「本社」でした。



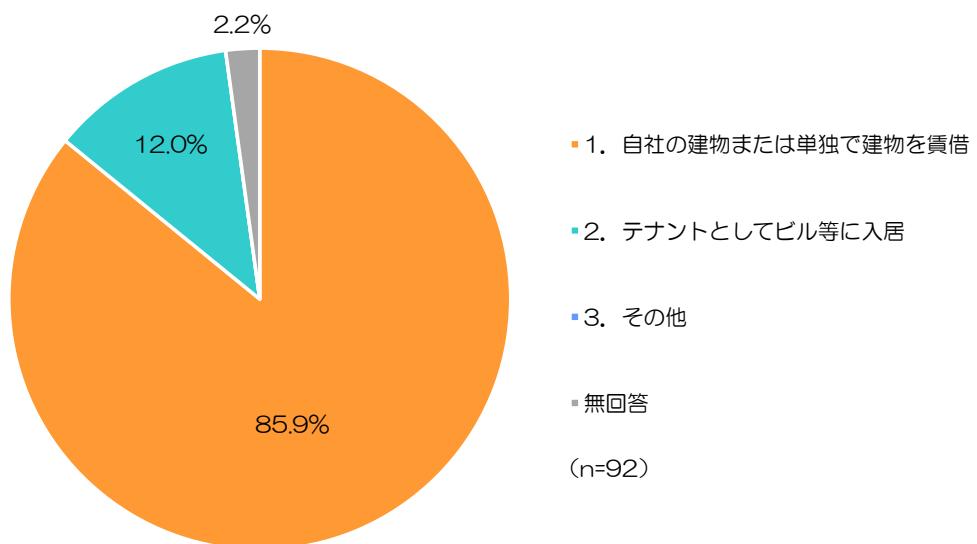
-----【参考】(H27アンケート調査時との比較) -----

H27・R7の比較結果追記



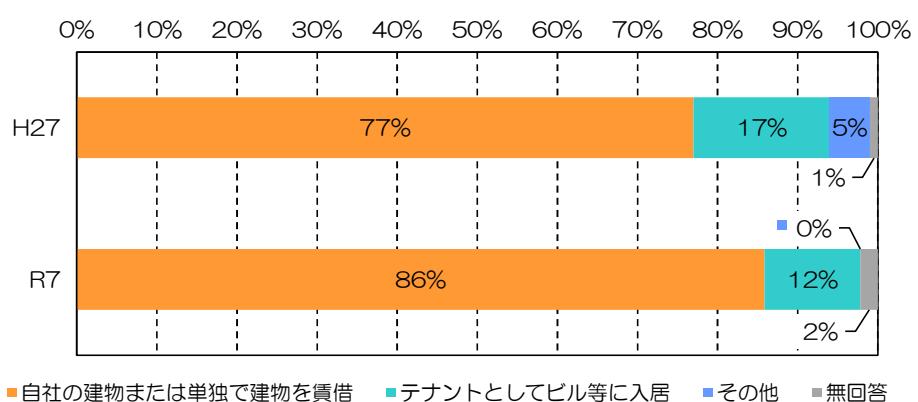
Q1-3 事業所の入居形態

入居形態を尋ねたところ、「自社の建物または単独で建物を賃借」が約86%と最も高くなりました。



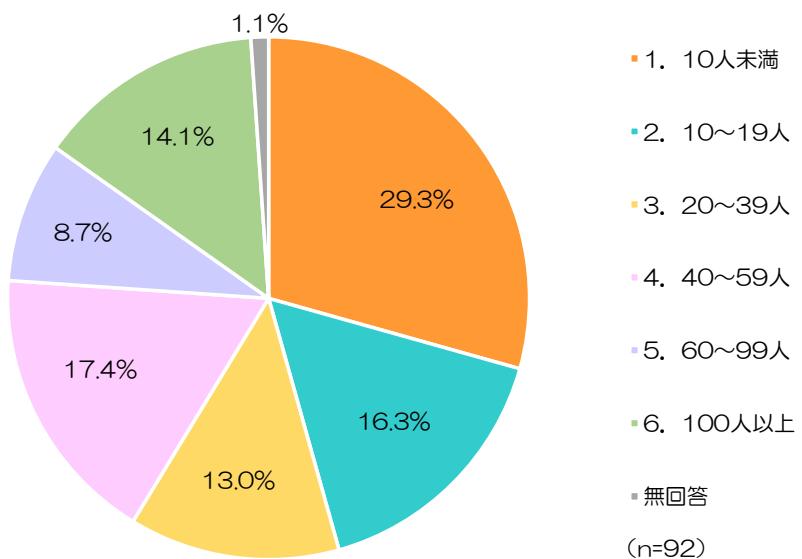
-----【参考】(H27アンケート調査時との比較) -----

H27・R7 の比較結果追記



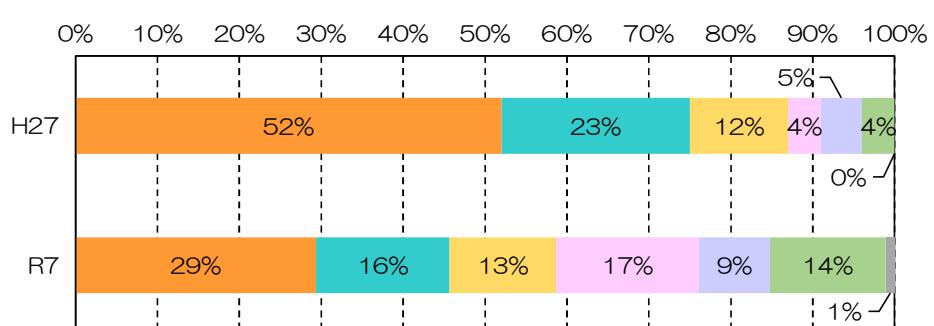
Q1-4 従業員数（パート・アルバイト等を含む）

事業所の従業員数を尋ねたところ、「10人未満」が約29%となりましたが、その他の選択肢は9～17%となっており、様々な従業員数の事業所から回答が得られています。



-----【参考】(H27アンケート調査時との比較) -----

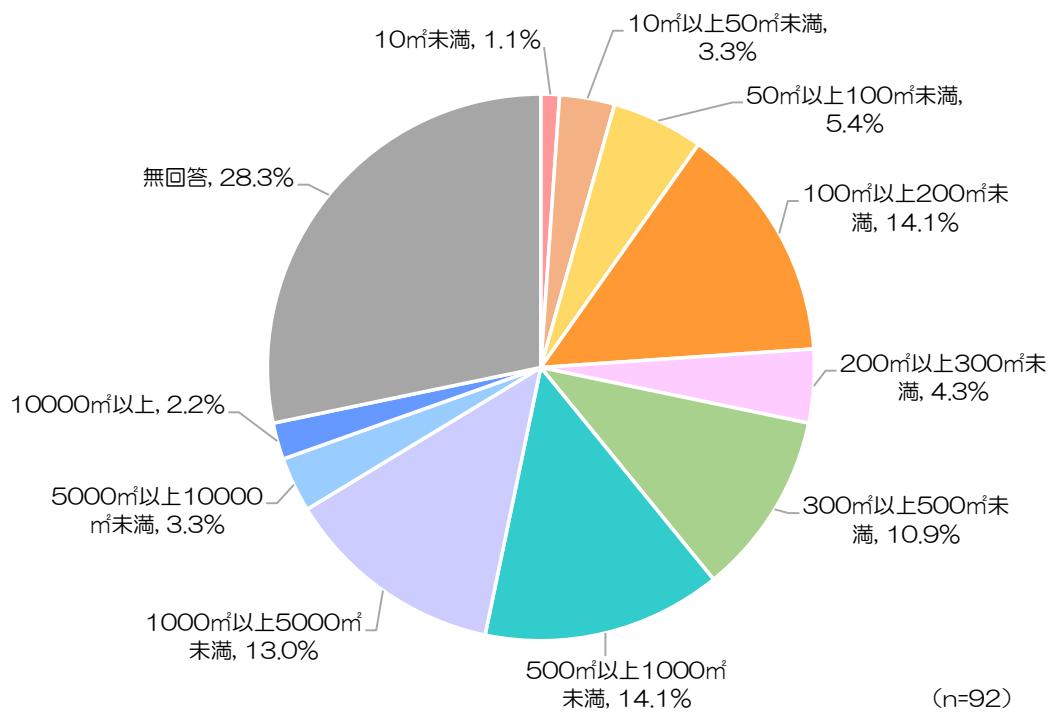
H27・R7 の比較結果追記



■10人未満 ■10～19人 ■20～39人 ■40～59人 ■60～99人 ■100人以上 ■無回答

Q1-5 延床面積

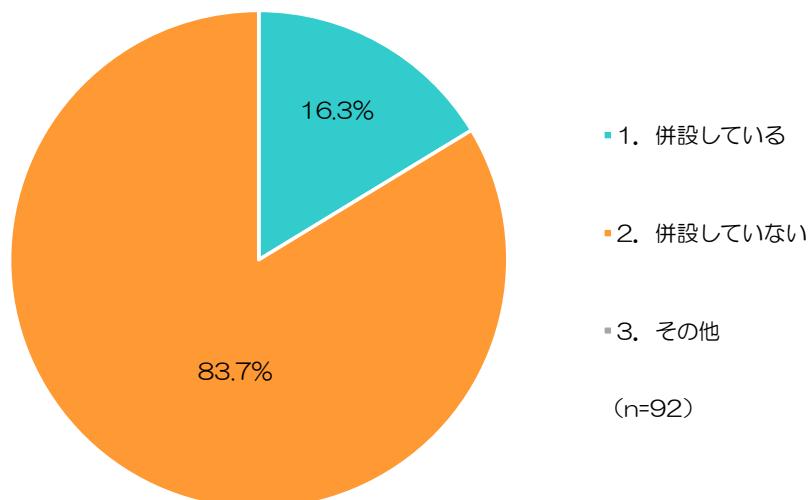
事業所の延べ床面積を尋ねたところ、「100 m²以上 200 m²未満」、「500 m²以上 1000 m²未満」の割合が高くなりました。



(事業所におけるごみの処理状況について)

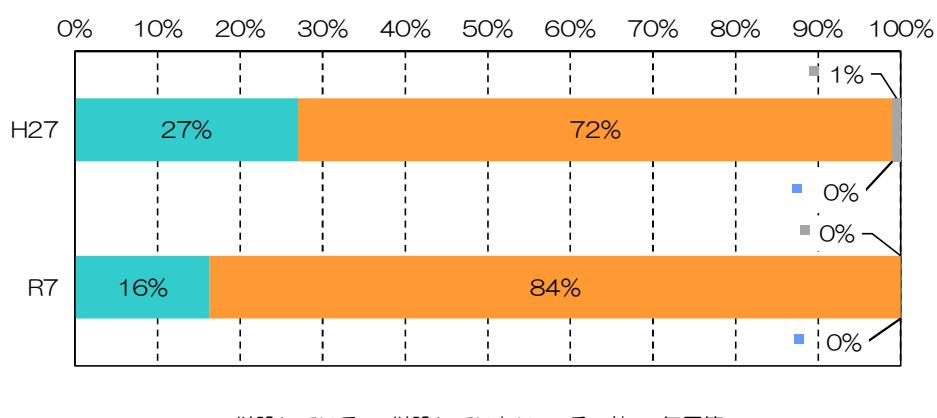
Q2 事業所は住宅を併設しているか。

事業所が住宅を併設しているか尋ねたところ、「併設している」と回答した事業所が約 16%、「併設していない」と回答した事業所が約 84%でした。



-----【参考】(H27 アンケート調査時との比較) -----

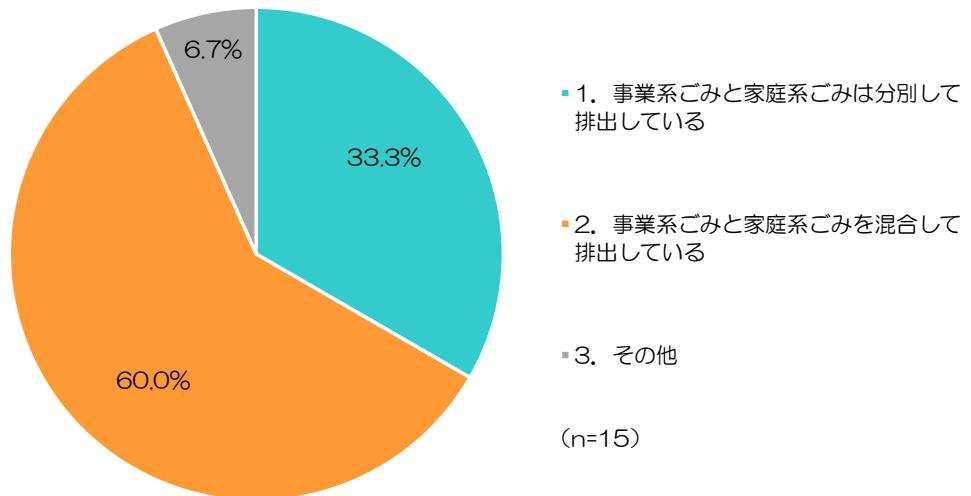
H27・R7 の比較結果追記



Q3 【Q2で「1. 併設している」と回答した事業所のみ回答】

事業所から排出されたごみの排出方法について。

Q2で「併設している」と回答した事業所（約16%）に対して、事業所から排出されるごみの排出方法について尋ねたところ、「事業系ごみと家庭系ごみを混合して排出している」と答えた事業所が60%で半数以上となりました。

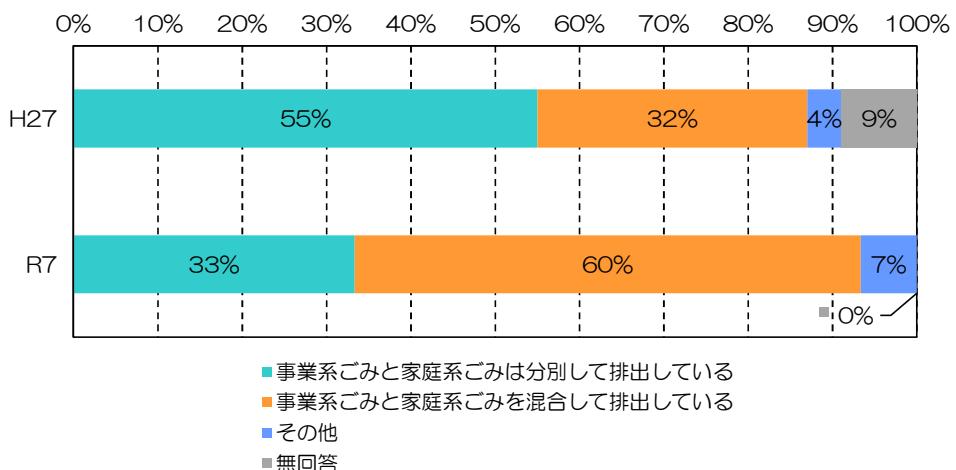


（「その他」の内訳）
訪問介護の事業なので事業系のごみは家庭用のごみとして排出している

H27・R7 の比較結果追記

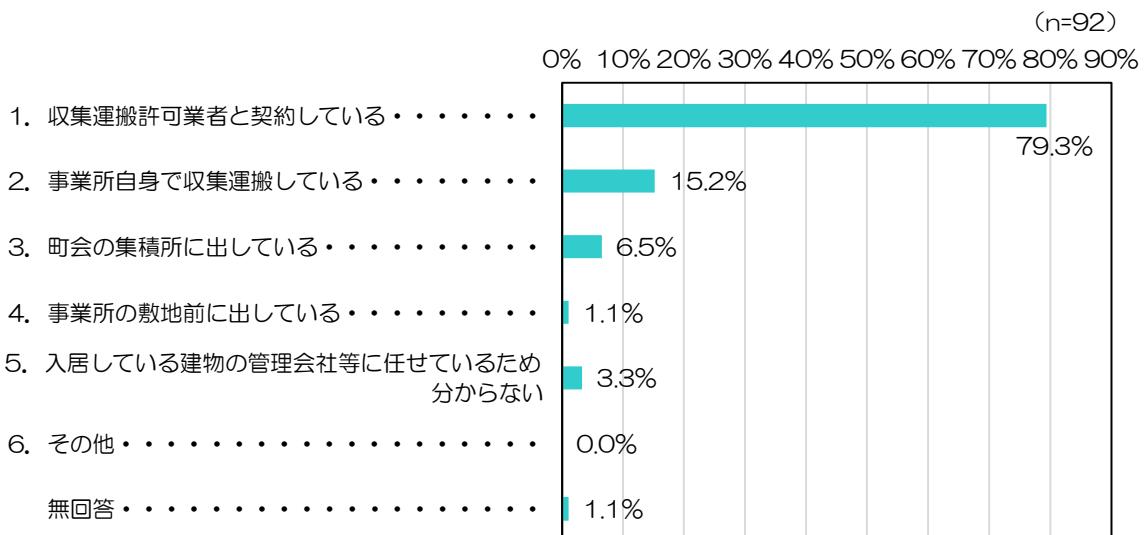
-----【参考】(H27アンケート調査時との比較)-----

平成27年度と比較すると、今回調査（令和7年度）では、「事業系ごみと家庭系ごみを混合して排出している」事業所の割合が高くなりました。



Q4 事業所のごみ処理体制について

事業所のごみ処理体制について尋ねたところ、約79%の事業所が収集運搬許可業者と契約していると回答しました。

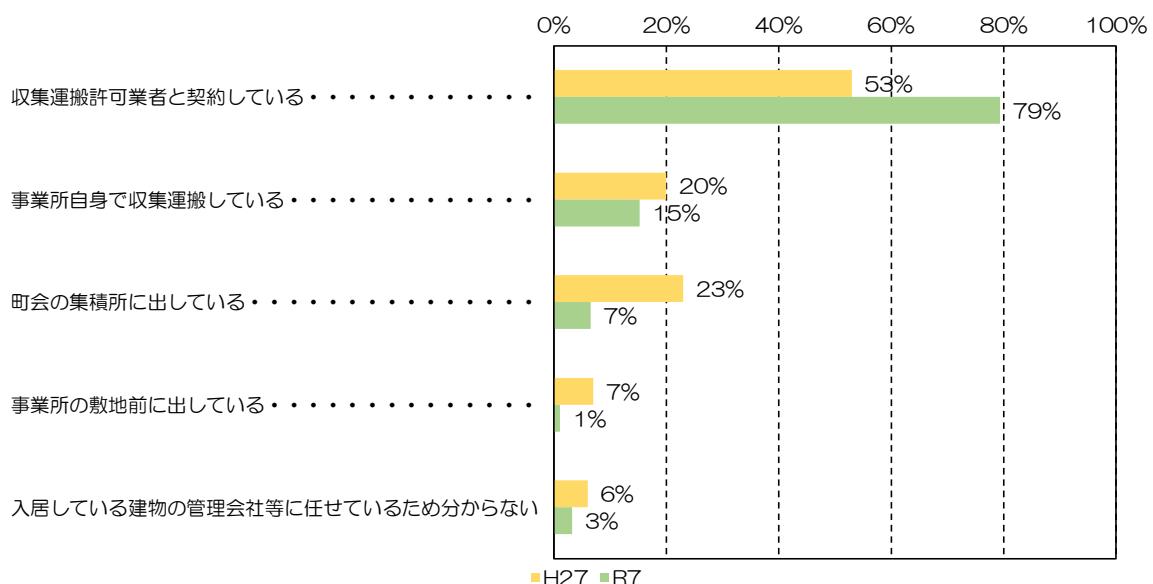


H27・R7 の比較結果追記

-----【参考】(H27アンケート調査時との比較)-----

平成27年度と比較すると、今回調査（令和7年度）では、「収集運搬許可業者と契約している」事業所の割合が増えています。

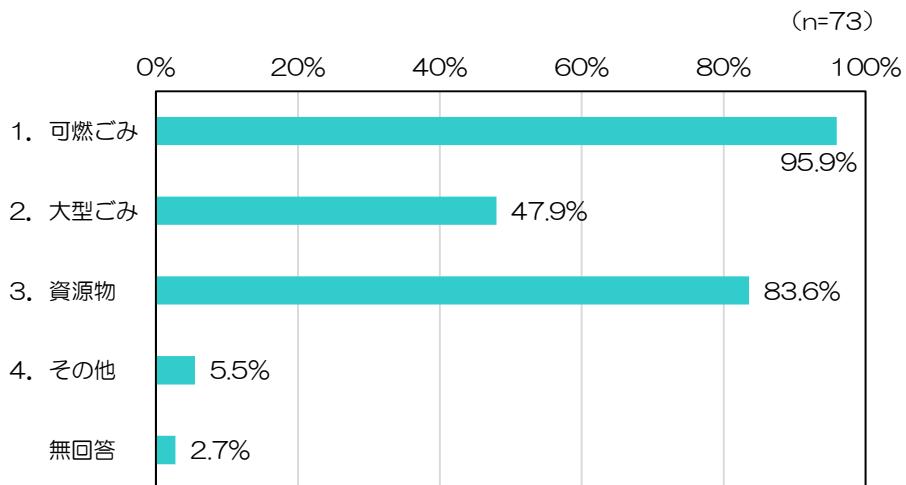
(注) 今回アンケート調査（令和7年度）と平成27年度アンケート調査では、項目が一部異なるため、比較可能な項目を抽出しています。



Q5 【Q4で「1. 市の収集運搬許可業者と契約している」と回答した方のみ回答】

事業所が業者と契約している分別区分について。

Q4 で「市の収集運搬許可業者と契約している」と回答した事業所のうち、契約している分別区分を尋ねたところ、ほぼすべての事業所は「可燃ごみ」を契約（約 96%）し、次いで「資源物」80%以上の事業所が契約していると回答しました。



（「その他」の内訳）

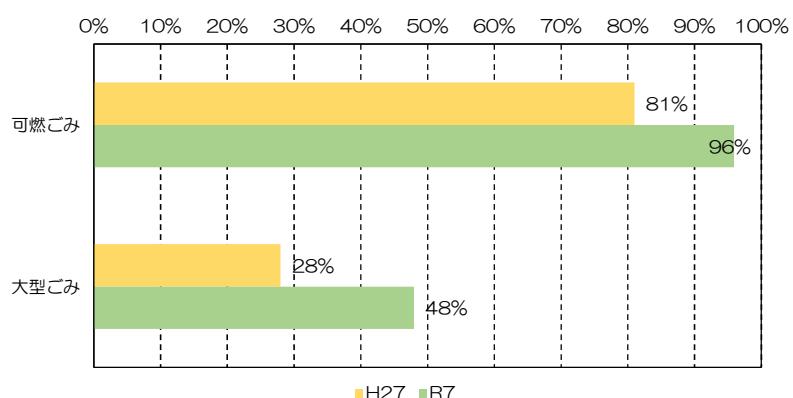
- ・産業廃棄物
- ・ペットボトル・缶
- ・医療用廃棄物

H27・R7 の比較結果追記

-----【参考】(H27アンケート調査時との比較)-----

平成 27 年度と比較すると、今回調査（令和 7 年度）では、可燃ごみ、大型ごみのいずれも契約する事業所の割合が増えています。

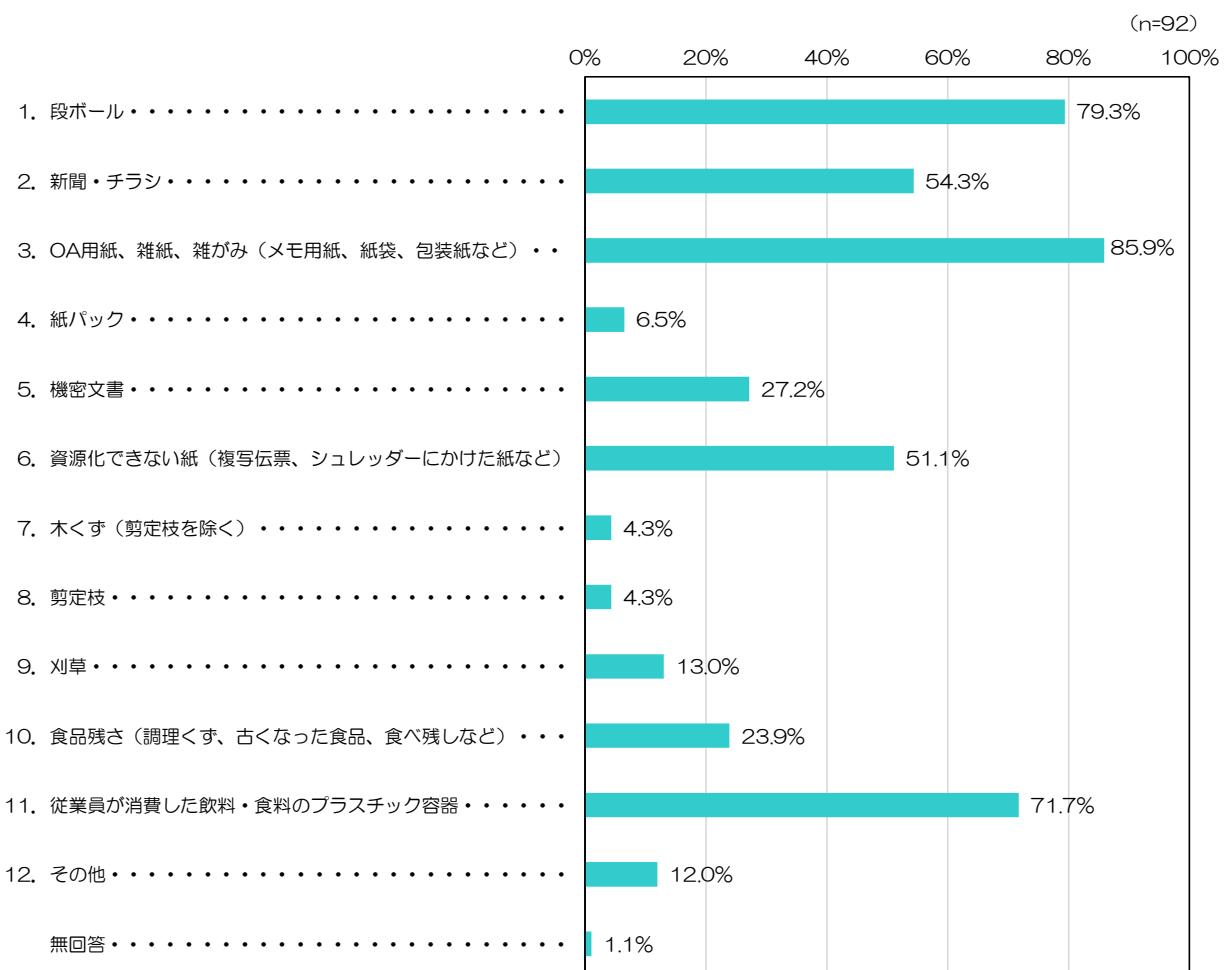
（注）今回アンケート調査（令和 7 年度）と平成 27 年度アンケート調査では、項目が一部異なるため、比較可能な項目を抽出しています。



Q6 排出されるごみの種類・量

Q6-1 事業所から排出されるごみの種類について（該当する選択肢全て選択）

事業所から排出されるごみについて尋ねたところ、多くの事業所で「段ボール」「新聞・チラシ」「OA用紙・雑紙等」「資源化できない紙」「従業員が消費したプラスチック容器」を選択しており、紙類やプラスチック類は多くの事業所で排出されていることがわかりました。



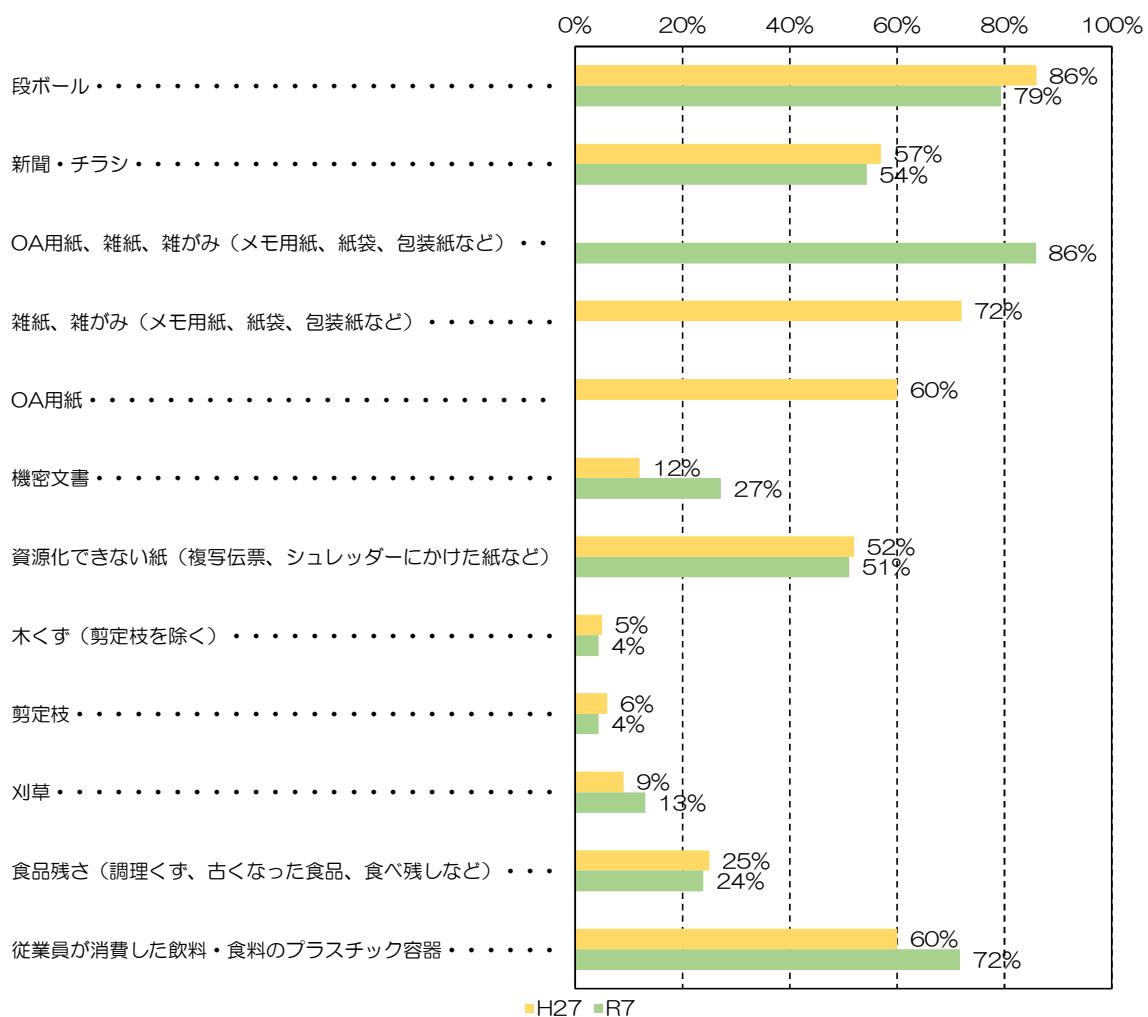
（「その他」の内訳）

- ・建設資材の雑材
- ・廃プラスチック、ガラス
- ・可燃ゴミ
- ・オムツ類
- ・野菜くず
- ・来客者が消費した飲料容器
- ・外壁材、モルタル
- ・髪の毛
- ・金属くず
- ・医療廃棄物
- ・発泡スチロール

-----【参考】(H27 アンケート調査時との比較) -----

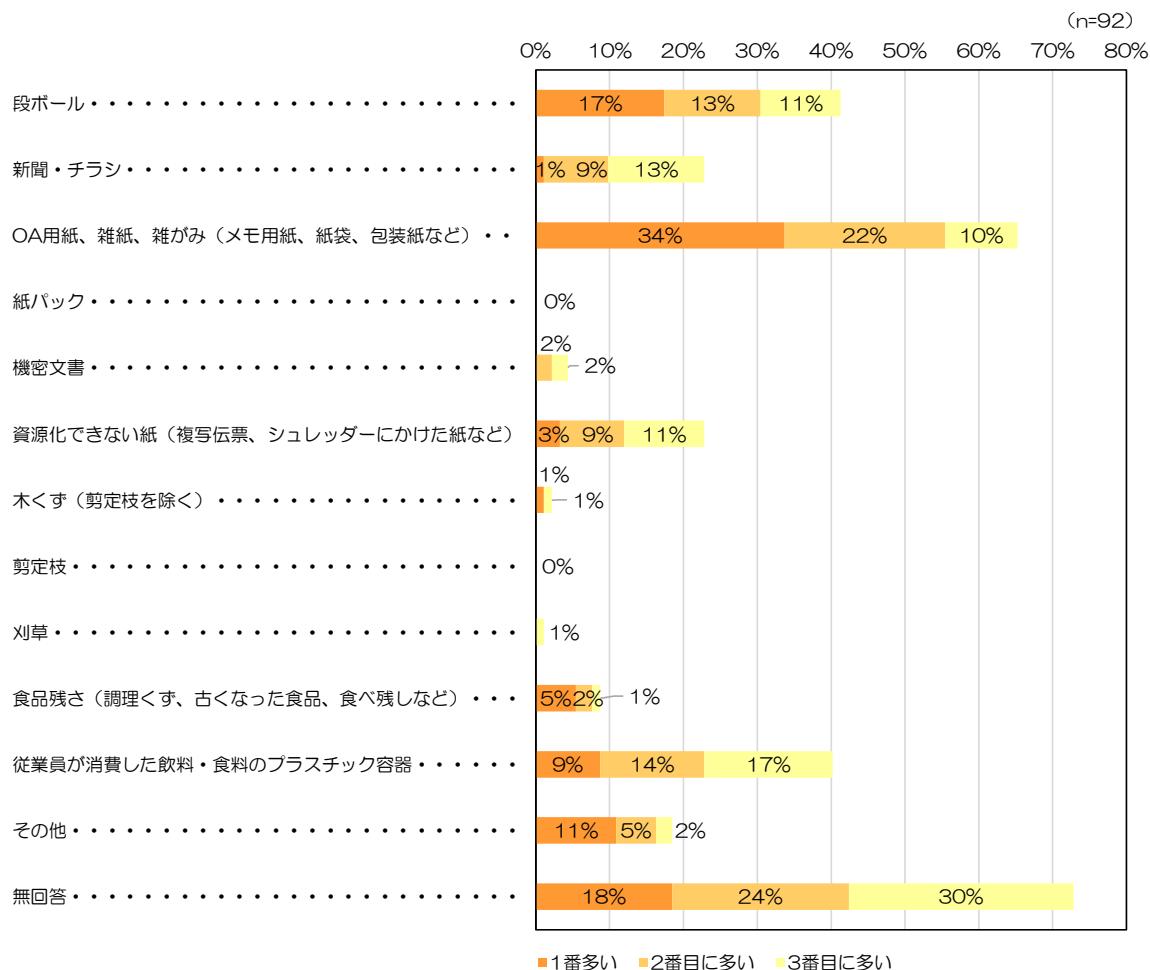
平成 27 年度と今回調査（令和 7 年度）で、排出されるごみの種類に大きな変化は見られませんでした。

(注) 今回アンケート調査（令和 7 年度）と平成 27 年度アンケート調査では、項目が一部異なるため、比較可能な項目を抽出しています。なお、平成 27 年度調査では「雑誌・雑がみ」と「OA 用紙」を分けた選択肢としていましたが、今回調査（令和 7 年度）は「OA 用紙、雑誌・雑がみ」と一括りにしたため、これらは区別して掲載しています。



Q6-2 排出量が多い上位3項目

Q6-1で選択したごみの種類のうち、排出量が多い項目3つを選んで頂いたところ、「段ボール」「OA用紙・雑紙等」「プラスチック容器」を選択している事業所の割合が高くなりました。



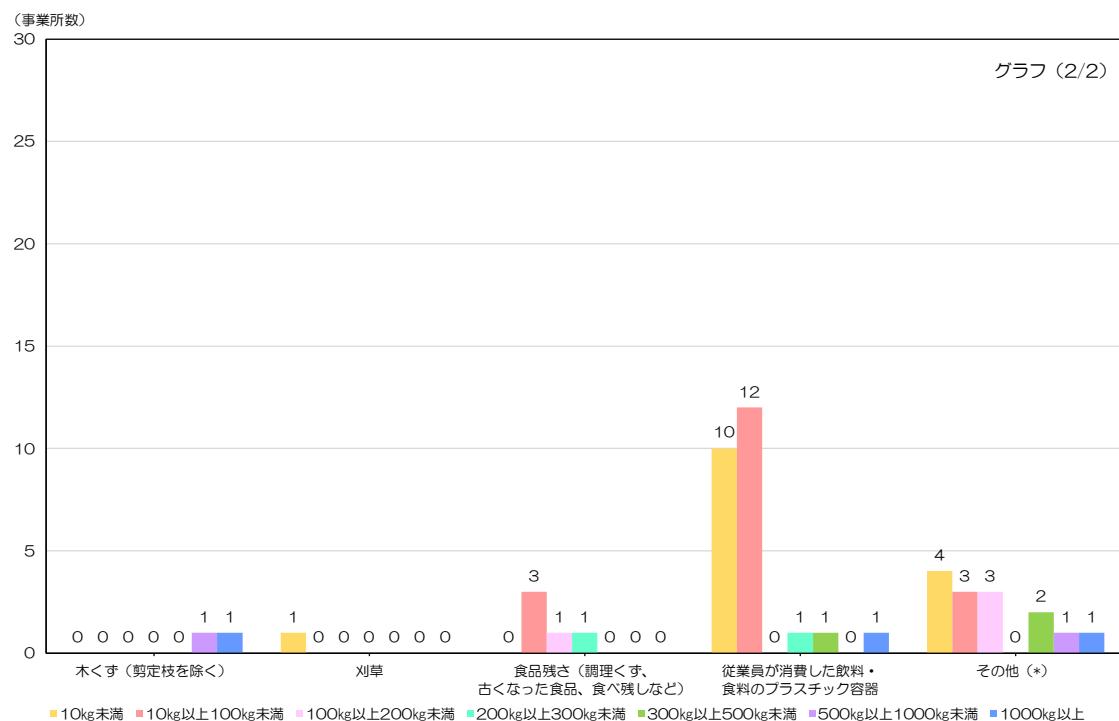
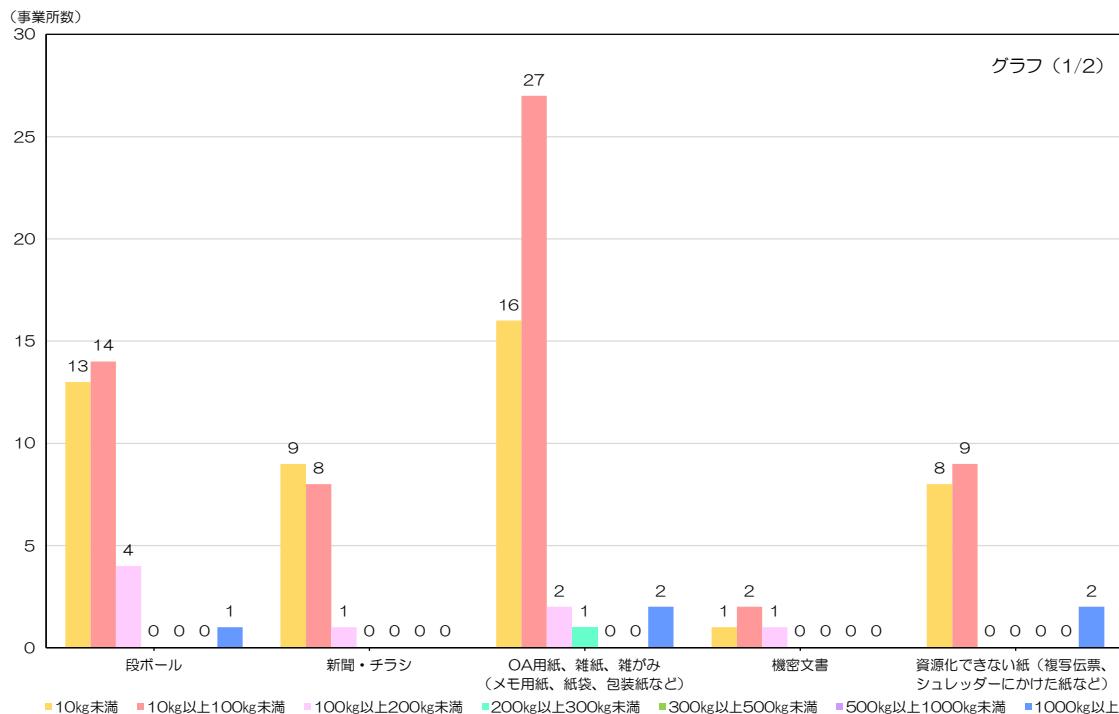
（「その他」の内訳）

- 1 番多い：建設資材の雑材/来店客が捨てる可燃ごみ/髪の毛、商材パッケージ/可燃ごみ/廃プラスチック類/鉄クズ/可燃ゴミ/オムツ類/髪の毛/医療廃棄物
- 2 番目に多い：来店客が捨てる資源ごみ(ビン、カン等)/ガラス類/外壁材（サイディング）/金属くず/発泡スチロール
- 3 番目に多い：発泡スチロール・ビニール等/モルタル

Q6-3 およその排出量

Q6-2で選択した排出量が多い上位3項目について、およその排出量を尋ねたところ、「段ボール」「新聞・チラシ」「OA用紙・雑紙等」「資源化できない紙」「従業員が消費した飲料・食料のプラスチック容器」は1か月あたり10~100kg程度排出されていると回答した事業所の回答数及び割合が高くなりました。

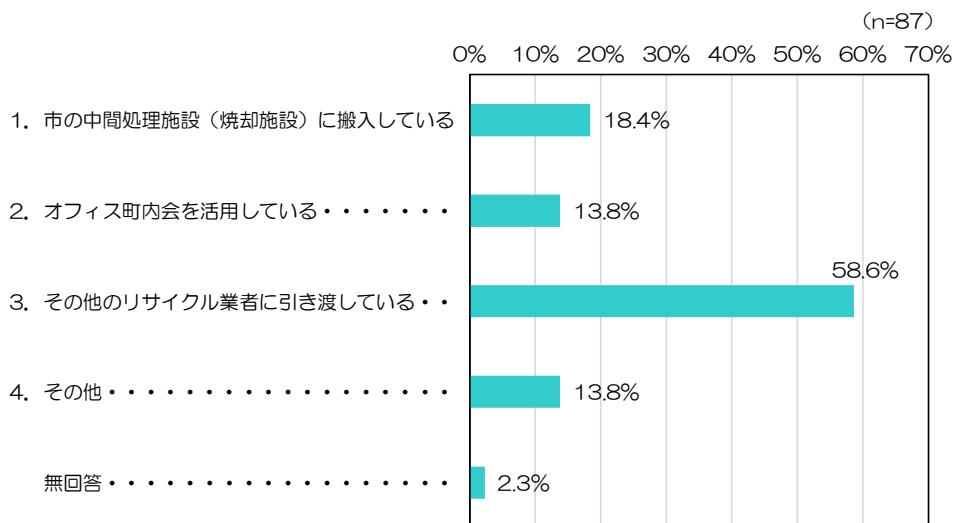
Q6-1~Q6-3の回答結果から、事業所では紙類、プラスチック類の排出が多い傾向にあることがわかりました。



Q7 【Q6で1~4のいずれか1つでも選択された事業所のみ】

事業所では古紙類をどのように処理しているか。(該当する選択肢全て選択)

事業所での古紙類の処理方法を尋ねたところ、「オフィス町内会を活用」もしくは「その他リサイクル業者に引き渡している」といったリサイクルをすると回答した事業所の合計が約72%にのぼりました。



(「その他」の内訳)

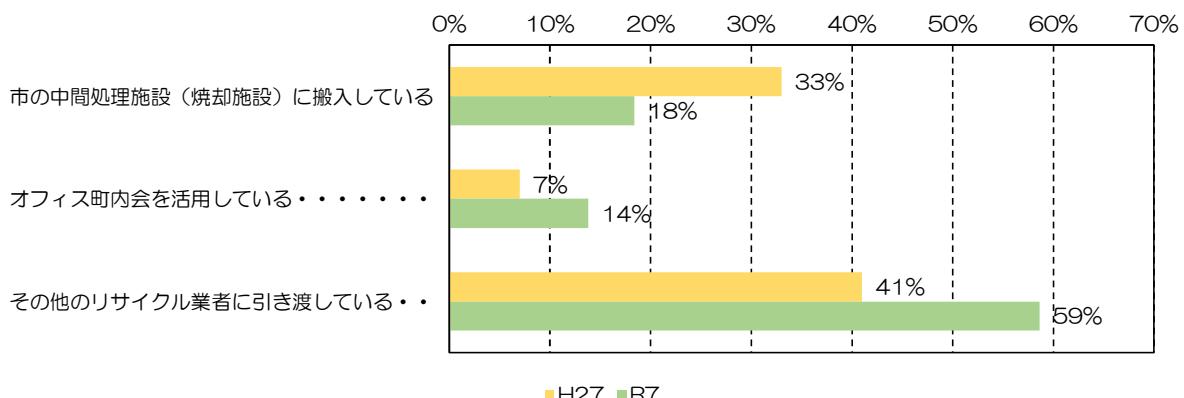
- ・別のものに使用。
- ・メモ用紙、コピー用紙に使用。
- ・出ない。
- ・収集運搬許可業者に引き渡している。
- ・スーパー等のリサイクルへ出している。
- ・業者に依頼して処分している。
- ・会社内でリサイクル使用。
- ・学校の集積所に出している。
- ・自社で処理後、製紙会社にてリサイクルしている。
- ・回収業者に委託。
- ・処理施設へ運搬している。

H27・R7の比較結果追記

-----【参考】(H27アンケート調査時との比較)-----

平成27年度と比較すると、今回調査(令和7年度)では、焼却施設へ搬入する事業所の割合は低くなり、オフィス町内会やその他リサイクル業者を活用する事業所の割合が高くなりました。

(注) 今回アンケート調査(令和7年度)と平成27年度アンケート調査では、項目が一部異なるため、比較可能な項目を抽出しています。



(事業所におけるごみ減量・リサイクルに関する取組状況について)

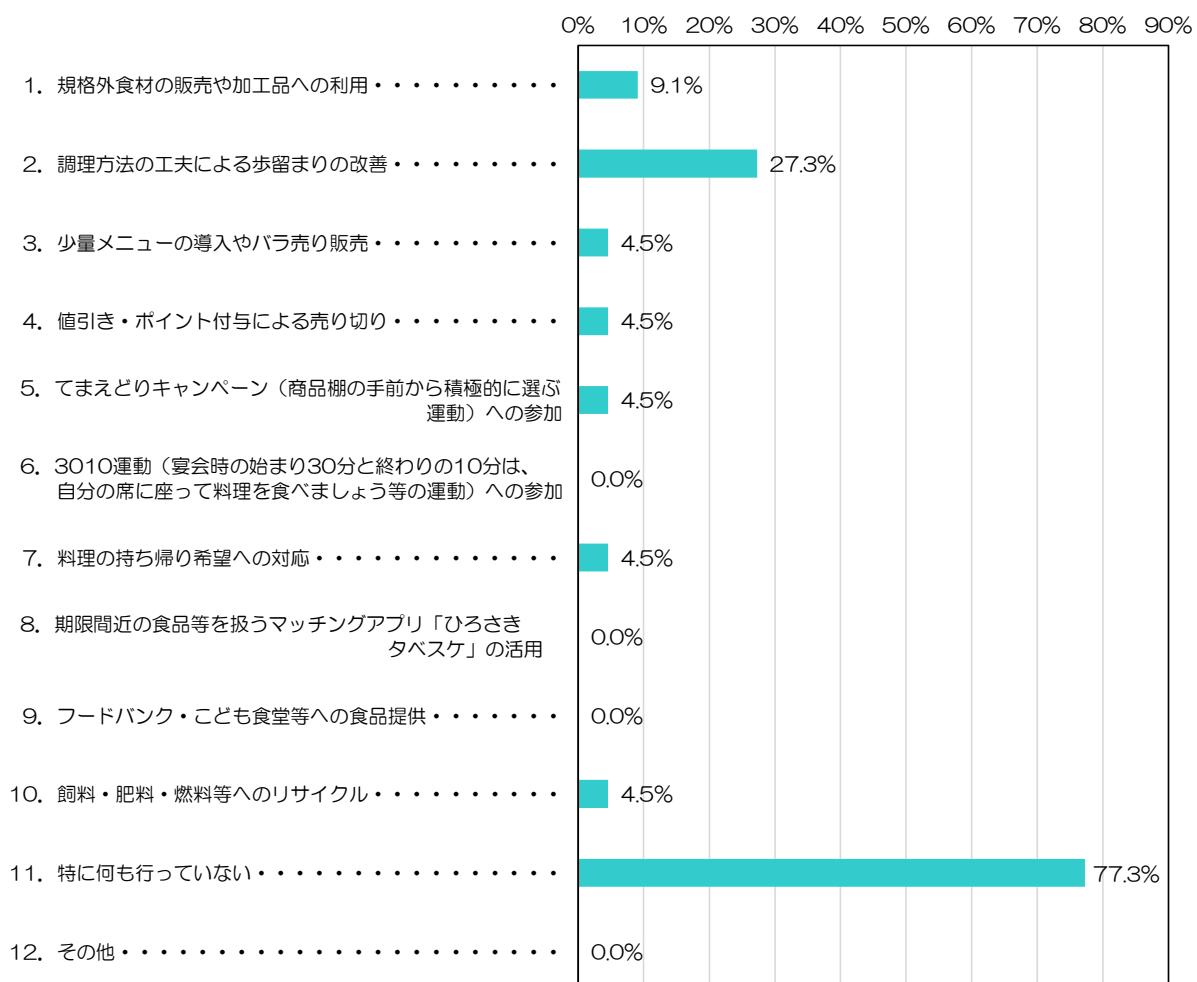
Q8 【Q6で「10. 食品残さ」を選択された事業所のみ】

事業所では食品残さを減らすためにどのような取組を実施しているか。

(該当する選択肢全て選択)

「食品残さ」が排出されると回答した事業所に、食品残さを減らす取り組みについて尋ねたところ、約27%の事業所は「調理方法の工夫や歩留まりの改善」に取り組んでいると回答されていました。一方、約77%の事業所は食品残さを減らす取り組みを特に何も行っていないと回答されていました。

(n=22)



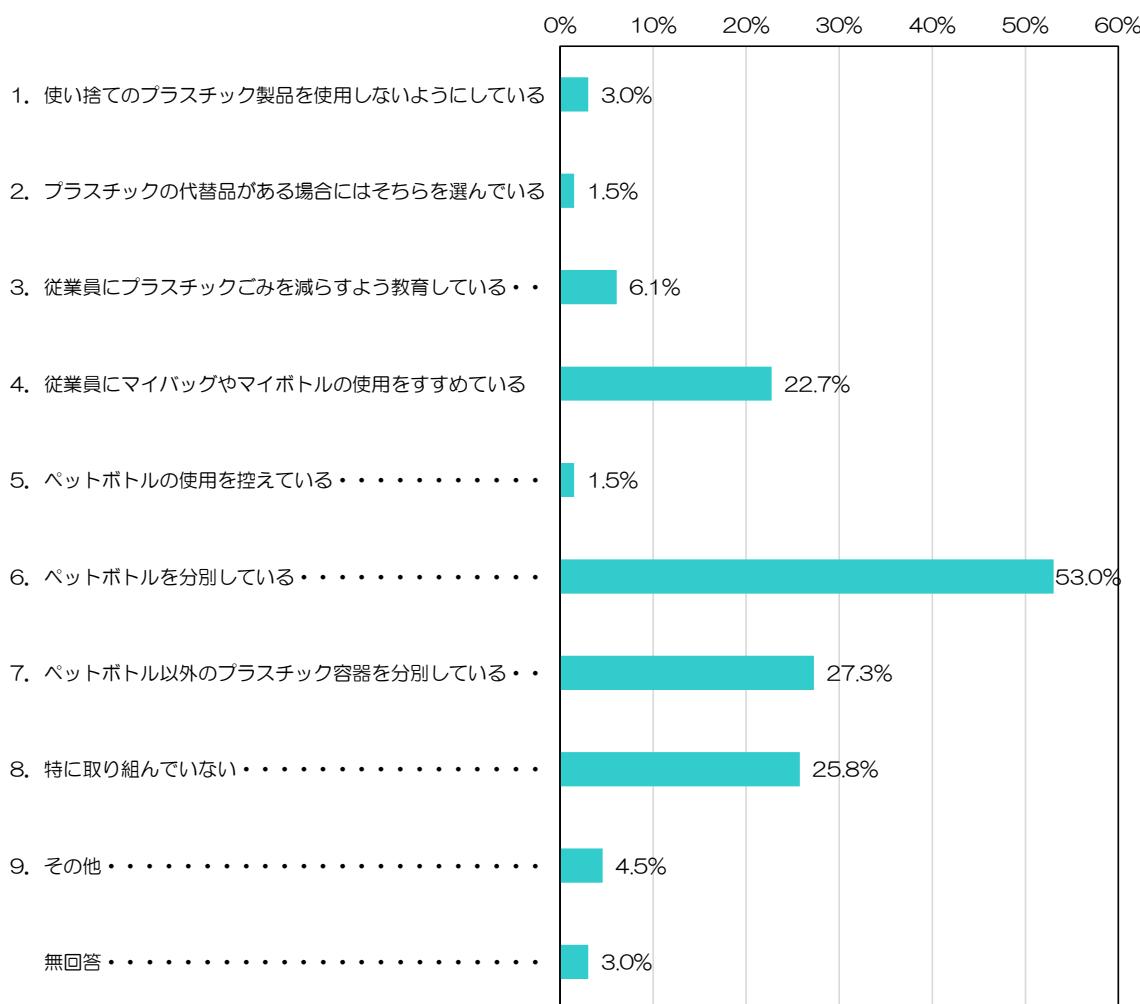
Q9 【Q6で「11.従業員が消費した飲料・食料のプラスチック容器」を選択された事業所のみ】

事業所では、プラスチックの減量・リサイクルのためにどのような取組を実施しているか。

(該当する選択肢全て選択)

従業員が消費した飲料・食料のプラスチック容器を排出している事業所に、プラスチックの減量・リサイクルのための取り組みを尋ねたところ、半数の事業所が「ペットボトルを分別している」と回答しました。一方、**約 26%**の事業所では特に取り組んでいないとのことでした。

(n=66)

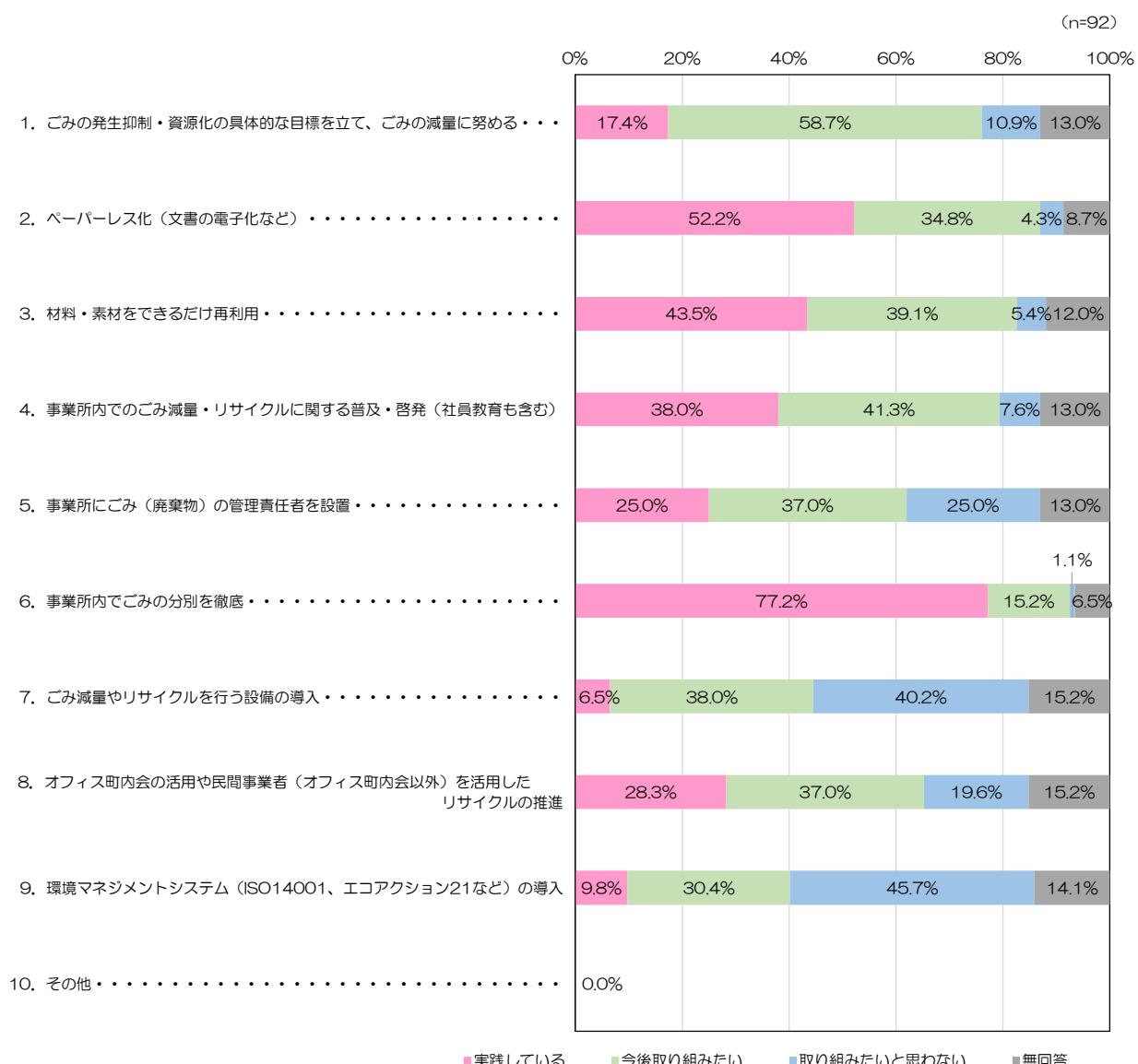


(「その他」の内訳)

- ・ラベルレスや省資源包装の商品を選ぶよう心掛けている。
- ・粉砕して再利用している。(モールド部品の成形)
- ・エコアクション21に取り組んでいる。

Q10 事業所では、ごみの減量・資源化のためにどのような取組を実践しているか。または今後取り組んでいきたいと考えているか。(それぞれの項目必須)

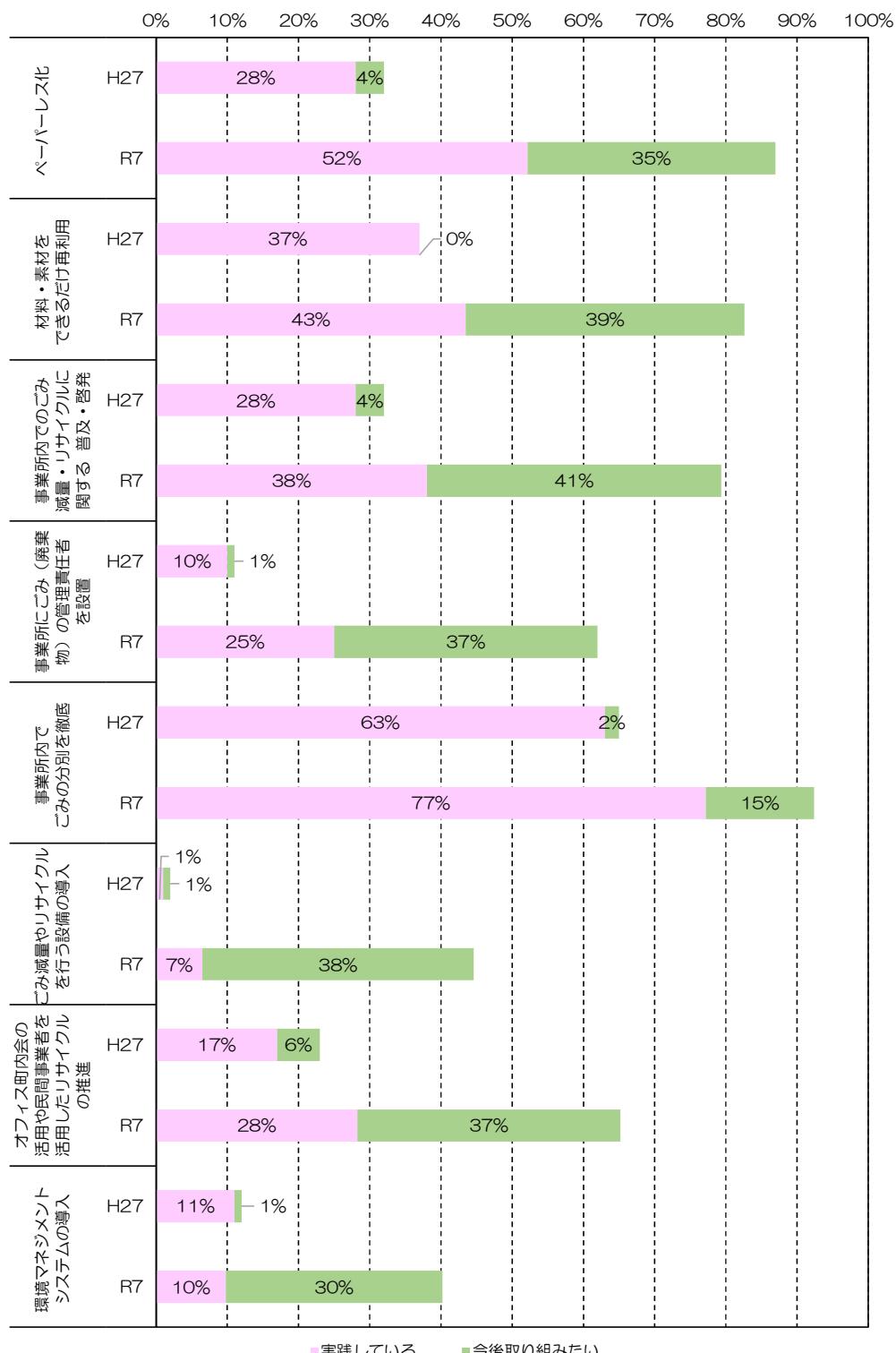
ごみの減量化・資源化のために現在実践している取組みとして「ペーパーレス化」「素材・材料の再利用」「普及啓発」「事業所内でのごみの分別を徹底」の割合が比較的高い傾向にありました。また、現在実践していない事業所でも多くの項目に対して「今後取り組みたい」と回答しており、ごみの減量・資源化に関心を持っていることがわかります。



-----【参考】(H27アンケート調査時との比較)-----

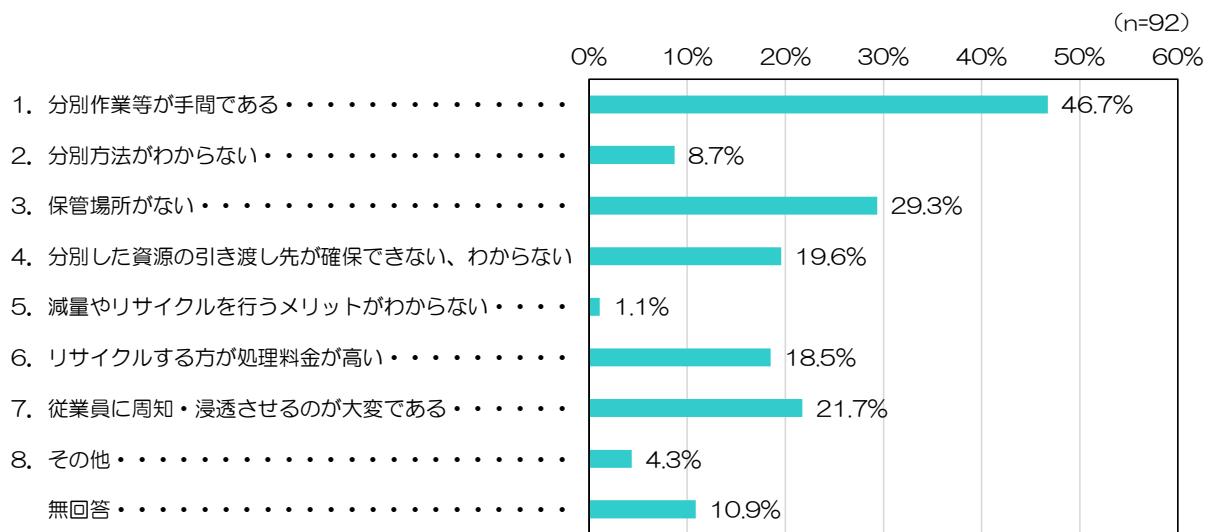
平成 27 年度と比較すると、今回調査（令和 7 年度）では、多くの項目で「実践している」事業所の割合が高くなりました。

(注) 今回アンケート調査（令和 7 年度）と平成 27 年度アンケート調査では、項目や選択肢が一部異なるため、比較可能な項目及び選択肢を抽出しています。



Q11 事業所でごみ減量・リサイクルを進めていく上で課題について。(該当する選択肢全て選択)

ごみ減量・リサイクルを進めるための課題を事業所に尋ねたところ、約47%の事業所が「分別作業が手間」と感じていることがわかりました。



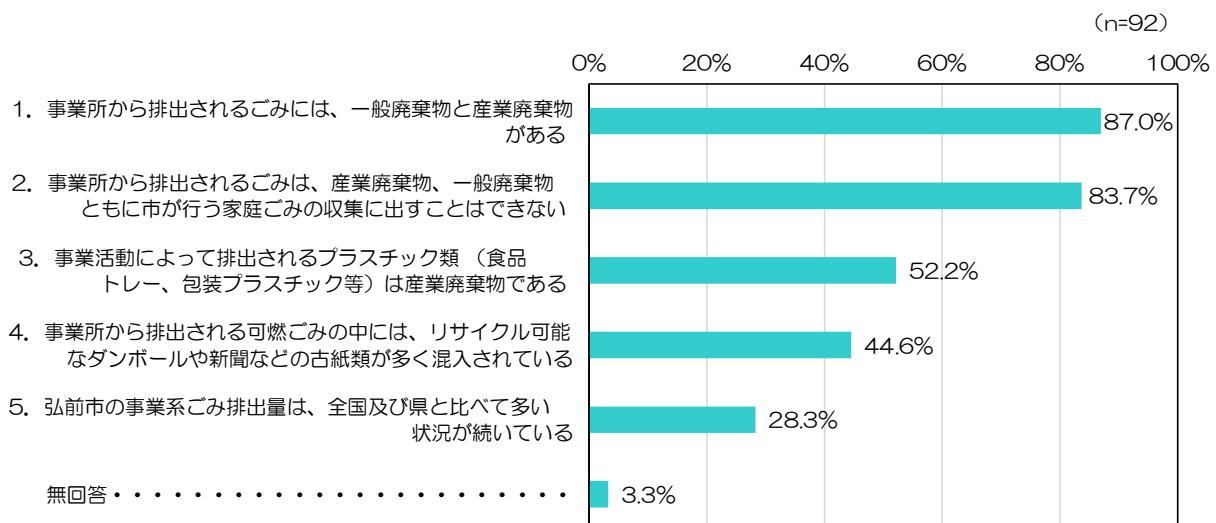
(「その他」の内訳)

- ・リサイクルにかかるコストや効果をもっと発信して有効性をアピールすべきだと感じている。
- ・特に課題は感じない。
- ・特になし。

(ごみ処理のルールや市の施策の周知度)

Q12 ごみ排出・処理のルールについて、知っているもの。(該当する選択肢全て選択)

ごみ排出・処理のルールについて、知っているものを尋ねたところ、「5.弘前市の事業系ごみ排出量は、全国及び県と比べて多い状況が続いている」以外の項目は、比較的知っていると回答する割合が高い傾向にありました。

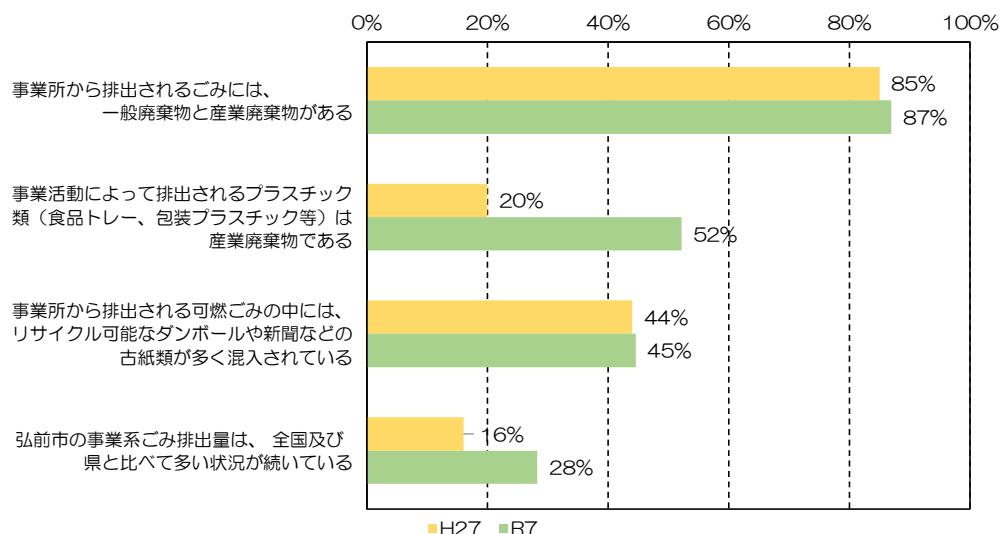


H27・R7 の比較結果追記

-----【参考】(H27アンケート調査時との比較)-----

平成 27 年度と比較すると、今回調査（令和 7 年度）では、いずれの項目も、ごみ排出・処理のルールを認知する事業所の割合が高くなりました。

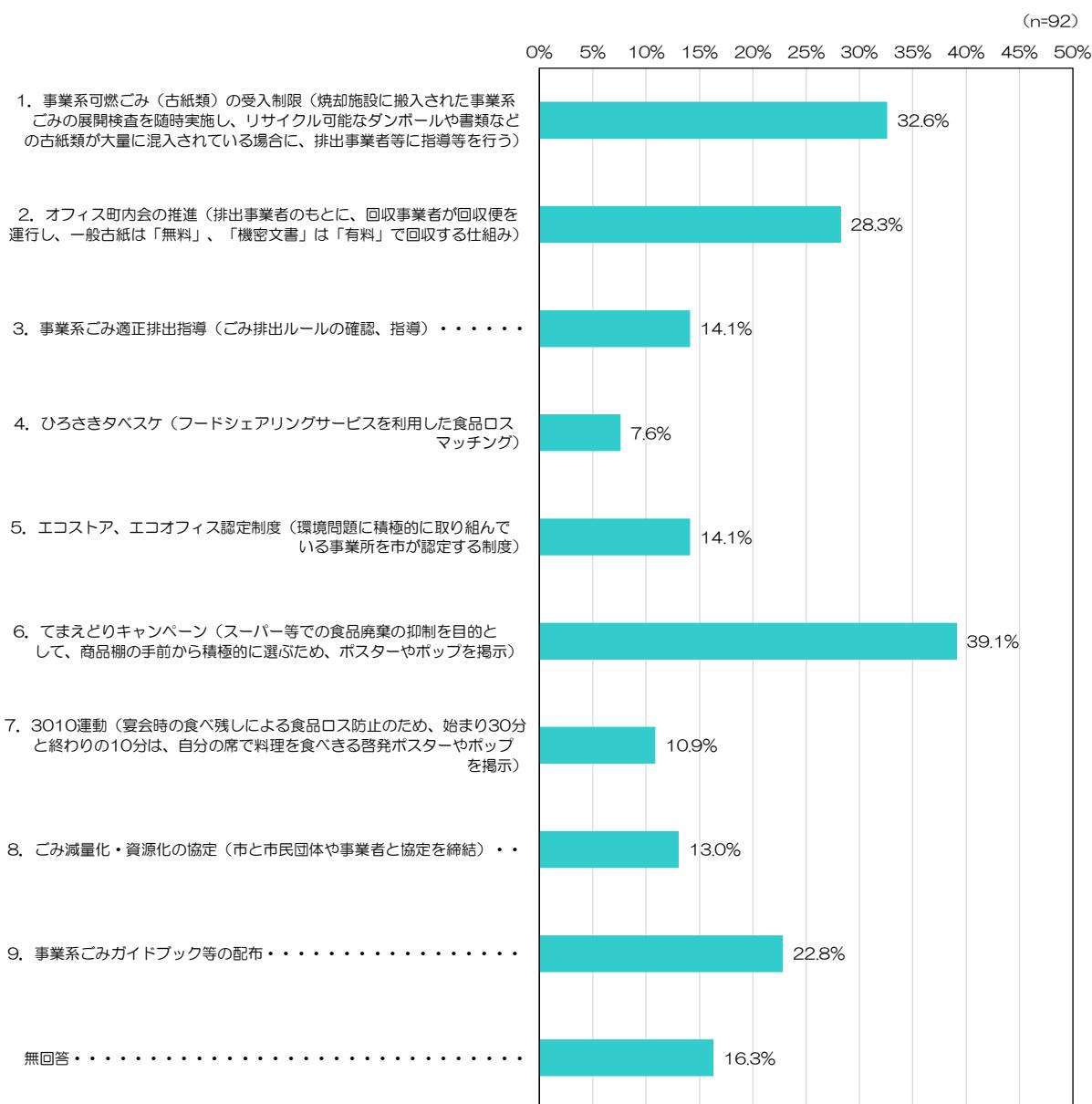
(注) 今回アンケート調査（令和 7 年度）と平成 27 年度アンケート調査では、項目が一部異なるため、比較可能な項目を抽出しています。



Q13 市が実施しているリサイクルに関する取り組みについて、知っているもの。

(該当する選択肢全て選択)

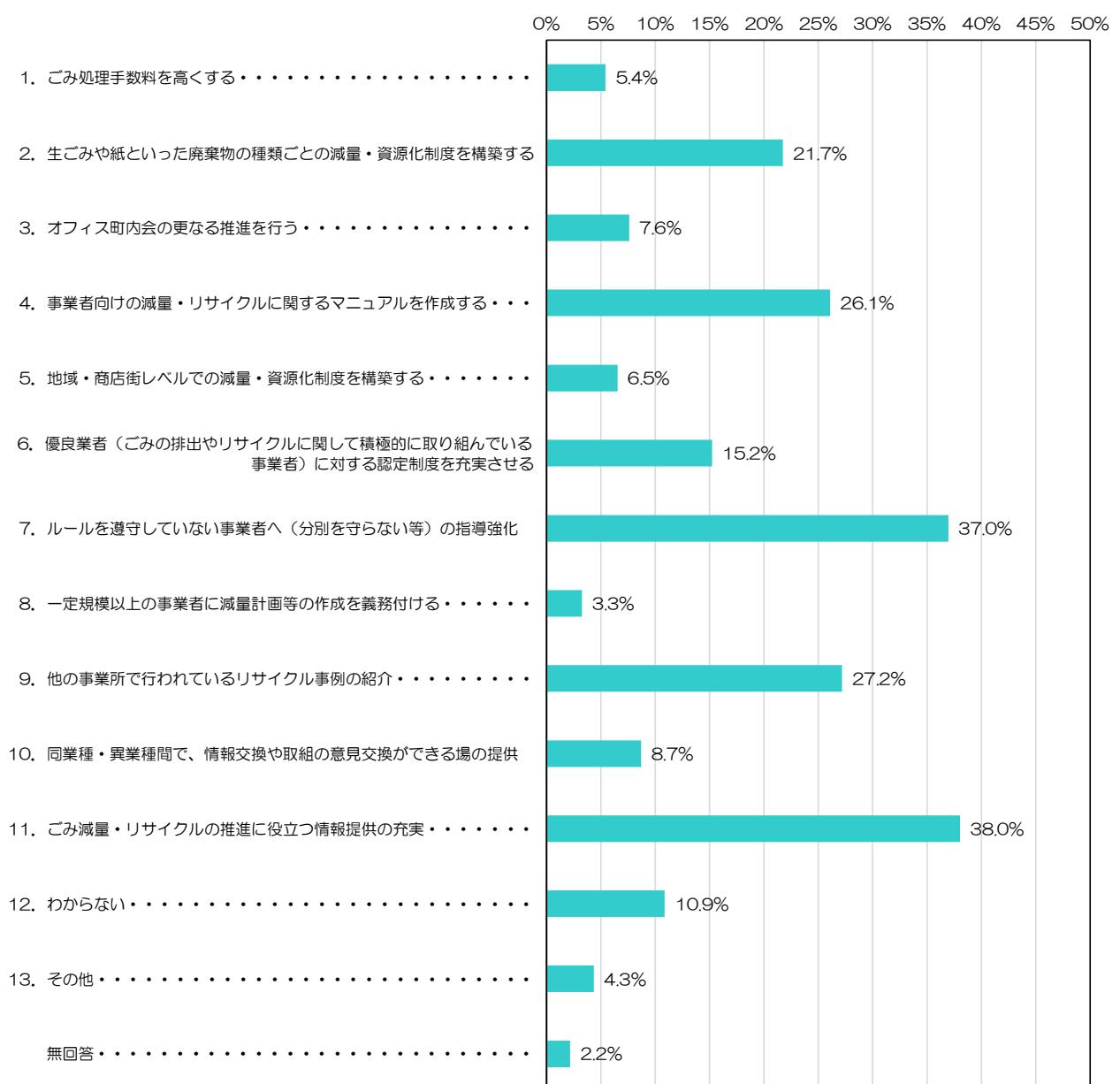
市が実施しているリサイクルに関する取り組みの認知度を尋ねたところ、「事業系可燃ごみの受け入れ制限」「オフィス町内会」「てまえどりキャンペーン」「事業系ごみガイドブックの配布」については20~40%前後と比較的認知されていましたが、その他の取組みについては20%を下回っていました。まずは、取り組みを認知してもらうところから始める必要があると考えられます。



Q14 本市において事業系ごみの減量・リサイクルを進めていくためには、行政がどのような対策を実施する必要があると考えるか（該当する選択肢全て選択）

ごみの減量・リサイクルを進めるために、行政がどのような対策を実施する必要があるか尋ねたところ、「生ごみや紙といった廃棄物の種類ごとの減量・資源化制度の構築」「事業者向けの減量・リサイクルに関するマニュアルの作成」「ルールを守らない事業所への指導を強化」「リサイクル事例の紹介」「減量化・リサイクルに役立つ情報を充実させてほしい」といった回答が比較的高い傾向にありました。

(n=92)



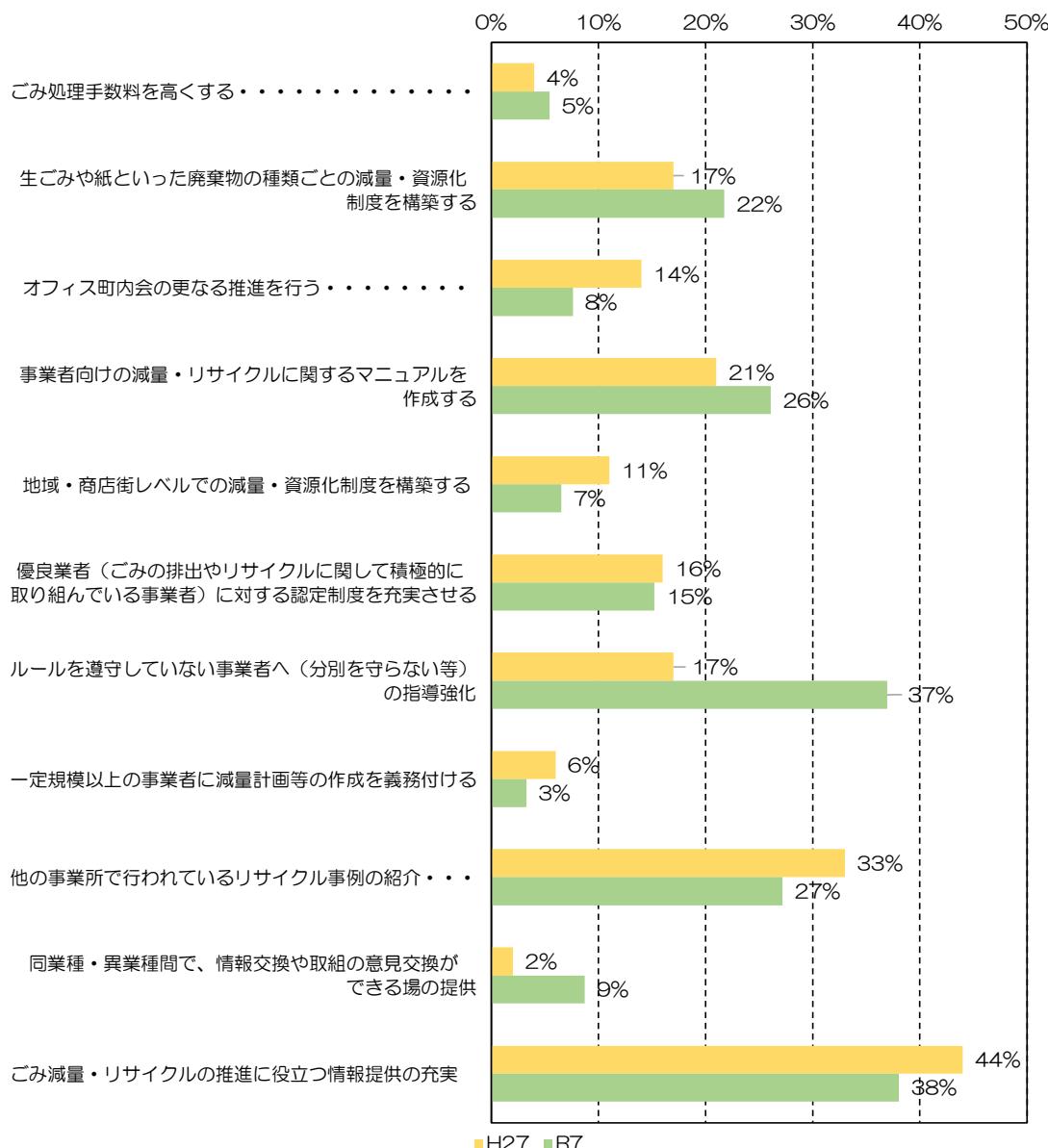
（「その他」の内訳）

- ・リサイクル業者の紹介。
- ・ごみマナーが分からずの人たちが多い。
- ・指導講習会を開き学習する必要がある。
- ・事業所の代表者への教育。
- ・工事書類の削減・簡素化の推進。

-----【参考】(H27アンケート調査時との比較)-----

平成27年度と比較すると、今回調査（令和7年度）では、特に「ルールを順守していない業者への指導強化」をしてほしいと回答する事業所の割合が高くなりました。

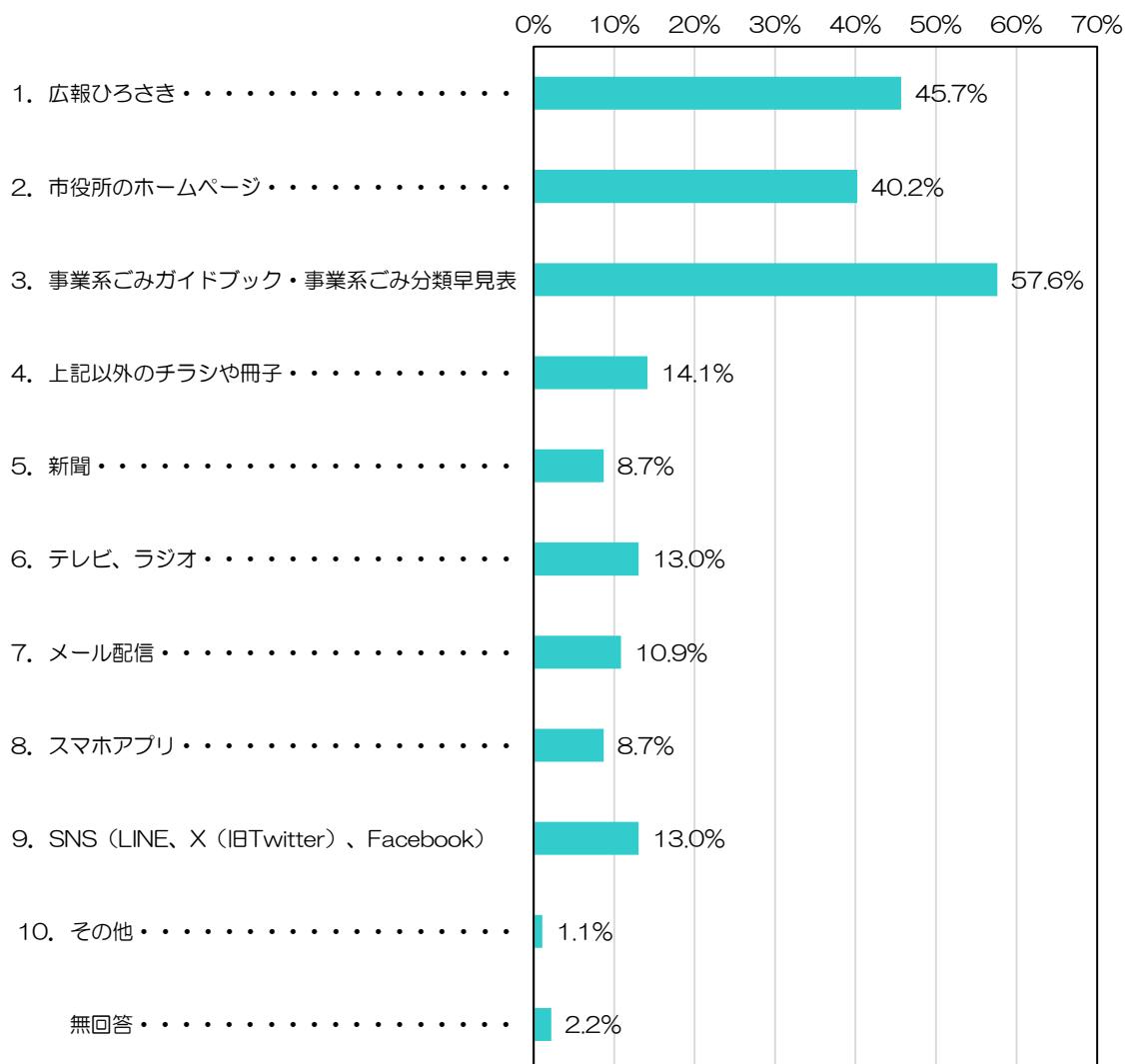
(注) 今回アンケート調査（令和7年度）と平成27年度アンケート調査では、項目が一部異なるため、比較可能な項目を抽出しています。



Q15. ごみ減量やりサイクルについて、市から事業所の皆様へ情報提供を行う場合、どの媒体が利用しやすい（伝わりやすい）か。（特に利用しやすいと思うものを3つまで選択）

ごみ減量やりサイクルについて、市からの情報提供について、「広報ひろさき」「市のHP」「事業系ごみガイドブック」が使いやすいと回答している割合が高い傾向にありました。

(n=92)



(「その他」の内訳)

- ・町内会からの周知。

Q16 本市のごみ行政における課題・問題点、今後の方針性等についての意見等。（自由記述）

本市のごみ行政における課題、今後の方針性について尋ねたところ、以下の意見が寄せられました。

●市の取り組みについて

- ・持続可能な社会の実現に向け、廃棄物の削減、分別の徹底や適正な処分など、企業や市民が取組みやすい施策を講じていただければと思う。

●ごみの分別について

- ・規模の小さい事業所は家庭ごみでよい、という認識だった。

●ごみ出し、回収について

- ・コイン、ボタン電池や充電式電池、モバイルバッテリーなど身近な割に回収に関する情報が分かりづらく、処分に困ることが多かったため、有害ごみの収集が始まって助かっている。

●有料化、指定ごみ袋について

- ・家庭ごみを有料化してほしい。

●環境教育、啓発について

- ・ごみに対する教育自体が崩れているとしたら、行政の指導の一環で小中高大学、企業まで出向き、定期的に指導するべきではないかと思う。

●罰則、指導について

- ・法人設置届を出すごとに（支店の設置など）、ゴミ出しのルール、事業者の義務などを明示して文書で欲しい。
- ・事業所のごみ処理意識は経営者によると思う。処分が自身もしくは経営する事業所に及ぶとなれば、少なからずごみ処理体制を整えると思う。

●その他

- ・このようなアンケートがなければ、あまり意識しない話題だった。施設でも少し考えて取り組みができると考えたい。
- ・ゴミ収集作業員への感謝。

参考資料：使用したアンケート調査票

参考資料 1：市民アンケート

ごみ減量・リサイクルに関する市民アンケートのお願い

市民の皆様には、日頃より本市の廃棄物行政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本市では現在、次期「弘前市一般廃棄物処理基本計画」（計画期間：令和8年度～令和17年度）の策定作業を進めております。現在、本市のごみ排出量は県平均や全国平均と比較して多く、リサイクル率も低い状況が続いている。このため、ごみ排出量の削減やリサイクル率の向上に向けて、市民・事業者・行政が一体となり、これまで以上に施策や取組を進めていく必要があります。

本アンケート調査は、市民の皆様のごみ排出状況や、ごみ減量・リサイクルに関する取組、ご意見をお伺いし、より実効性の高い計画を策定するために実施するものです。市内にお住まいの満18歳以上の方から、住民基本台帳より無作為に抽出した1,000名の方にお送りしております。

お忙しいところ恐れ入りますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年8月 弘前市 市民生活部 環境課

○回答方法（以下①②のどちらかの方法でご回答をお願いします）

①郵送での回答

別添の調査票に直接ご記入いただき、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストへ投函（切手貼付不要）してください。住所・氏名をご記入いただく必要はありません。

②インターネットによる回答【推奨】

下記URLまたは右のQRコードよりご回答をお願いします。

<https://forms.office.com/r/0gKGUtAV1X>

- 回答の際は、右上にある番号（6桁）を入力してください。
- インターネット回答用番号は、郵送とインターネットの重複回答を避けるためのもので、個人が特定されることはありません。
- インターネットで回答していただきましたら、調査票の返送は必要ありません。

QRコード

ご回答は、令和7年9月26日（金）までにお願いします。

○個人情報の取り扱いについて

このアンケートは無記名です。回答はすべて統計処理し、個々の調査票が公表されることはありません。また、ご回答いただきました内容は、本調査の目的以外に使用することはありません。

【お問合せ先】

弘前市 市民生活部 環境課
ゼロカーボンシティ推進係
電話：0172-32-1969

（月～金 ※祝日除く 午前8時30分～午後5時）

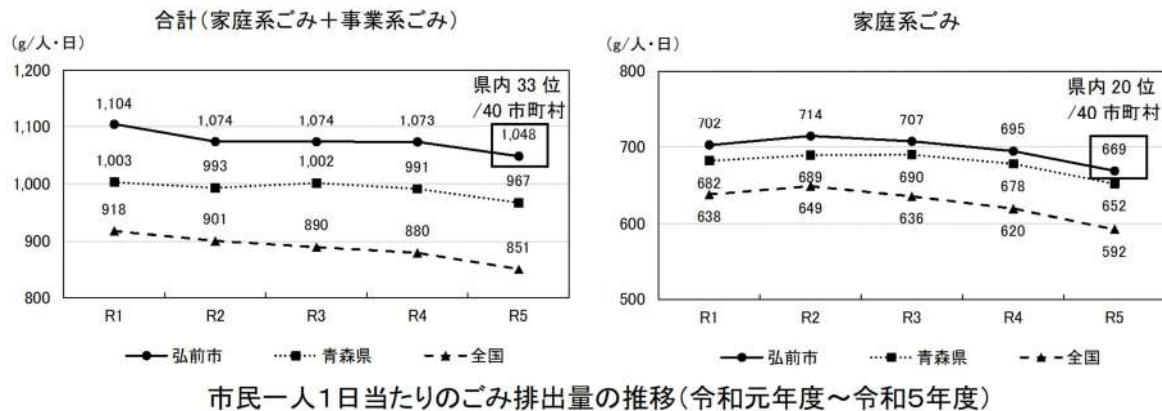
【業務委託先】（アンケート返送先）

株式会社復建技術コンサルタント 環境部
電話：022-217-6801
（月～金 ※祝日除く 午前9時～午後5時）

【参考】弘前市のごみの現状

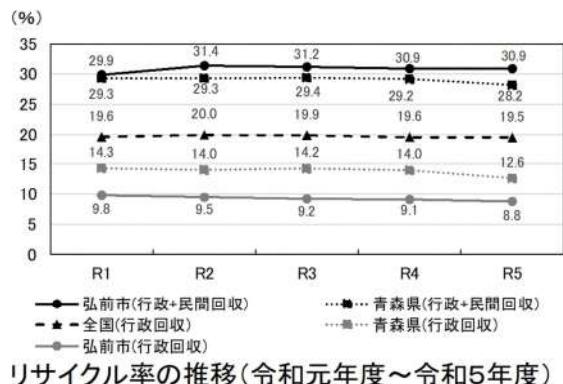
●ごみの量

本市のごみ排出量は、全国及び青森県と比較して多いのが現状です。



●リサイクル率

本市の実質リサイクル率（行政+民間回収）は、県の平均を上回って推移しております。一方、リサイクル率（行政回収）は、10%未満で推移しており、全国平均（20%前後）及び県平均（13%前後）を下回る状況が続いています。

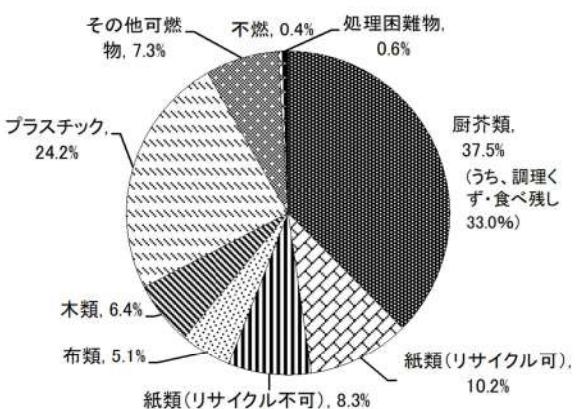


●家庭系ごみの分別状況

厨芥類（食品ロス）が全体の約38%を占めており、なかでも調理くずや食べ残しが約33%と大半を占めています。ごみ減量を進めるうえで大きな課題である食品ロス削減の取り組みにご協力をお願いします。

また、リサイクル可能な紙類は約10%を占めており、分別の徹底により、さらなる資源化とごみの減量が期待されます。

さらに、プラスチック類も約24%と高い割合を占めています。令和8年度から開始を予定している「プラスチック資源」の一括回収により、プラスチック資源の再資源化・ごみ減量の推進を図っていく方針です。本格導入の際は改めて周知いたしますので、ぜひご協力をお願いします。



ごみ組成分析調査結果(家庭系燃やせるごみ)
(平成27年度～令和4年度)

ごみ減量・リサイクルに関する市民アンケート

(あなたご自身について)

問1. あなたご自身のことについてお尋ねします。当てはまる番号に○を付けてください (それぞれ1つ選択)。

項目	選択肢		
性別	1. 男	2. 女	3. 回答しない
年齢	1. 29歳以下	2. 30~39歳	3. 40~49歳
	4. 50~59歳	5. 60~69歳	6. 70歳以上
職業	1. 自営業(農業等を含む)	2. 会社員(公務員を含む)	
	3. パート・アルバイト(学生を除く)		
	4. 専業主婦・主夫	5. 学生	
	6. 無職	7. その他()	
居住年数(市内で 引っ越した方は現 在の住所になって からの年数)	1. 1年未満	2. 1~3年未満	
	3. 3~5年未満	4. 5~10年未満	
	5. 10~20年未満	6. 20~30年未満	
	7. 30年以上		
同居人数(あなた 自身を含む)	1. 1人	2. 2人	3. 3人
	4. 4人	5. 5人	6. 6人以上
世帯構成	1. 単身	2. 夫婦のみ(内縁関係含む)	
	3. 2世代世帯(親と子)	4. 3世代世帯(親と子と孫)	
	5. その他()		
お住まいの種類	1. 戸建住宅(持家)	2. 戸建住宅(賃貸)	
	3. 集合住宅(持家)	4. 集合住宅(賃貸)	
	5. 併用住宅(店舗・事務所等)		
	6. その他()		
居住地域 (小学校区)	1. 裾野(旧修賀、旧草薙含む)	2. 自得	
	3. 新和(旧小友、旧三和含む)	4. 高杉	5. 船沢
	6. 三省	7. 致遠	8. 城東
	11. 堀越	12. 文京	13. 松原
	16. 小沢	17. 青柳	18. 東目屋
	21. 時敏	22. 北	23. 城西
	26. 第三大成		24. 西
	29. 石川	30. 岩木(旧百沢含む)	25. 大成
	33. わからない(弘前市大字)		28. 桔梗野
			31. 常盤野
			32. 相馬
			33. ※小字以下は不要

(資源物の排出方法について)

問2. あなたのご家庭では、資源物をどのように排出していますか。品目ごとに、
 ①～⑧のうち主な処分方法を1つ選び、○をつけてください。「⑧その他」の場合は具体的にご記入ください。

品目 (資源物)	① 混ぜて出 るごみに 燃やせる	② に燃 やせない ごみに 混ぜて出 す	③ 回 収	資源 ごと の分 行政別	④ クス に 出 す シヨ ン・ 回 収ボ ツ	⑤ 市 の 回 収ス テ	⑥ 町 会 や 子 ど も 会 等 に 由 る 集 団 回 収 に 出 す	⑦ ス に 出 す イ ク ル セ ン タ ー	⑧ ス ー バ ー な ビ ック に 出 す 民 間 の 古 紙 リ サ ー	その 他 (具 体 的 に)
かん										
びん										
ペットボトル										
紙パック										
ダンボール										
新聞										
雑誌・雑がみ										
食品トレー										
衣類										
小型家電										

問2で「①燃やせるごみに混ぜて出す」または「②燃やせないごみに混ぜて出す」に
 1つ以上○をつけた方にお伺いします。(該当しない方は問4へ)

問3. あなたが、資源物を「燃やせるごみ」や「燃やせないごみ」に混ぜて出している理由について、該当する選択肢全てに○をつけてください。

1. 分別することが手間だから（面倒だから）
2. スーパーの店頭回収等の回収拠点を利用することが手間だから（面倒だから）
3. 分別区分が複雑で分かりにくいから
4. 収集回数が少ないから
5. 分別するメリットがないから
6. その他 ()

(ごみ問題への関心度と取り組み状況)

問4. あなたは、ごみの減量化や資源化に関する関心がありますか。該当する選択肢1つに○をつけてください。

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| 1. 非常に関心がある | 2. ある程度関心がある | 3. あまり関心がない |
| 4. まったく関心がない | 5. わからない | |

問5. あなたは、日頃からどのような取組を実践されていますか。項目ごとに、①～③のいずれか1つ選び、「①実践している」又は「②今後取り組みたい」の場合は○をつけてください。「③取り組みたいと思わない」の場合は、下枠から理由を1つ選択し、アルファベット（A～E）を記入してください。

項目	① 実践 している	② 今後取り 組みたい	③ 取り組みたい と思わない
1. ごみと資源物を分別して回収に出す			
2. 使い捨て商品はできるだけ買わないようする			
3. 過剰包装を避けたり、ごみになるものは受け取らない			
4. 家で必要なものをチェックして買い物をする			
5. 食べ物を無駄にしないよう、食べきり、使い切りを意識して行動する			
6. 生ごみを水切りする			
7. 生ごみを堆肥化させたり、土で分解させる			
8. 買い物にはマイバッグ等を持参し、レジ袋をもらわないようする			
9. 集団回収に積極的に出す			
10. 白色トレーや牛乳パックなどを小売店や販売店の店頭回収に出す			
11. リサイクルショップやフリーマーケットを活用する（売却・購入）			
12. その他 ()			

「③取り組みたいと思わない」理由

- A. 面倒だから
- B. ごみ減量・リサイクルの必要性がわからないから
- C. ごみ減量・リサイクルを行うメリットがないから
- D. ごみ減量・リサイクルを行わなくてもごみ収集をしてもらえるから
- E. 利便性を重視しているから

(ごみ問題の課題)

問6. あなたは、本市のごみ問題に関してどのような課題があると考えますか。該当する選択肢全てに○をつけてください。

1. 過剰包装や使い捨て商品・容器が多くごみとなってしまうこと
2. まだ使えるものを簡単に捨ててしまうこと
3. 資源となるものがリサイクルされていないこと
4. ごみ排出時のマナーが悪いこと
5. ごみ分別の意識が低いこと
6. ごみ処理施設や最終処分場の整備が不十分であること
7. ポイ捨てや不法投棄に対する規制や取り組みが不十分であること
8. ごみの分別方法が複雑でわかりにくいくこと
9. リユースショップや資源物回収拠点等の実店舗・拠点が少ないとこと
10. その他 ()

問7. ごみの減量やリサイクル、分別等について困っていることや、市に取り組んで欲しいことがございましたら、できるだけ具体的にお書きください。

(食品ロスについて)

日本では、本来食べられたのに捨てられてしまった食品、いわゆる「食品ロス」が年間約464万トン発生していると推計されており、これは一人あたり毎日約100g（お茶碗約3分の2杯分）を捨てている計算になります（令和5年度）。

問8. あなたはご家庭で、食材が無駄にならないようにしていますか。該当する選択肢1つに○をつけてください。

- 1. いつもしている
- 2. ほとんどしている
- 3. 時々している
- 4. ほとんどしていない
- 5. 全くしていない
- 6. 家庭で食材を調理しない／食べない

問9. ご家庭で食品を捨てる理由として多いものを教えてください。該当する選択肢全てに○をつけてください。

- 1. 賞味期限^{※1}が過ぎたから ※1：「品質が変わらずにおいしく食べられる期限」
- 2. 消費期限^{※2}が過ぎたから ※2：「安全に食べられる期限」
- 3. 食べきれなかったから
- 4. 見た目やおいが悪くなったから
- 5. 冷蔵庫に入れたまま忘れていた
- 6. 調理時に必要な部分を捨てる（だいこんの葉を切り捨てるなど）
- 7. ほとんど食品ロスを出していない
- 8. その他（ ）

問10. 食品ロスを出さないために、あなたが普段行っていることは何ですか。該当する選択肢全てに○をつけてください。

- 1. いつ食べるか考えて購入する
- 2. 食品は必要な分だけ買う
- 3. 冷蔵庫や収納庫を定期的に整理整頓する
- 4. 賞味期限、消費期限の近い食品を早めに使う
- 5. 料理を作りすぎないようする
- 6. 残った食材を別の料理に利用する
- 7. 飲食店では食べきれる量を注文する
- 8. 商品棚の手前にある（販売期限が近い）商品を選ぶ「てまえどり」をする
- 9. 特に何もしていない
- 10. その他（ ）

(市の施策の周知度)

問 11. 市が実施しているリサイクルに関する取り組みについて、知っているもの、利用したことがあるものはどれですか。取組ごとに①～③から1つ選び、○をつけてください。

市の取組	① 知っている	② 利用・参加したことがある	③ 知らない
1. 使用済小型家電の回収（市内16か所（民間事業所を含む）に回収ボックスを設置）			
2. 古紙類回収ステーションにおける回収（市内4か所の公共施設で実施）			
3. 衣類の回収（市内16か所（民間事業所を含む）に衣類回収ボックスを設置）			
4. 生ごみ堆肥化容器の斡旋補助（町会連合会の斡旋による購入に対する補助）			
5. エコストア・エコオフィス認定制度（簡易包装や買物袋持参運動など積極的に取り組んでいる店舗、事務所を市が認定）			
6. 出前講座（市民の皆さんのが自主的に開催する学習会などに、市の職員を派遣する制度）			
7. ごみ収集アプリ（分別方法や収集日等がわかるスマートフォン用アプリ）			
8. てまえどりキャンペーン（スーパー等での食品廃棄を抑制するため、商品棚の手前から積極的に選ぶ運動）			
9. 3010運動（宴会時の食べ残しによる食品ロス防止のため、始まり30分と終わりの10分は、自分の席に座って料理を食べましょう等の運動）			
10. ひろさきタベスケ（フードシェアリングサービスを利用した食品ロスマッチング）			
11. 再生資源回収運動（集団回収への報奨金制度）			
12. 廃棄物減量等推進員（町内のごみ問題を把握し、ごみの適正排出、分別促進、不法投棄防止のための指導等を行う）			

(今後の市の施策について)

問 12. あなたは、ごみ減量やリサイクルを進めていくうえで、何が重要だと思いま
すか。該当する選択肢全てに○をつけてください。

1. 市民に対するごみ・リサイクルに関する情報提供や意識啓発（ごみの処理状況や経
費等の情報提供）
2. 悪質な分別不十分によるごみ出しへの対策（罰則規定等）
3. 資源ごみの分別回収品目を増やす
4. 資源ごみの収集回数を増やす、または回収ステーションを増やす
5. ごみ収集の有料化
6. 環境・ごみ問題について学べる機会を提供する
7. 食品ロス対策に力を入れる
8. ごみ集積所の美化
9. 生ごみ処理機購入に対する助成を行う
10. 再生資源回収運動（集団回収）の拡充（補助金の増額、品目の追加など）
11. 事業者に対するごみの分別・減量・リサイクルの徹底指導
12. 不法投棄の取り締まり強化
13. その他（ ）

問 13. ごみ減量やリサイクルについて、市から市民の皆様へ情報提供を行う場合、
どの媒体が利用しやすい（伝わりやすい）ですか。特に利用しやすいと思うも
のを3つまで選び、番号を○で囲んでください。

1. 広報ひろさき
2. 市役所のホームページ
3. 上記以外のチラシや冊子
4. 町会の回覧板
5. 新聞
6. テレビ、ラジオ
7. メール配信
8. ごみ収集アプリ
9. SNS (LINE、X (旧 Twitter)、Facebook)
10. その他（ ）

問14. 多くの自治体で実施している有料で各家庭の間口まで大型ごみを収集に行くサービスについて、あなたはどのように思いますか。該当する選択肢1つに○をつけてください。

1. 必要ない（戸別収集のため既に間口に取りにきてもらっている）
2. 有料であっても便利だと思う
3. 有料であれば金額次第では便利だと思う
4. 便利だと思うが、有料であれば今そのまま集積所まで持っていく
5. その他（ ）

問15. 本市では、ごみ収集の利便性向上を目的に、「ごみ収集アプリ」に次の機能を追加することを検討しています。

ごみ収集状況確認機能…ご自宅近くのごみ集積所のその日の収集がまだ来ていないか、既に収集が終わったかを確認できます。

収集日程表の表示機能強化…現在のアプリでは、転居時等にお住まいの地域によっては収集日程表を表示するために市に問い合わせが必要となります。機能強化版ではご自宅の住所を登録すると、ご自宅住所に対応したごみ収集日程表が表示できます。

上記のような機能が追加された場合、あなたはどのように思いますか。該当する選択肢1つに○をつけてください。

1. どちらのサービスも便利だと思う
2. 「ごみ収集状況確認機能」は便利だと思う
3. 「収集日程表の表示機能強化」は便利だと思う
4. 収集日程表について市に問い合わせる地域に住んでいないので「収集日程表の表示機能強化」の良さがわからない
5. アプリを使っていないのでわからない
6. どちらのサービスも便利だと思わない
7. その他（ ）

（その他（市の施策に対するご意見等））

問16. 本市のごみ行政における課題・問題点、今後の方針性等についてご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

（アンケート用紙）

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

本調査票を返信用封筒に入れ、令和7年9月26日（金）までにご投函くださいますようお願いいたします（切手は不要です）。

参考資料2：事業所アンケート

ごみ減量・リサイクルに関する事業所アンケートのお願い

事業者の皆様には、日頃より本市の廃棄物行政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本市では現在、次期「弘前市一般廃棄物処理基本計画」（計画期間：令和8年度～令和17年度）の策定作業を進めております。現在、本市のごみ排出量は県平均や全国平均と比較して多く、リサイクル率も低い状況が続いている。このため、ごみ排出量の削減やリサイクル率の向上に向けて、市民・事業者・行政が一体となり、これまで以上に施策や取組を進めていく必要があります。

本アンケート調査は、事業所から排出されるごみの実態を把握するとともに、ごみ減量・リサイクルに関する取組やご意見をお伺いし、より実効性の高い計画を策定するために実施するものです。市内の事業所から、無作為に抽出した200事業所にお送りしております。

お忙しいところ恐れ入りますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年8月 弘前市 市民生活部 環境課

○回答方法（以下①②のどちらかの方法でご回答をお願いします）

①郵送での回答

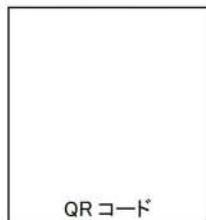
別添の調査票に直接ご記入いただき、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストへ投函（切手貼付不要）してください。住所・事業所名をご記入いただく必要はありません。

②インターネットによる回答【推奨】

下記URLまたは右のQRコードよりご回答をお願いします。

<https://forms.office.com/r/5gzsD43nXV>

- 回答の際は、右上にある番号（6桁）を入力してください。
- インターネット回答用番号は、郵送とインターネットの重複回答を避けるためのもので、事業所が特定されることはありません。
- インターネットで回答していただきましたら、郵送での回答は必要ありません。



QRコード

ご回答は、令和7年9月26日（金）までにお願いします。

○個人情報の取り扱いについて

このアンケートは無記名です。回答はすべて統計処理し、個々の調査票が公表されることはありません。また、ご回答いただきました内容は、本調査の目的以外に使用することはありません。

【お問合せ先】

弘前市 市民生活部 環境課
ゼロカーボンシティ推進係
電話：0172-32-1969

（月～金 ※祝日除く 午前8時30分～午後5時）

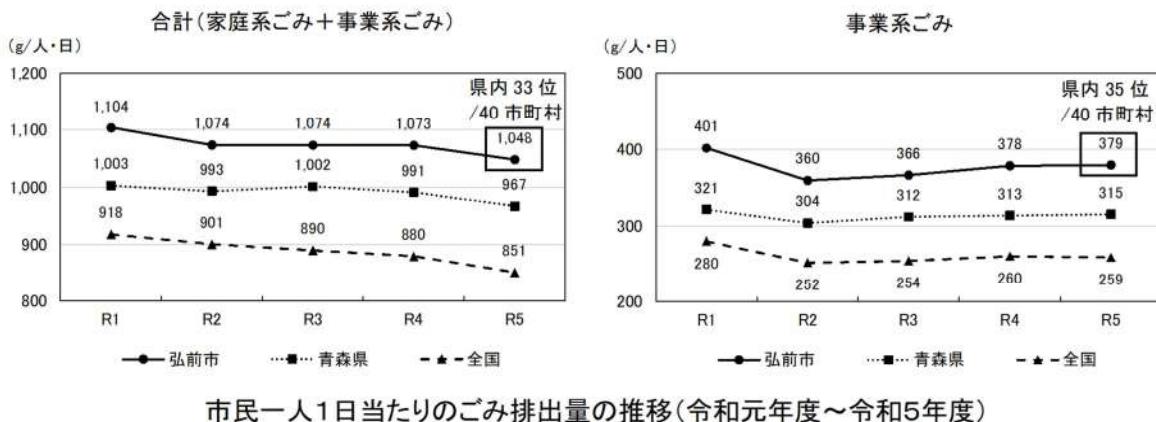
【業務委託先】（アンケート返送先）

株式会社復建技術コンサルタント 環境部
電話：022-217-6801
（月～金 ※祝日除く 午前9時～午後5時）

【参考】弘前市のごみの現状

●ごみの量

本市のごみ排出量は、全国及び青森県と比較して多いのが現状です。



市民一人1日当たりのごみ排出量の推移(令和元年度～令和5年度)

●リサイクル率

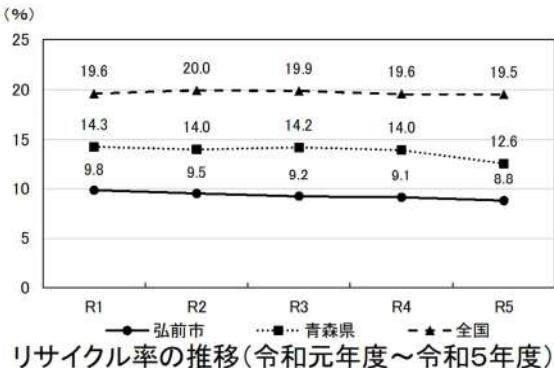
本市のリサイクル率は、10%未満で推移しており、全国平均(20%前後)及び県平均(13%前後)を下回る状況が続いています。

●事業系ごみの分別状況

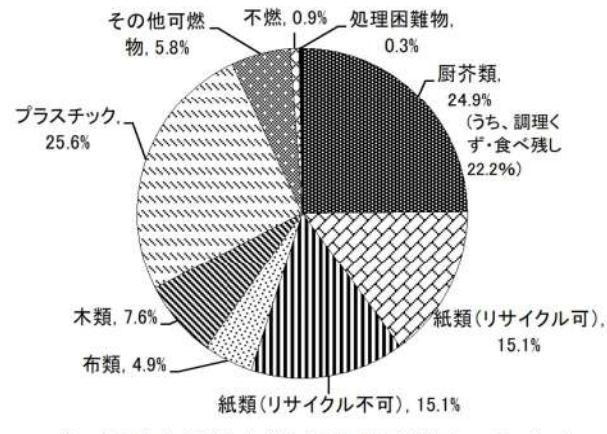
事業系ごみの分析結果を見ると、厨芥類(食品ロス)が全体の約25%を占めており、なかでも調理くずや食べ残しが約22%と大半を占めています。ごみ減量を進めるうえで大きな課題である食品ロス削減の取り組みにご協力をお願いします。

また、リサイクル可能な紙類は約15%を占めており、分別の徹底により、さらなる資源化とごみの減量が期待されます。

さらに、プラスチック類も約26%と高い割合を占めています。令和8年度から開始を予定している「プラスチック資源」の一括回収により、プラスチック資源の再資源化・ごみ減量の推進を図っていく方針です。本格導入の際は改めて周知いたしますので、ぜひご協力をお願いします。



リサイクル率の推移(令和元年度～令和5年度)



ごみ組成分析調査結果(事業系燃やせるごみ)

(平成27年度～令和2年度)

ごみ減量・リサイクルに関する事業所アンケート

【回答にあたってのお願い】

貴事業所の事業系一般廃棄物について回答してください。(産業廃棄物を除く)
市の内外に複数の事務所、工場、店舗等がある場合でも、アンケートが届いた事業所のみについて、ご回答をお願いします。

(貴事業所について)

問1. 貴事業所についてお尋ねします。当てはまる番号に○を付けてください (それぞれ1つ選択)。延床面積は、数値でお答えください (概数で結構です)。

項目	選択肢	
業種（複数ある場合は主要なもの1つ）	1. 農業・林業 3. 製造業 5. 情報通信業 7. 卸売・小売業 9. 宿泊・飲食サービス業 11. 医療・福祉 12. その他サービス業（具体的に：） 13. その他（具体的に：）	2. 建設業 4. 電気・ガス・熱供給・水道業 6. 運輸・郵便業 8. 金融・保険・不動産業 10. 教育・学習支援業
事業所の位置づけ・形態（主要なもの1つ）	1. 本社である 2. 支店、営業所である（本社は別にある） 3. 店舗、食堂である 4. 工場、作業所である 5. その他（具体的に：）	
事業所の入居形態	1. 自社の建物または単独で建物を賃借 2. テナントとしてビル等に入居 3. その他（具体的に：）	
従業員数（パート・アルバイト等を含む）	1. 10人未満 3. 20～39人 5. 60～99人	2. 10～19人 4. 40～59人 6. 100人以上
延床面積	平方メートル	

(貴事業所におけるごみの処理状況について)

問2. 貴事業所は住宅を併設していますか。該当する選択肢1つに○をつけてください。

1. 併設している ⇒問3へ
2. 併設していない ⇒問4へ
3. その他 () ⇒問4へ

問3. 【問2で「1. 併設している」と回答した方にお伺いします】

貴事業所から排出されたごみの排出方法について、該当する選択肢1つに○をつけてください。

1. 事業系ごみと家庭系ごみは分別して排出している
2. 事業系ごみと家庭系ごみを混合して排出している
3. その他 ()

問4. 【全ての方にお伺いします】

貴事業所のごみ処理体制について、該当する選択肢全てに○をつけてください。

1. 収集運搬許可業者と契約している ⇒問5へ
 2. 事業所自身で収集運搬している
 3. 町会の集積所に出している
 4. 事業所の敷地前に出している
 5. 入居している建物の管理会社等に任せているため分からない
 6. その他 ()
- 2~6の
いずれかを
選択された方
⇒問6へ

問5. 【問4で「1. 市の収集運搬許可業者と契約している」と回答した方にお伺いします】貴事業所が業者と契約している分別区分について、該当する選択肢全てに○をつけてください。

1. 可燃ごみ
2. 大型ごみ
3. 資源物
4. その他 ()

問6. 【全ての方にお伺いします】

貴事業所から排出されるごみの種類について、該当する選択肢全てに○をつけ、
排出量が多い上位3項目の番号とおおよその排出量を回答してください。

- | | |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 段ボール | } 1~4のいずれかを
選択された方
⇒問7にご回答ください |
| 2. 新聞・チラシ | |
| 3. OA用紙、雑紙、雑がみ（メモ用紙、紙袋、包装紙など） | |
| 4. 紙パック | |
| 5. 機密文書 | |
| 6. 資源化できない紙（複写伝票、シュレッダーにかけた紙など） | |
| 7. 木くず（剪定枝を除く） | |
| 8. 剪定枝 | |
| 9. 刈草 | |
| 10. 食品残さ（調理くず、古くなった食品、食べ残しなど）（10を選択された方）
⇒問8にご回答ください | |
| 11. 従業員が消費した飲料・食料のプラスチック容器
（11を選択された方）
⇒問9にご回答ください | |
| 12. その他（ ） | |

排出量の多いごみ上位3項目と排出量の回答欄

排出量	1番多い	2番目に多い	3番目に多い
ごみの種類の 項目番号			
おおよその排出量	kg／月	kg／月	kg／月

問7. 【問6で1~4のいずれか1つでも選択された方にお伺いします】

貴事業所では古紙類をどのように処理していますか。該当する選択肢全てに○
をつけてください。

- | |
|--------------------------|
| 1. 市の中間処理施設（焼却施設）に搬入している |
| 2. オフィス町内会を活用している |
| 3. 他のリサイクル業者に引き渡している |
| 4. その他（ ） |

(貴事業所におけるごみ減量・リサイクルに関する取組状況について)

問8. 【問6で「10. 食品残さ」を選択された方にお伺いします】

貴事業所では食品残さを減らすためにどのような取組を実施していますか。該当する選択肢全てに○をつけてください。

1. 規格外食材の販売や加工品への利用
2. 調理方法の工夫による歩留まりの改善
3. 少量メニューの導入やバラ売り販売
4. 値引き・ポイント付与による売り切り
5. てまえどりキャンペーン（商品棚の手前から積極的に選ぶ運動）への参加
6. 3010運動（宴会時の始まり30分と終わりの10分は、自分の席に座って料理を食べましょう等の運動）への参加
7. 料理の持ち帰り希望への対応
8. 期限間近の食品等を扱うマッチングアプリ「ひろさきタベスケ」の活用
9. フードバンク・こども食堂等への食品提供
10. 飼料・肥料・燃料等へのリサイクル
11. 特に何も行っていない
12. その他（ ）

問9. 【問6で「11. 従業員が消費した飲料・食料のプラスチック容器」を選択された方にお伺いします】

貴事業所では、プラスチックの減量・リサイクルのためにどのような取組を実施していますか。該当する選択肢全てに○をつけてください。

1. 使い捨てのプラスチック製品を使用しないようにしている
2. プラスチックの代替品がある場合にはそちらを選んでいる
3. 従業員にプラスチックごみを減らすよう教育している
4. 従業員にマイバッグやマイボトルの使用をすすめている
5. ペットボトルの使用を控えている
6. ペットボトルを分別している
7. ペットボトル以外のプラスチック容器を分別している
8. 特に取り組んでいない
9. その他（ ）

問10.【全ての方にお伺いします】

貴事業所では、ごみの減量・資源化のためにどのような取組を実践していますか。または今後取り組んでいきたいと考えていますか。項目ごとに①～③のうち1つ選び、○をつけてください。

項目	① 実践して いる	② 今後取り 組みたい	③ 取り組み たいと思 わない
1. ごみの発生抑制・資源化の具体的な目標を立て、ごみの減量に努める			
2. ペーパーレス化（文書の電子化など）			
3. 材料・素材をできるだけ再利用			
4. 事業所内でのごみ減量・リサイクルに関する普及・啓発（社員教育も含む）			
5. 事業所にごみ（廃棄物）の管理責任者を設置			
6. 事業所内でごみの分別を徹底			
7. ごみ減量やリサイクルを行う設備の導入			
8. オフィス町内会の活用や民間事業者（オフィス町内会以外）を活用したリサイクルの推進			
9. 環境マネジメントシステム*（ISO14001、エコアクション21など）の導入			
10. その他（ ）			

*:「環境マネジメントシステム」は、企業等が環境に配慮した事業運営を計画的・継続的に行うための仕組みです。詳しくは環境省ホームページ（二次元コードまたは下記URL）をご参照ください。
(<https://www.env.go.jp/policy/j-hiroba/04-1.html>)



問 11. 貴事業所でごみ減量・リサイクルを進めていく上で課題について、該当する選択肢全てに○をつけてください。

1. 分別作業等が手間である
2. 分別方法がわからない
3. 保管場所がない
4. 分別した資源の引き渡し先が確保できない、わからない
5. 減量やリサイクルを行うメリットがわからない
6. リサイクルする方が処理料金が高い
7. 従業員に周知・浸透させるのが大変である
8. その他 ()

(ごみ処理のルールや市の施策の周知度)

問 12. 以下のごみ排出・処理のルールについて、ご存じのもの全てに○をつけてください。

1. 事業所から排出されるごみには、一般廃棄物と産業廃棄物がある
2. 事業所から排出されるごみは、産業廃棄物、一般廃棄物ともに市が行う家庭ごみの収集に出すことはできない
3. 事業活動によって排出されるプラスチック類（食品トレー、包装プラスチック等）は産業廃棄物である
4. 事業所から排出される可燃ごみの中には、リサイクル可能なダンボールや新聞などの古紙類が多く混入されている
5. 弘前市の事業系ごみ排出量は、全国及び県と比べて多い状況が続いている

問 13. 市が実施しているリサイクルに関する取り組みについて、ご存じのものはどれですか。該当する選択肢全てに○をつけてください。

1. 事業系可燃ごみ（古紙類）の受入制限（焼却施設に搬入された事業系ごみの展開検査を隨時実施し、リサイクル可能なダンボールや書類などの古紙類が大量に混入されている場合に、排出事業者等に指導等を行う）
2. オフィス町内会の推進（排出事業者のもとに、回収事業者が回収便を運行し、一般古紙は「無料」、「機密文書」は「有料」で回収する仕組み）

(問 13 は次ページに続きます)

(問 13 の続き)

3. 事業系ごみ適正排出指導（ごみ排出ルールの確認、指導）
4. ひろさきタベスケ（フードシェアリングサービスを利用した食品ロスマッチング）
5. エコストア、エコオフィス認定制度（環境問題に積極的に取り組んでいる事業所を市が認定する制度）
6. てまえどりキャンペーン（スーパー等での食品廃棄の抑制を目的として、商品棚の手前から積極的に選ぶため、ポスター・ポップを掲示）
7. 3010 運動（宴会時の食べ残しによる食品ロス防止のため、始まり 30 分と終わりの 10 分は、自分の席で料理を食べきる啓発ポスター・ポップを掲示）
8. ごみ減量化・資源化の協定（市と市民団体や事業者と協定を締結）
9. 事業系ごみガイドブック等の配布

(今後の市の施策について)

問 14. 本市において事業系ごみの減量・リサイクルを進めていくためには、行政がどのような対策を実施する必要があると考えますか。該当する選択肢全てに○をつけてください。

1. ごみ処理手数料を高くする
2. 生ごみや紙といった廃棄物の種類ごとの減量・資源化制度を構築する
3. オフィス町内会の更なる推進を行う
4. 事業者向けの減量・リサイクルに関するマニュアルを作成する
5. 地域・商店街レベルでの減量・資源化制度を構築する
6. 優良業者（ごみの排出やリサイクルに関して積極的に取り組んでいる事業者）に対する認定制度を充実させる
7. ルールを遵守していない事業者へ（分別を守らない等）の指導強化
8. 一定規模以上の事業者に減量計画等の作成を義務付ける
9. 他の事業所で行われているリサイクル事例の紹介
10. 同業種・異業種間で、情報交換や取組の意見交換ができる場の提供
11. ごみ減量・リサイクルの推進に役立つ情報提供の充実
12. わからない
13. その他（ ）

問 15. ごみ減量やりサイクルについて、市から事業所の皆様へ情報提供を行う場合、どの媒体が利用しやすい（伝わりやすい）ですか。特に利用しやすいと思うものを3つまで選び、番号を○で囲んでください。

1. 広報ひろさき
2. 市役所のホームページ
3. 事業系ごみガイドブック・事業系ごみ分類早見表
4. 上記以外のチラシや冊子
5. 新聞
6. テレビ、ラジオ
7. メール配信
8. スマホアプリ
9. SNS (LINE、X (旧 Twitter)、Facebook)
10. その他 ()

(その他（市の施策に対するご意見等))

問 16. 本市のごみ行政における課題・問題点、今後の方向性等についてご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

本調査票を返信用封筒に入れ、令和7年9月26日(金)までにご投函くださいますようお願いいたします（切手は不要です）。